して使用された可能性が考えられる。一辺に緩やかな繰り込みが認められ、左右に方形の穿孔がなされている。そのうち、２つ並んだ方形穿孔の間は若干の窪みがあり、何らかの別部材を挿入していた可能性が考えられる。２は杭と考えられる木製品で、調整痕が認められる。先端部は尖らず面を持つ。反対側の上部付近には僅かにくびれが見られ、別の部材が付加された可能性も考えられる。３は垂木等の建築部材と考えられる。一方がくびれて宝珠状の突起部を形成する。４は曲物等の容器の底板に相当するものと考えられる。５は不明木製品であるが、一部に稜線が認められ、工具痕跡も認められる。６は用途不明の板材である。工具痕跡等は見られない。122-１・２・５・６は４層包含層から出土しており、弥生時代～古墳時代に属するものと考えられる。その他は３層包含層からの出土であり、中世後半～近世に属するものと考えられる。

３．出土土器一覧について（第123～125図・表１）

中野美保遺跡から出土した土器は、第123～125図の分類に準じてその総数を表１にまとめた。第123図は弥生時代中期を除く、弥生時代前期と弥生時代後期～古墳時代中期までの代表的な土器を掲載した。第124図は、中野美保遺跡Ⅷ区で集中的に出土した弥生時代中期の代表的な土器を掲載した。第125図は古墳時代後期以降の代表的な須恵器と土師器を掲載した。なお、須恵器の蓋坏はその形状により、以下のように便宜的に分類している。

蓋Ⅰ類　口縁部の内側にかえりを持つ。

蓋Ⅱ類　口縁端部が下方に屈曲する。

蓋Ⅲ類　口縁部付近で緩やかに屈曲し、端部はⅡ類のようには屈曲しない。

坏Ⅰａ類　高台を持ち、体部は緩やかに湾曲する。

坏Ⅰｂ類　高台を持ち、体部は直線的に口縁部に至る。高台は体部と底部の境からやや内側の位置に付く。

坏Ⅰｃ類　高台を持ち、体部は直線的に口縁部に至る。高台は体部の延長上にある。

坏Ⅱａ類　高台を持たず、体部は直線的に口縁部に至る。

坏Ⅱｂ類　高台を持たず、体部は緩やかに湾曲して口縁部に至る。口縁端部は丸みを持つ。口縁端部が僅かに内傾するものと、僅かに外反してくびれるものがある。

須恵器の蓋の形態は８世紀代を通して、Ⅰ類からⅢ類へと推移する。同じく、須恵器の坏は高台の有無に関わらず、概ね８～９世紀代にかけて体部が緩やかに湾曲する形態から、直線的な形態へと推移する。赤彩土師器の坏については、分類上は体部の「直線的なもの」と「湾曲するもの」の２種に分けているが、後者は「椀」になるものが含まれている。しかし、細片が多くその形状が判断できないため、一覧表では一部、一括して「坏」として集計している。

以上、表１は第123～125図の分類に準じて、それぞれ掲載数と非掲載数が記されている。

第6節　小　結

1．調査区内の旧地形について

調査区内の旧地形を復元するため、次の２点に留意した。①地山、あるいは弥生時代後期の遺構面（地形）の傾斜の有無を確認する。②中世水田下層の包含層である３層と４層の厚みと遺物出土総数を把握する。

その結果、第12図に見られるように、調査Ⅰ～Ⅳ区には地山面から南に向かって地形の傾斜が確認することが出来た。また、その傾斜に由来する包含層（４層）からは、弥生時代前期～後期と古墳時代前半期を中心とする遺物が、断片的な調査範囲からではあるが、多数確認されている。一方、Ⅴ区では弥生時代に遡る水田遺構が存在する可能性を花粉分析の結果が示しいる。Ⅵ区の北東部、Ⅶ区、Ⅷ区では地山面が広がっており、弥生時代中期中葉～後期後葉までの遺構が確認されている。特に弥生墳丘墓を検出したⅦ区と弥生中期中葉～後葉の複数の遺構が検出されたⅧ区では、３層の包含層遺物の総量が他の区を凌ぎ、Ⅷ区では古代末を中心とする建物群も複数検出されている。また、Ⅵ区では３層の包含層堆積遺物は少ないが、古代に属すると考えられる建物が２棟検出されている。

このことから、調査区全体を見た場合、調査区の北側に位置するⅦ・Ⅷ区の範囲、及び西側に位置するⅥ区の一部（北側）が、弥生時代中期から中世後半に水田化するまでの期間、微高地等に相当する安定した場所であった可能性が考えられる。もし仮にそうなら、Ⅶ区で重なるように検出された時代を違える２つの弥生墳丘墓は、微高地の先端に選地されて営まれた可能性も考えられる。

また、この微高地が何に由来するかについては、斐伊川が日本海に向けて西流していた近世以前の、旧支流の自然堤防に相当するものと考えられる。第２図の敗戦直後の旧地図によると、水田地帯が広がる出雲平野中央部において、地図上部に西に向けてカーブする道の両端に、住宅が帯状に営まれている様子が窺える。また、中野美保遺跡の調査範囲の北約100ｍの地点にも東方向から緩やかに北西方向に延びる道に沿って住宅が営まれている。さらに、水田地割にもこれらに沿って緩やかにカーブする場所が見られる。

これらは近世以前における旧河道に伴う自然堤防の最後の名残と考えられる。もちろん、中野美保遺跡の時代（弥生～古代末）とは大きく隔絶してはいるが、中野美保遺跡の調査所見の１つの参考になり得る。

最後に、Ⅷ区において弥生時代中期の遺構面の下層を確認したところ、砂やシルト層のラミナ構造が観察された。このことから中野美保遺跡に人々が暮らせる安定した状態が本格的に形成されるのは、弥生時代中期以降の段階と考えられる。なお、各調査区の４層からはⅠ－４様式（弥生時代前期後葉）の土器片が僅かながら検出されている。洪水等の自然的制約により、遺構・遺物が検出されにくい状態になったという結果も考えられるため、人々の営みが前期に遡る可能性も十分視野に入れておきたい。

2．Ⅷ区出土の弥生土器について

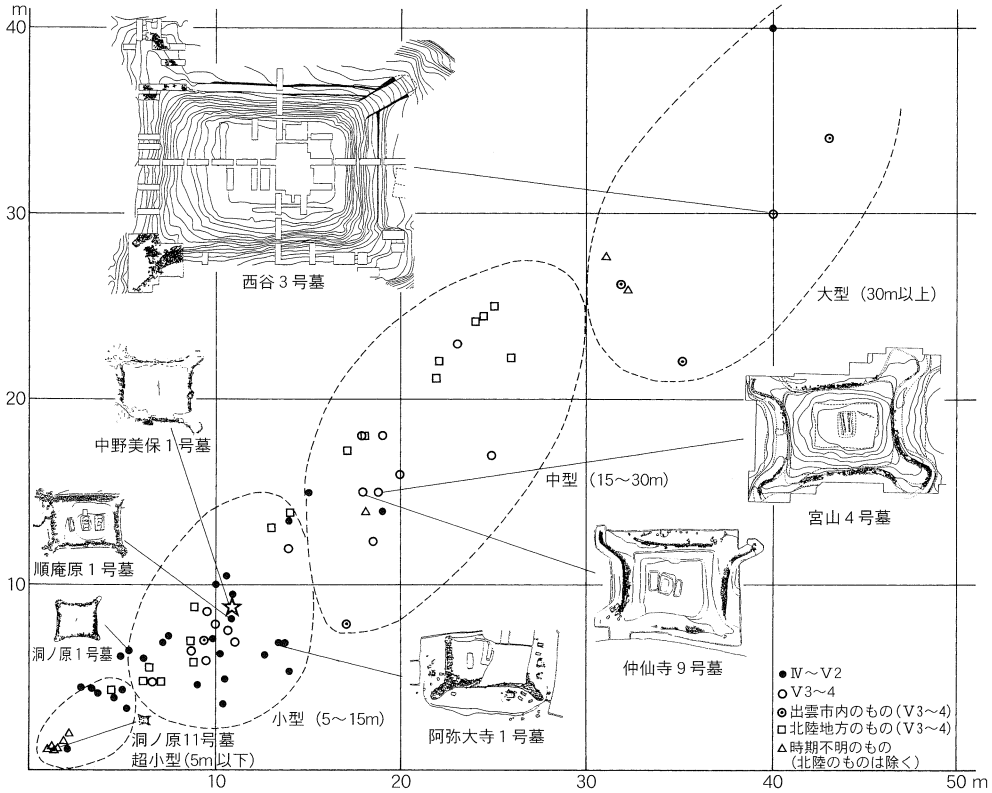
Ⅷ区からはⅢ－１～Ⅳ－１様式（弥生時代中期中葉～後葉）の弥生土器が多数検出されており、器種も多岐に渡り、完形に近い良好なものも比較的まとまって出土している。これらの大半が性格

不明の不整形な土壙埋土から検出されたものであり、一括性の高い遺物群も含まれている。概ねⅢ様式とⅣ様式の二者に分類される土器は、一括性の高い遺物群を検出した遺構も含めて、混在した状況で検出されている。これらは、複数の遺構が重なり合った結果に生じた「混入」として、位置付けられる可能性もある。しかし、このような一括遺物の存在については、近年増加する出雲平野内の弥生時代遺跡の調査報告書においても指摘されている[註13)]。

Ⅷ区において一括性が高い遺物群を検出した遺構は、SX06・SX13・SX24の３つになる。各遺構の詳細は先に報告したが、これらの遺構の特徴は完形に近い状態で、ほぼ同一の埋土から集中して検出されたものである。SX06・SX24からは、先に述べた焼成失敗品やその可能性の高いもの、あるいは焼成が不良のものが検出されているため、土器を一括廃棄した遺構と考えられる。このような、Ⅲ～Ⅳ－１様式の土器が一括して混在する遺構に関しては、資料の蓄積を待つまで「土器様式の移行期」[註14)]という評価が現状ではもっとも妥当なものと考えられる。いずれにせよ近い将来、土器の器種構成や土器生産の問題と絡めて、遺跡間の土器資料を相互に比較検討する必要があろう。

３．中野美保１号墓について

中野美保１号墓は山陰地方の沖積地において初めて検出された四隅突出型墳丘墓である。この墳墓が出雲平野の沖積地に位置する一集落群から検出された意義は大きい。１号墓の存続期間中には、出雲平野を眼下に望む南部の低丘陵地帯に、弥生時代後期後葉の山陰最大規模の四隅突出型墳丘墓群（西谷墳墓群）が営まれていた。弥生時代中期から出雲平野の各地域に、爆発的に増加した集落群を束ねた歴代首長層の造墓地と考えられるこの墳墓群と、その眼下の集落群との関係に具体的な考古資料が提示されたものと言えよう。すなわち、墳墓資料から見る限り、両者にはその規模や貼



第126図　四隅突出型墳丘墓の規模（墳丘墓はＳ＝１／600）

石・立石などの墳端表飾に歴然とした差が存在する。これを首長層の階層差の反映とする考えには大筋で同意を得られるものと考える。中野美保１号墓と時間的に併行関係にある西谷墳墓群の一部と、他地域の四隅突出型墳丘墓の諸関係（規模と時間軸）は、第126図を参照して頂きたい。

また、中野美保１号墓は出雲平野北東部の北山山麓の扇状地に位置する同時期の青木遺跡検出の四隅突出型墳丘墓とも比較検討する必要がある。中野美保遺跡から青木遺跡までは直線距離にして約２㎞という近距離である。集落間の交流、墓制意識の共通性なども検討対象になる。出雲平野という一地域において、中野美保１号墓は墳墓資料として単独で扱われるのではなく、各集落との位置関係を始め、他の考古資料との複合的な検討が可能な資料として期待される。

４．中野美保２号墓について

中野美保２号墓は中野美保１号墓の墳丘内部より検出された（Ⅲ－１～２様式）弥生時代中期中葉の方形貼石墓である。時間を隔てた形態の異なる墳丘墓が、重なり合うように検出された希な事例である。その必然性については、可能性として自然堤防等に由来する微高地先端への選地を指摘した。

中野美保２号墓は出雲平野部において当該期の弥生墳丘墓が検出された初例である。東に隣接するⅧ区からは、弥生時代中期の土器と土壙が多数検出されており、この時期にはある程度の規模の集落が営まれていたことが類推される。

一方、島根県東部から鳥取県全域の日本海沿岸部における弥生時代中期中葉に遡る方形貼石墓の実態は、弥生時代中期後葉～後期初頭の断片的な資料でしか掴めていなかった。中野美保２号墓は当該期の墓制と弥生時代後期の墓制を考える上で、１つの貴重な資料となる。この点に関しては、第６章にその見通しを記している。なお、中野美保１号墓と同じく貼石・立石に使用された石材は共通しており、島根半島の北山山麓に由来する岩石である可能性が指摘されている[註15)]。

５．中野美保遺跡の継続期間

中野美保遺跡に人々の営みの痕跡が本格的に見られるのは、出雲平野において、弥生集落が増加する中期以降である。

田中義昭氏は出雲平野の弥生集落を遺構・遺物から総合的に捉え、その立地から弥生集落を８つの群に分類した[註16)]。この分類に従えば、中野美保遺跡はその立地から第４群に位置付けられる。この第４群の集落群の実態解明に対しては、出雲バイパス改築工事に伴う調査の結果、墳墓資料を伴う遺構資料と遺物資料が飛躍的に増加しており、本格的な検討が行える段階に来たと言える。

調査結果から窺える弥生時代における中野美保遺跡の隆盛は、弥生時代中期中葉～後葉を１つのピークとする。その後、弥生時代後期後葉までは遺物の出土量は減少するものの、墳墓が確認できることから、人々の営みは継続している。同じく、弥生時代後期後葉～古墳時代初頭前半の様相を示す土器類が、地形の傾斜が見られる包含層堆積層に比較的まとまって出土している。このことから、遺構は確認できなかったものの、人々の営みは周辺地で継続しているものと考えることが出来る。特に、中野清水遺跡から当該期の遺物が大量に検出されていることには留意しなければならない。

古墳時代後半期～終末期には遺物量が減少するものの、再び、８～12世紀代の包含層遺物が増加

し、建物址などの遺構が検出される。すなわち、中野美保遺跡では遺構・遺物の様相に濃淡はあるものの、弥生時代中期中葉～中世まで人々の営みの痕跡が見られる。ただし、調査区内で検出される遺構が時代により偏りがあることから、遺構居住域などの人々の生活空間は時代によって周辺地域内を移動している可能性が推測される。これは、沖積地で繰り返される河川の氾濫や流路の移動に伴う自然環境の制約に起因するものと考えられる。

調査区内から判断される最終的な中野美保遺跡の姿は、中世のある段階には水田化し、近世まで継続する実態である。その後、近年の市街化に伴う開発が行われるまで、周辺は水田地帯としての名残を留めていた。

註１）「至道元宝」は北宋の太祖、初鋳995年、本銭の字体は真書・行書・草書の三種類存在する。本遺跡出土のものは行書である。
「永楽通宝」は明の成祖、初鋳1408年
永井久美男編1996『日本出土銭総覧　1996年版』兵庫埋蔵銭調査会
「無文銭」は是光分類のＢ－Ⅰ－１類に相当する。島根県内においても、16～17世紀代の無文銭が複数の遺跡で出土していることが報告されている。
是光吉基1993「国内出土のいわゆる「無文銭」について」『考古論集－潮見浩先生退官記念論文集－』潮見浩先生退官記念事業会
目次謙一2002「石見銀山遺跡の出土無文銭について」『石見銀山関係論集』島根県教育委員会

註２）島根県教育委員会2002『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報Ｘ　平成13年度』
島根県教育委員会2003『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報ＸⅠ　平成14年度』

註３）島根県教育庁埋蔵文化財調査センター角田徳幸氏の御教示による。
島根県教育委員会2004『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報ＸⅡ　平成15年度』

註４）島根県教育委員会2003『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14　史跡出雲国府跡　１』
柳浦俊一2001「島根県東部（出雲）の切り離し技法と長頸壺頸部接合技法」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東６　須恵器の製作技法とその転換－』古代の土器研究会　第６回シンポジウム

註５）中野美保遺跡で検出された土製支脚は非掲載分を含めて、68片が存在する。そのうち、岩橋分類による形態的特徴の判明するものは、８片である。すなわち、脚部に穿孔のあるもの５片（うち２片は２方向突起があり、穿孔が貫通しない岩橋Ⅰｃ類）、３方向に突起のある岩橋Ⅱ類が３片（うち１片は背面の突起のみ）である。
岩橋孝典2003「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』第11集　島根県古代文化センター

註６）松山智弘2002「出雲における墳墓の変遷」『神原神社古墳』加茂町教育委員会

註７）東京都立大学　山田昌久氏のご教示による。

註８）京都大学木質科学研究所　伊東隆夫氏の同定による。

註９）これに類似する土器が、出雲市所在の白枝荒神遺跡からも出土している。また、北部九州のものでは福岡市所在笠抜遺跡の貯水遺構出土の多数の丹塗土器が参考になる。
出雲市教育委員会1997『白枝荒神遺跡』
出雲市教育委員会2002『白枝地区ふるさと農道整備事業に伴う発掘調査報告書　白枝荒神遺跡井原遺跡』
福岡市教育委員会2003『外環状道路関係文化財発掘調査報告書18　笠抜遺跡－第１・２次調査報告－　福岡市埋蔵文化財調査報告書第752集』

註10）出雲市教育委員会坂本豊治氏に、焼成失敗品の可能性が高い出土遺物が見られるとの御指摘を受けた。その後、愛媛大学の田崎博之氏に御指導を頂きながら、坂本氏と調査担当者２名の計４名でその分類と選別を行った。

註11）田崎博之2002「焼成失敗品からみた弥生土器の生産と供給」『環瀬戸内海の考古学』
－平井勝氏追悼論文集－古代吉備研究会

註12）註11に同じ。

註13）註９出雲市教育委員会2002に同じ。

註14）註13に同じ。

註15）中村唯史氏に中野美保１号墓・２号墓の墳丘、１～３号集石遺構に関係する全ての石を対象に現地で実見して頂いた。その結果、安山岩・閃緑岩・流紋岩系の岩石が主体を占めることを指摘された。また、殆どのものが丸みを帯びたものであることから、山裾の沢で露出している礫であることを指摘された。その産出地については安山岩系の山塊である島根半島の北山山麓に由来する可能性を挙げられた。ただし、全ての岩石に対して、岩石内部の組成観察や岩石自体の計測等の統計的手続きを踏んでいないため、ここでは可能性が高いという指摘に留めておく。

註16）田中義昭1996「中海・宍道湖岸西部地域における農耕社会の展開」『出雲神庭荒神谷遺跡』島根県教育委員会

第５章　自然科学的分析

第１節　島根県、出雲バイパス建設地内遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

１．試料と方法

試料名	種類	備　考	前処理・調整	測定法
No.1	竹	Ⅲ区出土	酸－アルカリ－酸洗浄，ベンゼン合成	Radiometric

※Radiometricは液体シンチレーションカウンタによるβ（ベータ）線計数法

試料名	種類	備　考	前処理・調整	測定法
No.2	木材	Ⅶ区出土木製品（保存処理品）	酸－アルカリ－酸洗浄，セルロース抽出，石墨調整	AMS
No.3	木材	Ⅷ区出土井戸枠木	酸－アルカリ－酸洗浄，ベンゼン合成	Radiometric

１）Radiometricは液体シンチレーションカウンタによるβ（ベータ）線計数法
２）AMSは加速器質量分析法：Accelerator Mass Spectrometry

２．測定結果

試料名	測定No.（Beta-）	^{14}C年代（年 BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年 BP）	暦年代（西暦）
No.1	180130	200±50	−29.9	120±50	交点：cal AD 1690，1730，1810，1920 1σ：cal AD 1680～1770，1800～1940 2σ：cal AD 1660～1950
No.2	184027	180±30	−23.0	210±30	交点：cal AD 1660 1σ：cal AD 1660～1670，1770～1800 2σ：cal AD 1650～1680，1740～1810
No.3	184028	1210±60	−23.4	1240±60	交点：cal AD 780 1σ：cal AD 690～880 2σ：cal AD 660～960

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

2）δ^{13}C（デルタ）測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（シグマ）（68％確率）と2σ（95％確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

3．考察

放射性炭素年代測定の結果、№1の竹では120±50年BP（1σの暦年代でAD1680～1770，1800～1940年）、№2の木材では210±30年BP（1σの暦年代でAD1660～1670，1770～1800年）、№3の木材では1240±60年BP（1σの暦年代でAD690～880年）の年代値が得られた。なお、各試料とも放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の暦年代較正曲線が不安定なためである。

文献

Stuiver, M., et. al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.
中村俊夫（1999）放射性炭素法．考古学のための年代測定学入門．古今書院，p.1-36.

第２節　中野美保遺跡出土木製品の樹種

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント）・古野　毅（島根大学総合理工学部）

はじめに

中野美保遺跡は島根県東部、出雲市中野町地内に立地する遺跡である。

本報告では、奈良時代の用材についての基礎資料とする目的で、検出された建物群の柱根および木製品を対象に樹種鑑定を行った。また本報告は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した委託業務報告書を簡略化したものである。

試料について

樹種鑑定を行った試料の一覧を表１に示す。表１には、同時に鑑定結果も示してある。

永久プレパラートは渡辺（2000）に従い作成した。また作成した永久プレパラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント㈱にて保管管理をしている。

作製した永久プレパラートを、光学顕微鏡下で40倍～600倍の倍率で観察し記載を行った。記載にあたって同一分類群は一括して記載し、代表的な試料の３断面の顕微鏡写真を付けた。また用語などは基本的に島地ほか（1985）に従った。

樹種の鑑定結果と記載

表１に鑑定結果を示し、各分類群毎に記載を行った。

①　スギ *Cryptomeria japonica* D. Don

試料№：２，３，４

記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は広い。樹脂細胞は主に晩材部に分布している。また、分野壁孔はスギ型で２～３個存在することなどから、スギと同定した。

②　イヌエンジュ属 *Maackia* sp.

試料№：１

楕円形で長径200～300μm程度の道管が孔圏に単独で１～５列に配列する環孔材である。孔圏外への移行はゆるやかで、径30～50μ程度の小道管が放射方向あるいは不規則に房状に集合し、散在している。道管せん孔は単せん孔で、小道管にはらせん肥厚が認められる。また、道管内にチロースが認められる。放射組織は全て平伏細胞から成る同性型であり、１～８細胞幅で高さは１～２㎜に達するが５～８細胞幅の比較的大きさの揃った紡錘形の放射組織が顕著である。軸方向柔細胞は周囲状である。以上の組織上の特徴から、イヌエンジュ属と同定した。

用材についての特徴

島地・伊東（1988）によれば、「柱」として記載されている804点のうち、62点がスギ材である。最も記載が多いのはヒノキの266点で、コウヤマキの113点に次ぐ量である。しかし、ヒノキ、コウヤマキの多くが平城京の関連であることを考慮すれば、スギは「柱」として一般的に用いられたと考えられる。一方、島根県内では「柱」としてクリの用例が多いようであり（渡辺，2003）、タラ

ノキ属の使用は例がない。今後、建物の種類に等による用材の違いなどを要素として考えていく必要が指摘できる。

「井戸枠」94点のうちスギ37点、ヒノキ20点など針葉樹が用いられることが多く（島地・伊東，1988)、今回の結果（スギ）もこれを追従するものであった。島根県内では益田市の三宅御土居跡で木組井戸隅柱（文化財調査コンサルタント㈱，2001)、出雲国府跡で井戸枠（渡辺・古野，2003）としてスギが記載されている。

引用文献

島地　謙・伊東隆夫　編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．296p．雄山閣，東京．

島地　謙・佐伯　浩・原田　浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．276p．文永堂，東京．

渡辺正巳（2000）長原遺跡東北地区東調査地出土木質遺物の樹種鑑定．長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅲ-1997年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書-，247-249，財団法人大阪市文化財協会．

文化財調査コンサルタント㈱（2001）三宅御土居跡出土木製品の樹種．（内部資料）

渡辺正巳・古野　毅（2003）出雲国府跡出土柱根・木製品の樹種(1)．史跡出雲国府跡-1-，風土記の丘地内遺跡発掘調査報告，14，199-208．

表1　樹種鑑定結果一覧表

試料番号	整理番号	樹種名	遺構（取上番号）	種　別	備　　考
1	W03070401	イヌエンジュ属	NMⅧ区建物1Pit4	柱根	古代～中世
2	W03070402	スギ	NMⅧ区建物1Pit6	柱根	古代～中世
3	W03070404	スギ	NMⅧ区井戸72-1	井戸枠	古代～中世
4	W03070403	スギ	NMⅧ区井戸72-2	井戸枠	古代～中世

第３節　中野美保遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント㈱）

はじめに

中野美保遺跡は、島根県中部、出雲市中野町美保に分布する。

本報は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが遺跡周辺の植生変遷、堆積環境変遷などの古環境変遷を推定するために、文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した調査報告書の概報である。

また、本報では花粉分析、珪藻分析およびプラント・オパール分析について述べている。

分析試料について

図１に調査区の配置および試料採取地点を示す。各調査区の模式柱状図および分析試料採取層準を、各分析結果を示したダイアグラム左端の柱状図右側に示した。各調査区での試料採取地点と試料№の関係は、以下の通りである。Ⅰ区で採取した試料のうち西壁の試料を試料№1-×、深堀南壁の試料を試料№2-×と示している。Ⅲ区で採取した試料のうち西壁の試料を試料№1-×、深堀南壁の試料を試料№2-×、ボーリングの試料を№B×と示している。Ⅵ区で採取した試料のうち東壁の試料を試料№×、ボーリングの試料を№B×と示している。

分析方法

花粉分析処理は渡辺（1995）に、珪藻分析処理は鹿島（1985）の過酸化水素水処理法に、プラント・オパール分析処理は藤原（1976）のグラスビーズ法に従い行った。

分析結果

各分析結果を図２～11の各ダイアグラムに示す。

図２～４の花粉ダイアグラムは計数した木本花粉を基数にし、各々の木本花粉、草本花粉について百分率で表した。また検出数の少ない試料では、出現した種類を「＊」で示した。さらに花粉ダイアグラム右側に、「針葉樹花粉」、「広葉樹花粉」、「草本花粉」に「胞子」を加えた総合ダイアグラムを示している。総合ダイアグラムでは、計数値の合計を基数にそれぞれの百分率を算出し、累積百分率で示してある。

図５、７の珪藻ダイアグラムでは計数した珪藻遺骸殻総数を基数にして、各々の種類について百分率で表した。また検出数の少ない試料では、出現した種類を「＊」で示した。

図６、８の珪藻総合ダイアグラムでは、同定した全ての種類を対象に、それぞれの生息域毎にまとめて百分率で示したものである。

図９～11のプラント・オパールダイアグラムでは、１gあたりの含有数に換算した数を、検出した種類毎に示した。

花粉分帯

花粉組成の特徴から、以下のように地域花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、

本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料№も下位から上位に向かって記した。

(1) Ⅴ帯：Ⅲ区試料№B26～B19

ハンノキ属の他、アカガシ亜属、コナラ亜属、マツ属（複維管束亜属）が他の種類に比べやや高率を示す。草本花粉の割合が低く、胞子の割合がきわめて高い。

(2) Ⅳ帯：Ⅵ区試料№B40

スギ属が卓越するほか、アカガシ亜属、コナラ亜属が他の種類に比べやや高率を示す。草本花粉の割合はやや低く、胞子と同程度である。

(3) Ⅲ帯：Ⅲ区試料№B10～2-6、Ⅵ区試料№B36～B1

スギ属が卓越するほか、アカガシ亜属、マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が他の種類に比べ高い出現率を示す。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が卓越するほか。カヤツリグサ科、イネ科（40ミクロン未満）、ヨモギ属も高率を示す。

(4) Ⅱ帯：Ⅰ区試料№2-1～1-3、Ⅲ区試料№2-5～1-5、Ⅵ区試料№13～3

マツ属複維管束属が他の種類に比べ高い出現率を示すほか、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属も他の種類に比べやや高い出現率を示す。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が極めて高い出現率を示す傾向にある。

(5) Ⅰ帯：Ⅰ区試料№1-2～1-1、Ⅲ区試料№1-4～1-1、Ⅵ区試料№2～1

マツ属複維管束属が卓越するほか、コナラ亜属、アカガシ亜属、スギ属が他の種類に比べやや高い出現率を示す。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が極めて高い出現率を示す傾向にある。

珪藻分帯

珪藻組成の特徴から以下のように各地点毎に地域珪藻帯を設定した。以下に各珪藻帯の特徴を示す。また、本文中では珪藻組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料№も下位から上位に向かって記した。

(1) Ⅲ区

①3-Ⅴ帯：試料№B26～B19

汽水種が10～20％程度を占めるほか、すべて淡水種である。淡水種では*Cymbella tumida* などのアルカリ・止水・底生種や、*Epithemia adnata* などのアルカリ・不定・底生種が卓越傾向にある。

②3-Ⅳ帯：試料№B16～B10

汽水種が40％程度を占めるほか、すべて淡水種である。淡水種では、*Epithemia turgida* などのアルカリ・止水・底生種や、*Cocconeis placentula* などのアルカリ・不定・底生種が卓越傾向にある。

③3-Ⅲ帯：試料№B8～B1

汽水種が40～20％で減少傾向を示す。そのほかはすべて淡水種である。淡水種では、*Cocconeis placentula* などのアルカリ・不定・底生種や、*Epithemia turgida* などのアルカリ・止水・底生種が卓越傾向にあるが、*Hantzschia amphioxys* などのアルカリ・不定・陸生種が特徴的に検出される。

④3-Ⅱ帯：試料№2-6

汽水種の割合は７％に過ぎず、他は淡水種である。淡水種では酸性・不定・底生種の *Pinnularia nodosa* が特に高率で検出される。

⑤3-Ⅰ帯：試料№2-5～2-1

淡水種がほぼ100％を占める。特に、*Pinnularia nodosa* などの酸性・不定・底生種や、*Cymbella cuspidata* などの不定・不定・底生種が卓越傾向にある。

⑵　Ⅵ区

①6-Ⅲ帯：試料№B40

汽水種が15％を占めるほかは、すべて淡水種である。淡水種ではアルカリ・底生種が卓越傾向にある。

②6-Ⅱ帯：試料№B36～3

淡水種が100％近くを占める。*Amphora ovalis* などのアルカリ・止水・浮遊種、*Cymbella cuspidata* などの不定・不定・底生種が卓越傾向にある。

③6-Ⅰ帯：試料№1

淡水種が99％を占める。*Cymbella* 属や、*Pinnularia* 属、*Stauroneis* 属などの底生種が卓越する。

古環境変遷

ここでは、花粉帯毎に遺跡周辺の古環境を推定する。

⑴　Ⅴ帯期（弥生時代後期以前、縄文時代晩期以降）

①年代観（従来の分析結果との比較）

花粉化石の含有量が少ないものの、Ⅴ帯とした３試料の花粉組成はよく似ている。

ここではハンノキ属花粉が特徴的に検出されるが、ハンノキ属花粉は局地的に高率になる傾向があり、地域間の対比要素と成りがたい。Ⅴ帯で特徴的に検出された花粉化石のうち、中海・宍道湖沿岸で縄文時代早期以降の示準化石として用いることのできる種類は、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属である。特にスギ属が高率を示す時期は、中海・宍道湖沿岸では縄文時代晩期以降と考えられる（渡辺，投稿中）が、出雲平野西部では現在のところ明確な年代が得られていない。

以上のことから、今回のⅤ帯が縄文時代晩期以降の植生を反映している可能性が指摘できる。一方で、出雲平野西部での縄文時代以前の花粉分析資料の蓄積により、この年代観が動く可能性もある。

②堆積環境

花粉帯のⅢ帯最下部（珪藻帯の3-Ⅳ帯最上部）のⅢ区試料№B10直上（７層上面）が弥生時代中期から後期の遺構面と考えられている。Ⅲ区試料№B10は花粉組成上Ⅲ帯に含まれるが、堆積物の粒度、珪藻化石帯から考えると、下位から一連の作用により堆積したものである可能性が高い。

珪藻帯の3-Ⅴ、Ⅳ帯が相当する。汽水棲珪藻が比較的高率を占めることから、斐伊川が「神門水海」（あるいは「古宍道湖（湾）」）に流入することで形成された「網状デルタ」末端の堆積物である可能性が指摘できる。一方で、後背の布志名層に含まれていた珪藻化石の二次堆積である可能性も否定できず、斐伊川の自然堤防堆積物であると考えることもできる。

③古植生

卓越傾向にある数種類のうち、ハンノキ属花粉は局所的に高率を示す傾向にある。このことから、調査地点近辺の湿地にハンノキ林が分布していた可能性が指摘できる。

アカガシ亜属、コナラ亜属は一般的な森林構成樹種であり、アカガシ亜属は極相林としての照葉

樹林を、コナラ亜属はクマシデ属－アサダ属などを伴って二次林としての温帯落葉広葉樹林を形成していたと考えられる。これらの森は、デルタ周辺から中国山地、北山山地にかけて広がっていたと考えられる。

ニレ属－ケヤキ属はいわゆる「河畔林」、「自然堤防林」の要素であり、デルタ内の自然堤防上などに小規模な林を形成していたと考えられる。

スギ属の生態については知られていないことが多いが、デルタ上や中国山地、北山山地の谷筋で滞水していない場所に生育していたと考えられる。

草本花粉は、調査地点近辺の植生を示していると考えられ、水辺の滞水する場所にはイネ科やカヤツリグサ科、オモダカ属、セリ科の草花が、滞水しない場所にはキク科（キク亜科、ヨモギ属、タンポポ亜科）やアカザ科－ヒユ科の草花が生育していたと考えられる。

(2) Ⅳ帯期（弥生時代後期以前、縄文時代晩期以降）

①年代観（従来の分析結果との比較）

弥生時代後期頃の植生を示すⅢ帯の下位に位置する。また、層相からⅤ帯を形成する砂層をベースとしていると考えられる。

Ⅴ帯で述べたように、スギ属が高率を示す時期は、中海・宍道湖沿岸では縄文時代晩期以降と考えられる（渡辺，投稿中）が、出雲平野西部では現在のところ明確な年代が得られていない。

以上のことから、今回のⅣ帯は、Ⅴ帯同様に弥生時代後期以前、縄文時代晩期以降の植生を反映している可能性が指摘できる。

②堆積環境

腐植に富む細粒堆積物であり、湿地での安定した堆積が示唆される。

珪藻帯では6-Ⅲ帯が相当し、汽水棲珪藻が比較的高率を示すことから「神門水海」（あるいは「古宍道湖（湾）」）沿岸の小湿地で堆積した可能性が示唆される。ただし、後背の布志名層に含まれていた珪藻化石の二次堆積である可能性も否定できず、斐伊川の後背湿地堆積物であると考えることもできる。

③古植生

スギ属花粉が卓越し、アカガシ亜属、コナラ亜属などが低率になることから、調査地点に近いデルタ上でのスギ林の分布が示唆される。

湿地内には、イネ科、カヤツリグサ科などの草花が生育していたと考えられる。

(3) Ⅲ帯期（弥生時代後期頃）

①年代観

7層上面に方形貼石墓および四隅突出墓が造成されており、弥生時代中期中葉以降に陸域が安定して存在していたと考えられる。Ⅲ区では花粉化石の含有量が少なかったもののスギ属が高率を示し、Ⅵ区でも豊富な含有量の中でスギ属が高率を示す。これらのことは、渡辺（印刷中）で示されたスギ属が高率で検出される時期と矛盾しない。

②堆積環境

1）Ⅲ区

試料№B10は７層最上部に位置する。花粉化石の含有量が少ないうえに木本花粉の割合が低く、草本花粉、胞子の割合が高い。また、微粒炭が多量に含まれていた。このような含有物の特徴は、土壌化作用を受けたことを示唆する。

上位の６、５層は細粒であるが、下位の試料№B10同様に花粉化石の含有量が少なく、草本花粉、胞子の割合が高く、微粒炭も多く検出される。このことから、下位の試料№B10同様に土壌化作用を受けたことが示唆される。また、珪藻帯では3-Ⅲ帯が相当する。珪藻化石の含有量は少ないが、陸棲珪藻が特徴的に検出される。本層準堆積時に乾燥環境が隣接していた可能性もあるが、土壌化に伴い混入した可能性も指摘できる。

４層は花粉組成、珪藻帯組成ともに上下の移行的な組成を示している。このことは、３層堆積時に５層が擾乱を受けたことに由来すると考えられる。

したがって６～４層は、土壌化作用を受けながら堆積したものであると考えられる。

2）Ⅵ区

Ⅲ区と一転して、腐植質に富む細粒の堆積物が続き、後背湿地での堆積が示唆される。

花粉組成のうち、草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率で出現し、調査地点、あるいは近辺で水田耕作が行われていたことが示唆される。

珪藻組成では6-Ⅱ帯が下部が相当する。底生珪藻が卓越し、沼沢湿地での堆積が推定される。水田は人工的な沼沢湿地であり、調査地点が水田であったとしても矛盾しない。

したがって弥生時代後期頃に、Ⅲ区には人が日常に生活する陸域が広がり、Ⅵ区に水田など耕作域、あるいは沼沢湿地が広がっていた可能性がある。

③古植生

前述のように、Ⅵ区の調査地点付近には、水田あるいは沼沢湿地が広がっていたと考えられる。水田には、オモダカ属やイネ科、カヤツリグサ科、セリ科などの雑草が生育し、畦にはヨモギ類が生育していたと考えられる。

木本花粉ではⅣ帯から引き続きスギ属が卓越する傾向にあり、引き続きデルタ上でのスギ林の分布が示唆される。

(4)　Ⅱ帯期（中世頃以前、古代末頃以降）

①年代観

上部で古代末頃以降の遺物を含む畦畔が検出されている。また、花粉組成ではスギ属が減少傾向を示すものの、依然高率を示している。出雲平野南部の三田谷Ⅰ遺跡ではスギ属花粉が低率になるのは中世頃であり（渡辺，2000）、Ⅱ帯とⅠ帯境界はほぼこの時期であると考えられる。

②堆積環境

上部では畦畔が検出されており、耕作域（水田）が広がっていたことが明らかである。また、花粉組成でもイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率を示し、イネのプラント・オパールも多量に検出される。

珪藻組成では3-Ⅰ帯、6-Ⅱ帯上部が相当し、底生珪藻が卓越し、沼沢湿地での堆積が推定される。

前述のように水田は人工的な沼沢湿地であり、現地での観察、他の各種分析と矛盾しない結果である。

③古植生

前述のように、遺跡全体に水田が広がっていたと考えられる。また、ソバ属花粉もわずかであるが検出され、裏作や畦を利用して栽培されていたことが示唆される。

一方平野部でのスギ林は認められなくなり、北山山地や中国山地の谷筋で耐水していない場所に生育場所を狭めたと考えられる。

また、スギ属に変わりマツ属（複維管束亜属）が増加傾向を示す。マツ属（複維管束亜属）花粉の多くは、二次林要素のアカマツに由来すると考えられ、開発や有用材伐採に伴う照葉樹林やスギ林の縮小と二次林化が示唆される。

(5)　Ⅰ帯期（近世以降）

①年代観

スギ属花粉が低率になる。前述の三田谷Ⅰ遺跡でスギ属は、近世にはすでに低率になっている（渡辺，2000）ことから、Ⅰ帯の花粉組成は近世以降の植生を表していると考えられる。

②堆積環境

発掘調査時の観察で耕作土、あるいは床土とされた層である。花粉組成ではイネ科（40ミクロン以上）が卓越するが、イネのプラント・オパールは微量である。イネのプラント・オパールは葉の機動細胞に由来することから、株刈りを行う水田では検出量が少ない傾向にある。また、珪藻組成では6-Ⅰ帯が相当し、底生珪藻が卓越し、沼沢湿地での堆積が推定される。前述のように水田は人工的な沼沢湿地であり、現地での観察、他の各種分析と矛盾しない結果である。

③古植生

Ⅱ帯期同様に遺跡全体に水田が広がっており、ソバが裏作や畦を利用して栽培されていたことが示唆される。

中国山地縁辺や北山山地では、マツ属（複維管束亜属）花粉、コナラ亜属花粉が卓越することから、アカマツ林やコナラ林などのいわゆる「里山」が広く分布していたと考えられる。

まとめ

中野美保遺跡において実施した各種分析を基に、以下の局地微化石帯を設定した。

(1)　花粉組成変遷から、Ⅰ～Ⅴ帯の５局地花粉帯を設定した。

(2)　珪藻組成変遷から、Ⅲ区で3-Ⅰ～Ⅴ帯、Ⅵ区で6-Ⅰ～Ⅲ帯の局地珪藻帯を設定した。

各種分析結果、および調査に伴う地層観察などから、局地花粉帯に基づく時期毎に中野美保遺跡近辺から出雲平野周辺の古環境を推定した。主な事柄は、以下に示す通りである。

(1)　Ⅳ、Ⅲ帯ではスギ属花粉が高率になり、平野部（斐伊川デルタ上）でのスギ林の分布が示唆された。

(2)　縄文時代晩期頃から弥生時代後期以前には、Ⅲ区が生活域である凸地、Ⅵ区が生産域である凹地であった可能性が示唆された。

(3)　同時期のⅥ区の凹地では、連綿と水田耕作が続いていた可能性がある。

(4)　同時期の凸地は、縄文時代晩期以前に網状デルタの末端、あるいは自然堤防として形成されたと考えられる。

(5)　遺跡内のほぼ全域が水田化したのは、古代末頃以降であると考えられる。

(6)　畦畔に伴ってソバ属花粉が検出されており、畦畔が形成された時期（Ⅱ帯期）でのソバ栽培が示唆される。

引用文献

鹿島　薫（1985）銚子半島高上低地の完新世における珪藻群集の推移と古海水準変動．第四紀研究，24，125-138.

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13，187-197.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

渡辺正巳（1995）花粉分析法．考古資料分析法，84，85．ニュー・サイエンス社

渡辺正巳（2000）三田谷Ⅰ遺跡ｃ区発掘調査に係る花粉分析．三田谷Ⅰ遺跡－塩冶299号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－，65-69.，出雲市教育委員会.

渡辺正巳（投稿中）山陰地域中央部における縄文時代の花粉組成変遷－*Cyclobalanopsis*-*Castanopsis* 帯の再設定と気候変化、野尻湖花粉層序との比較－．野尻湖博物館研究報告.

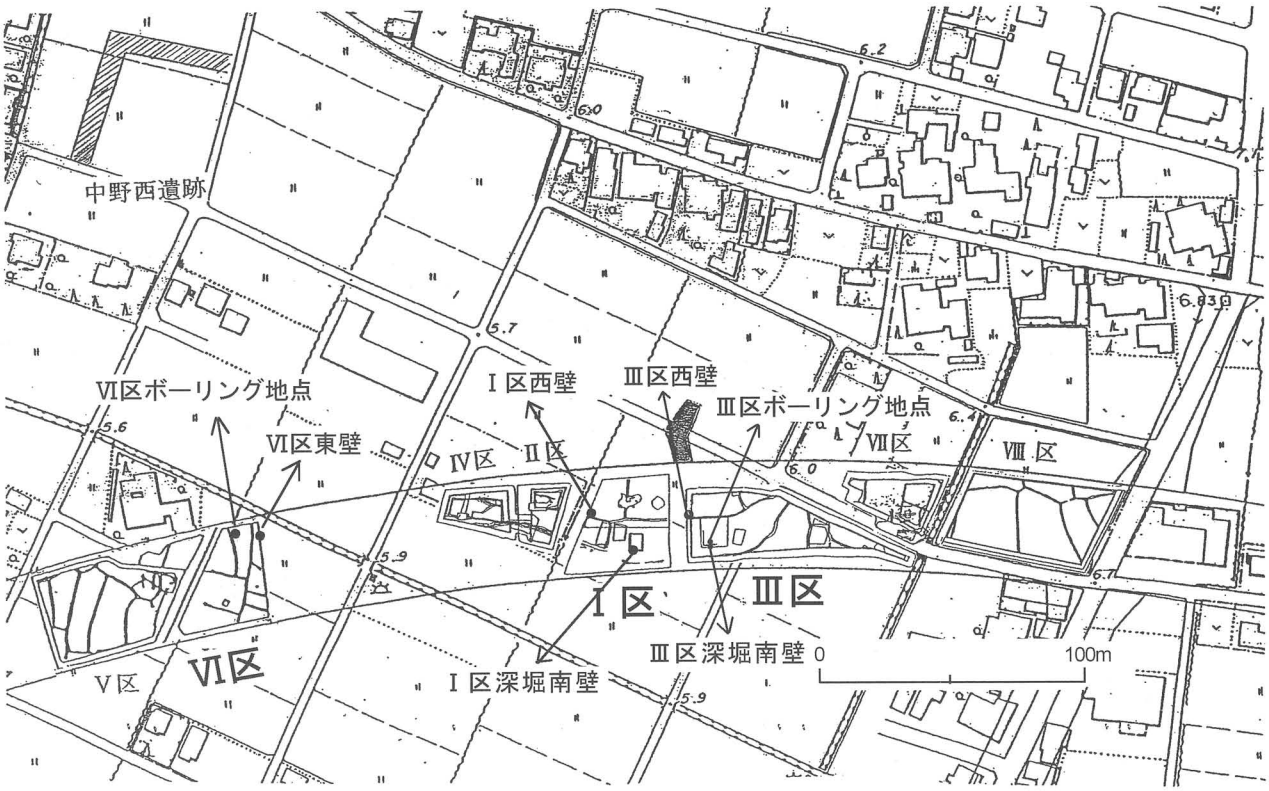


図１　調査区の配置（試料採取地点）

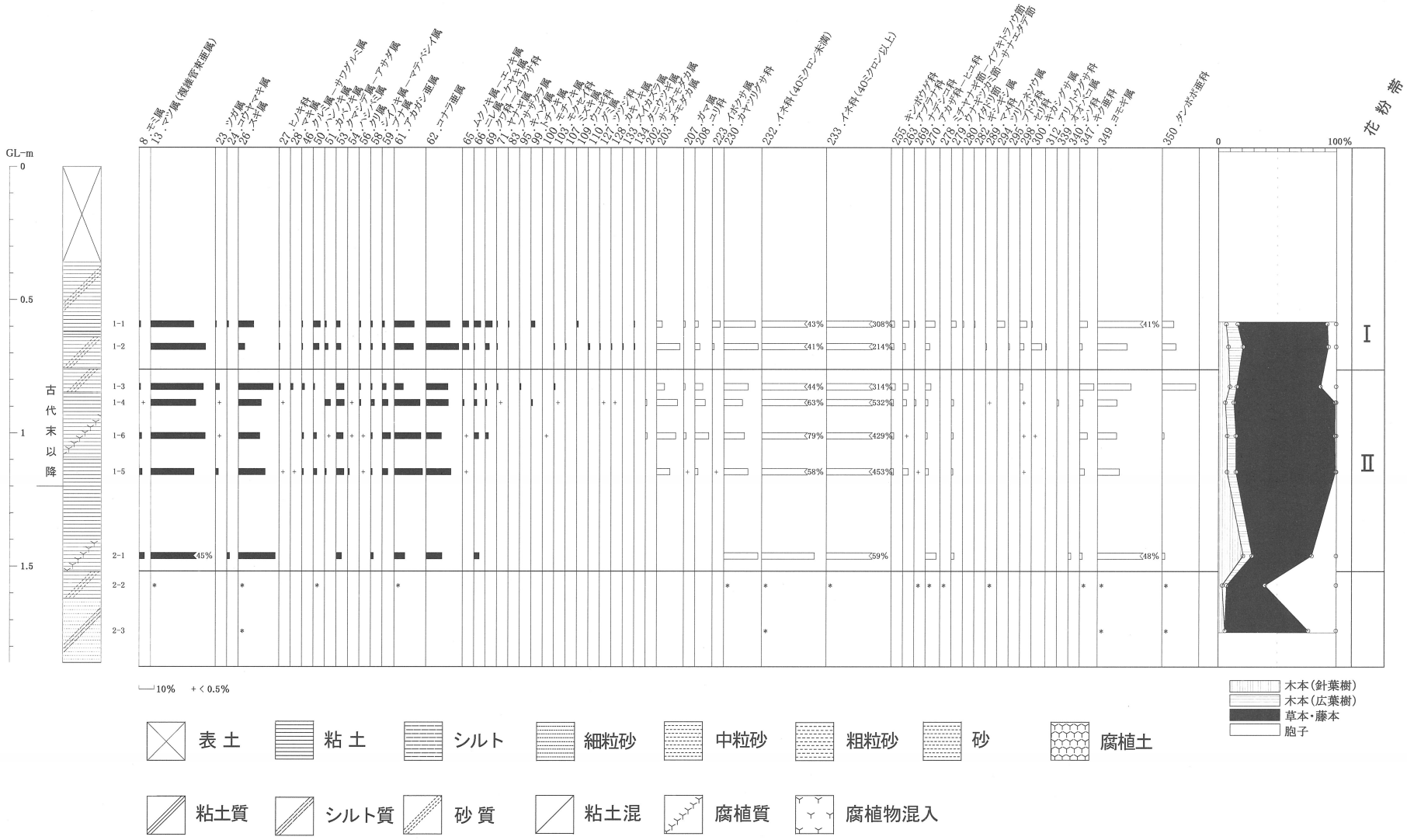


図2　I区の花粉ダイアグラム

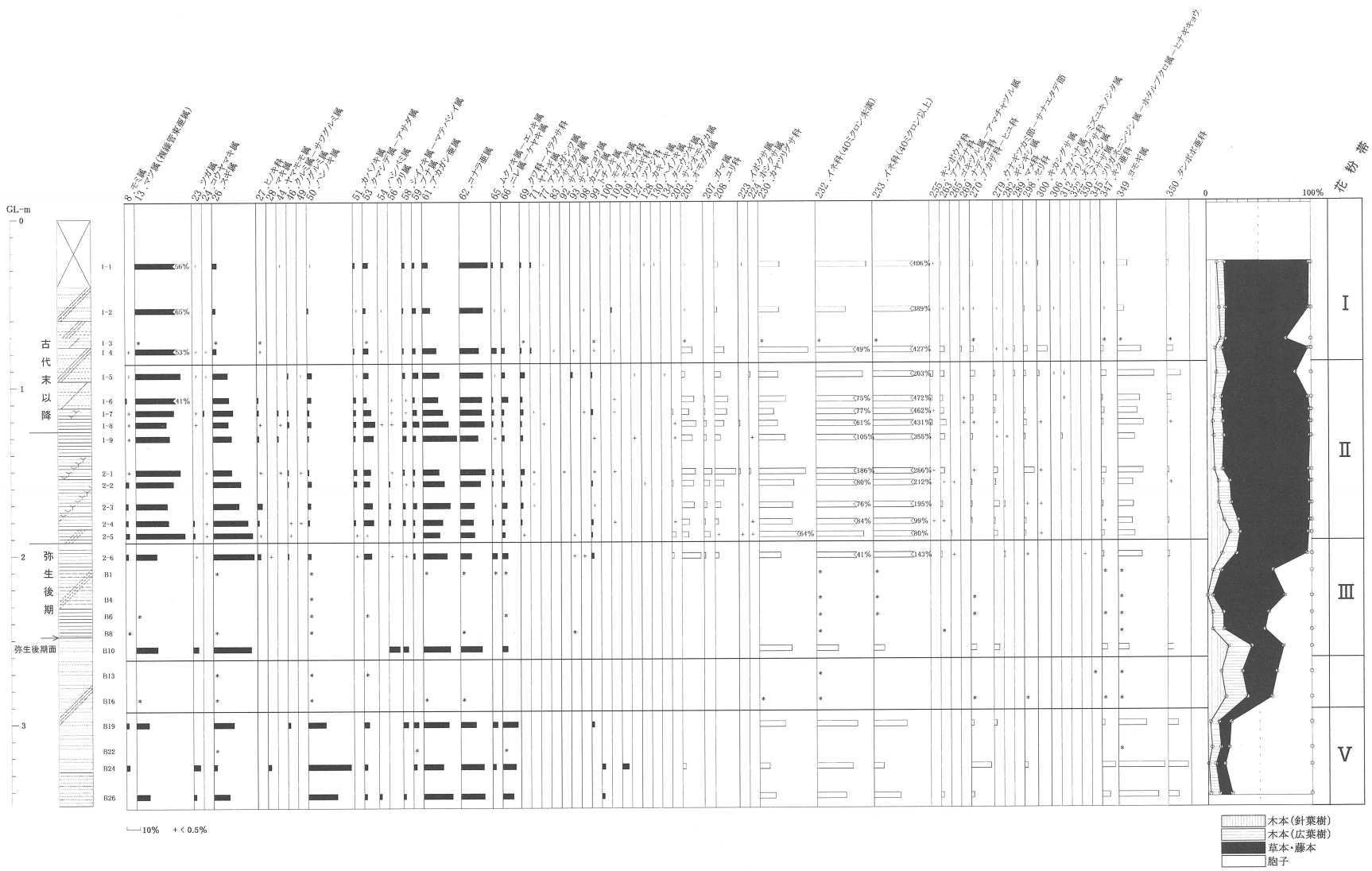


図３　Ⅲ区の花粉ダイアグラム

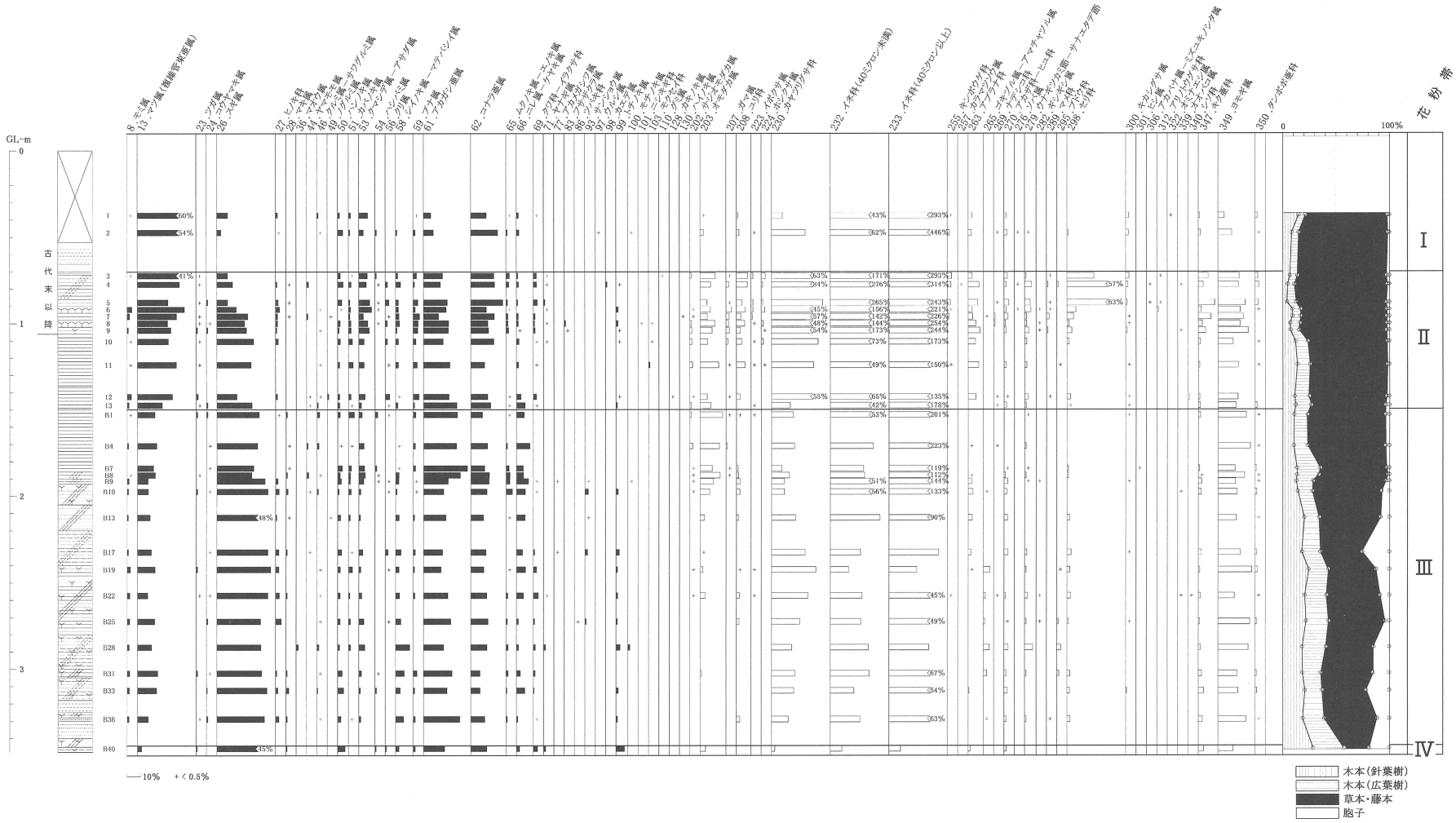


図４　Ⅵ区の花粉ダイアグラム

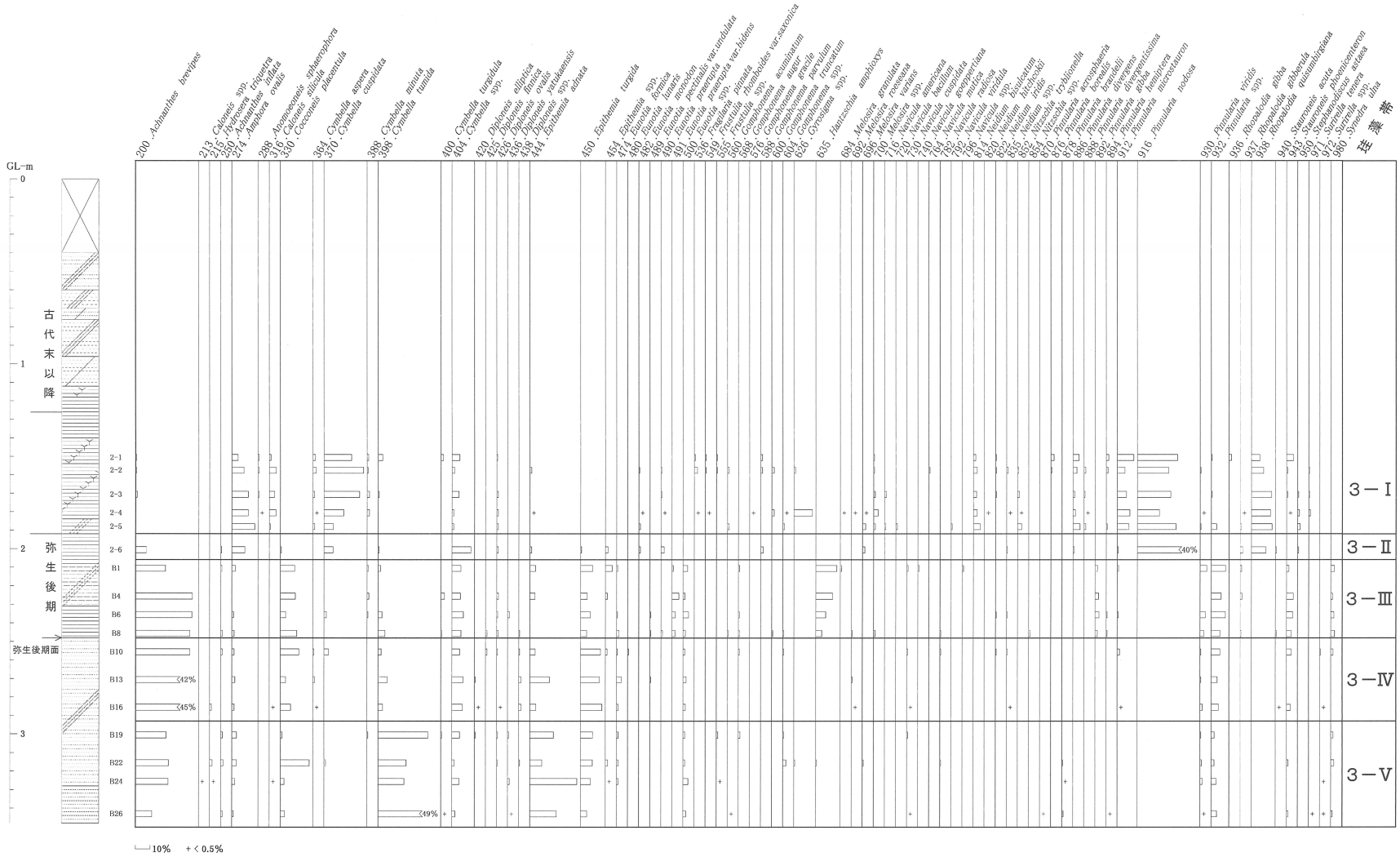


図５　Ⅲ区の珪藻ダイアグラム

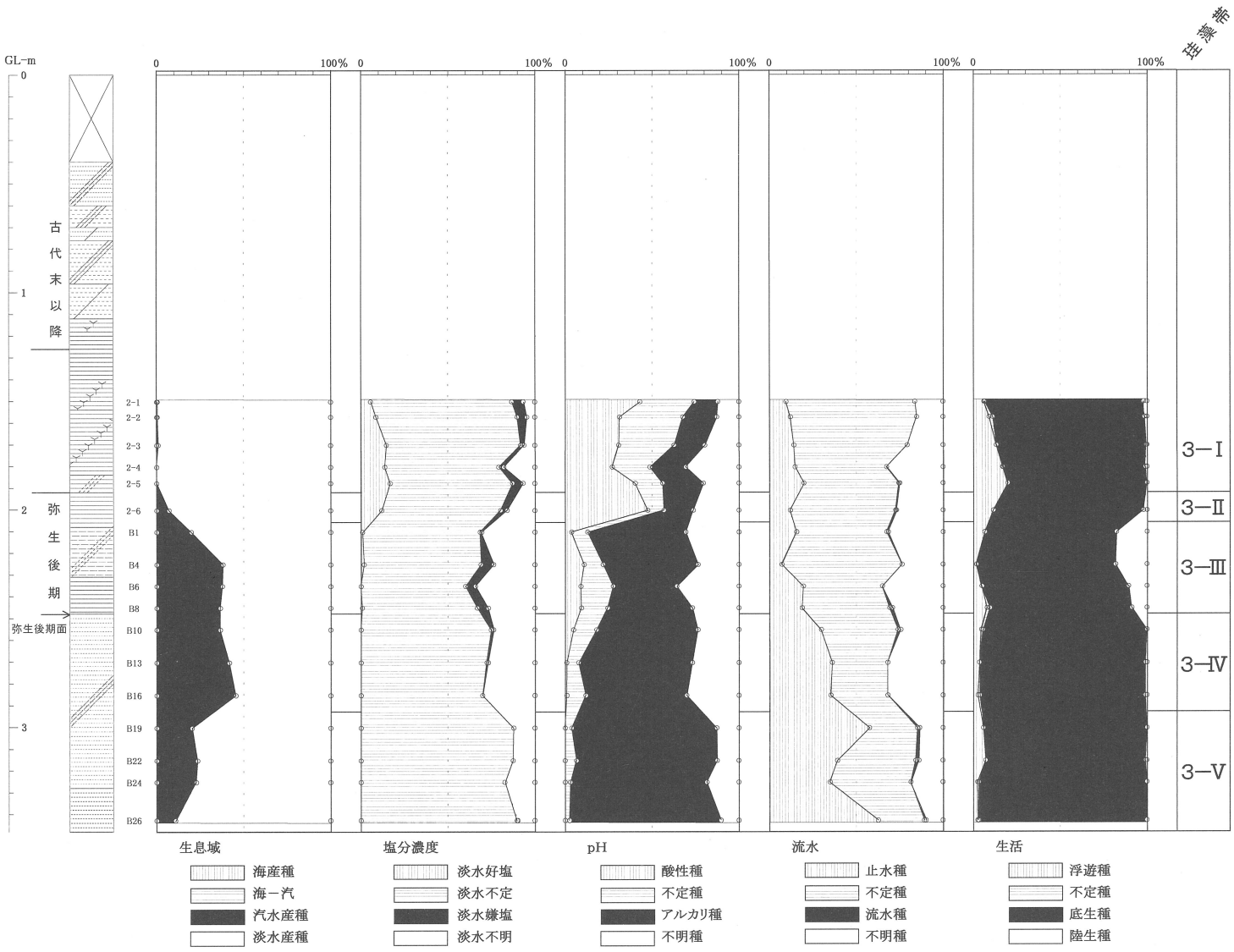


図６　Ⅲ区の珪藻総合ダイアグラム

図7　Ⅵ区の珪藻ダイアグラム

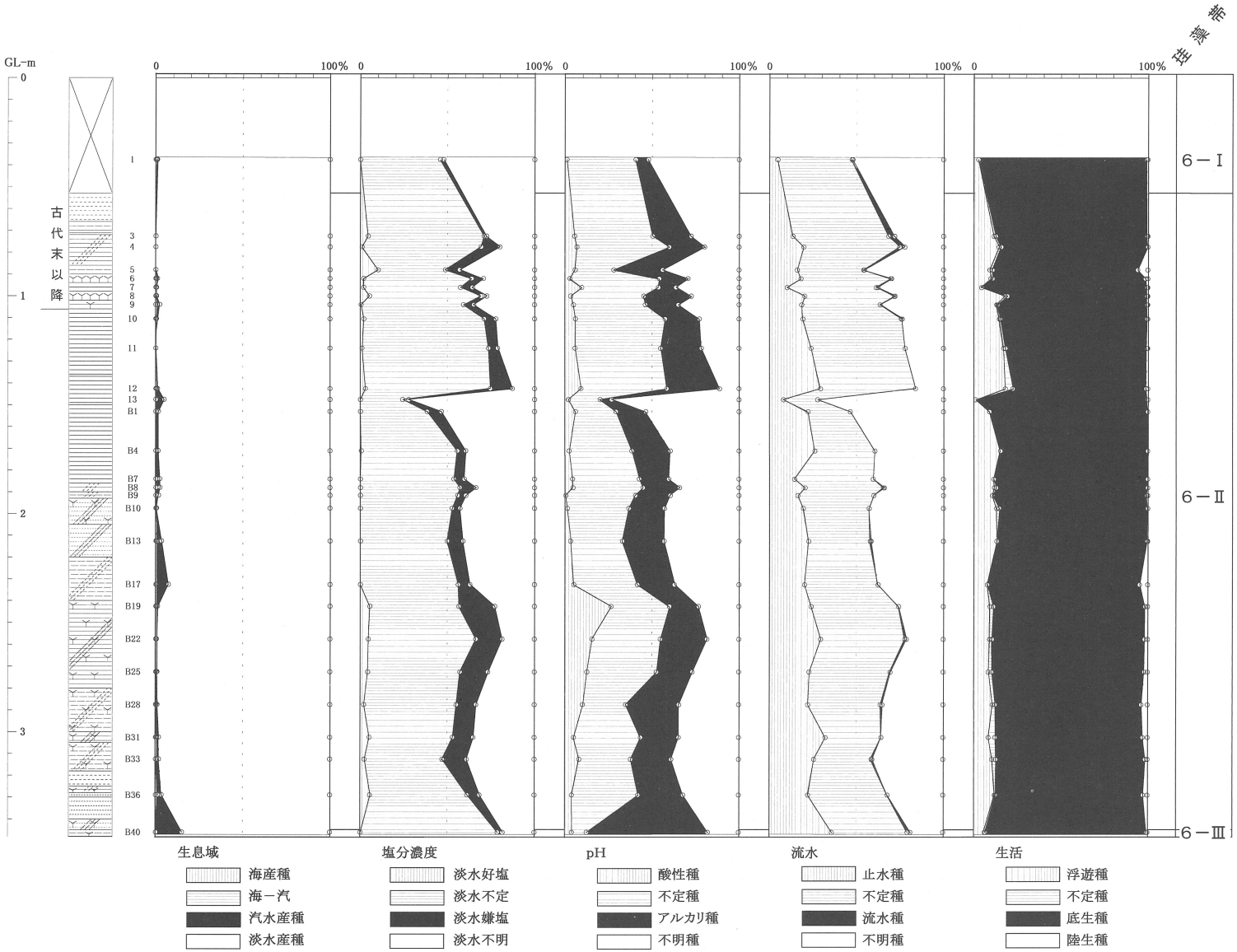


図８　Ⅵ区の珪藻総合ダイアグラム

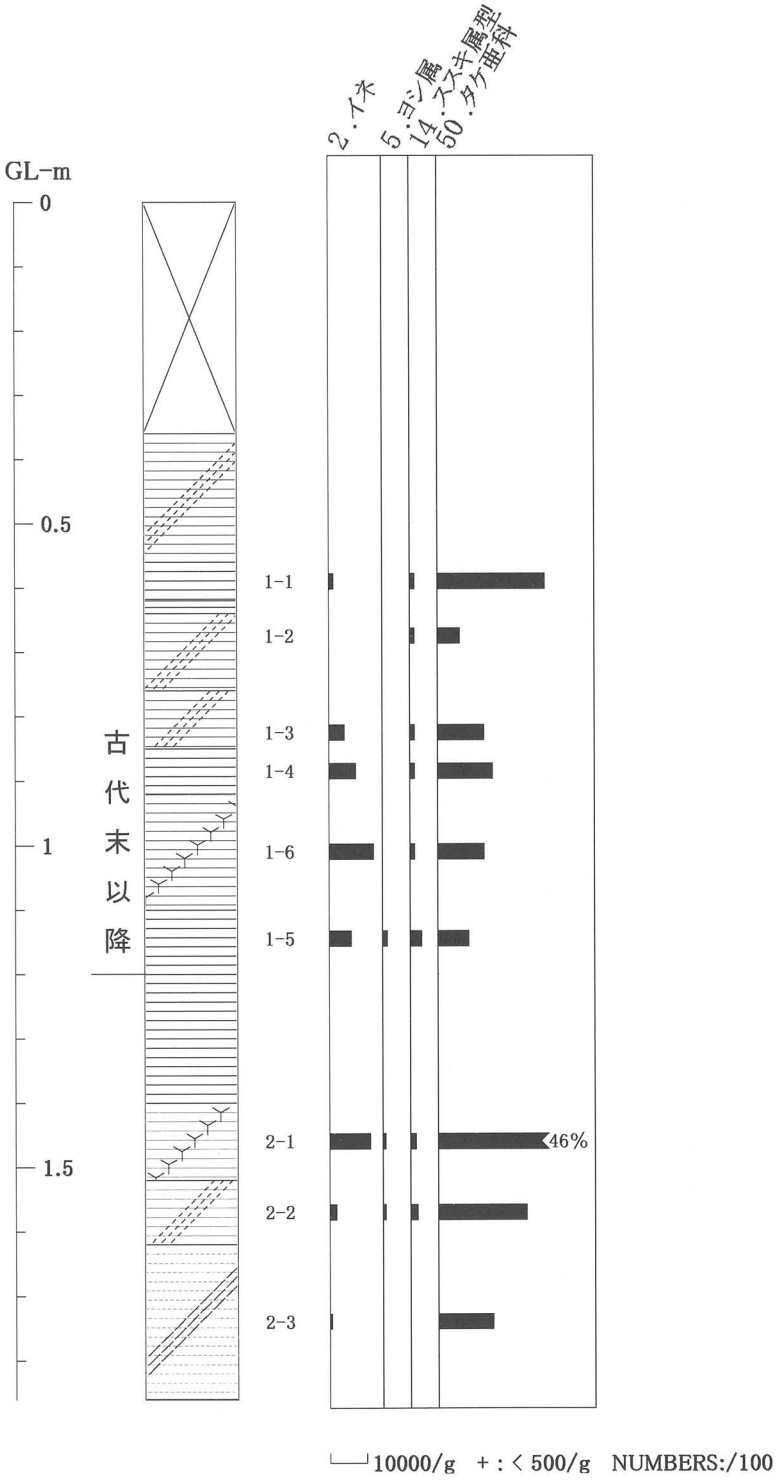


図9　Ⅰ区のプラント・オパールダイアグラム

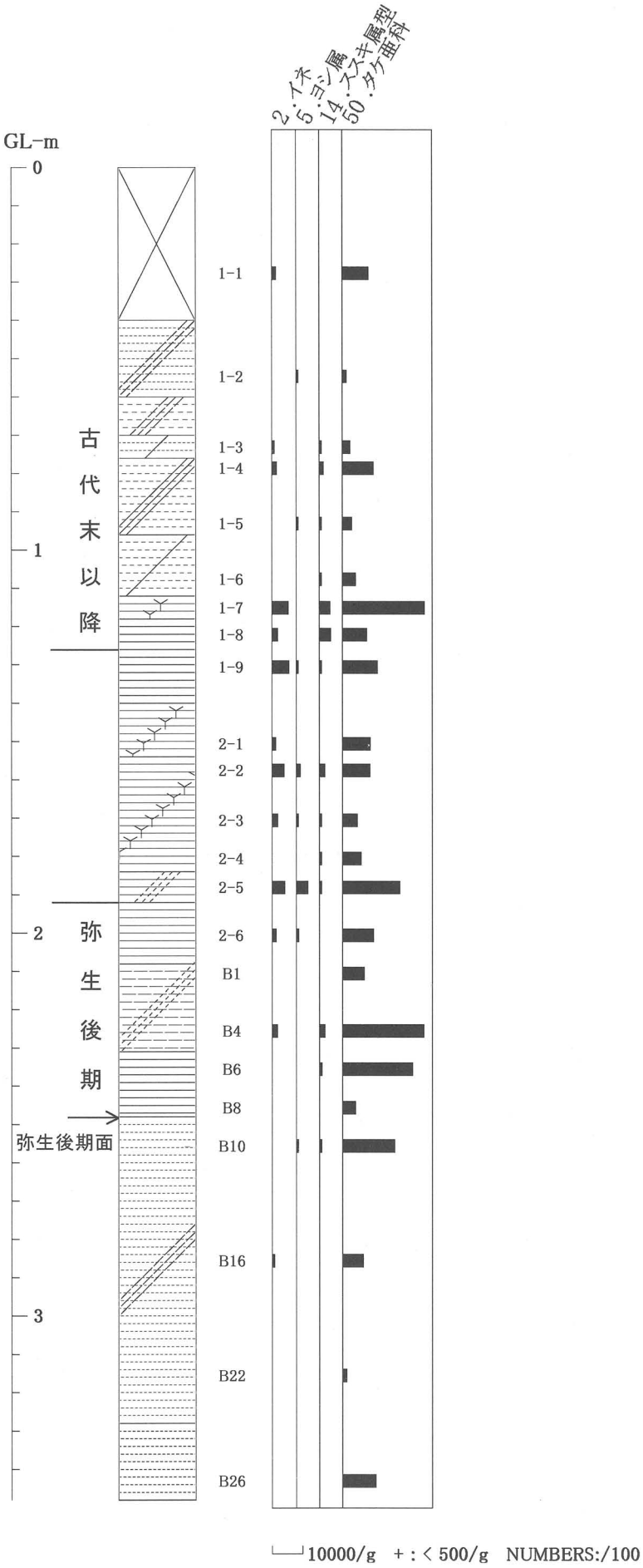


図10　Ⅲ区のプラント・オパールダイアグラム

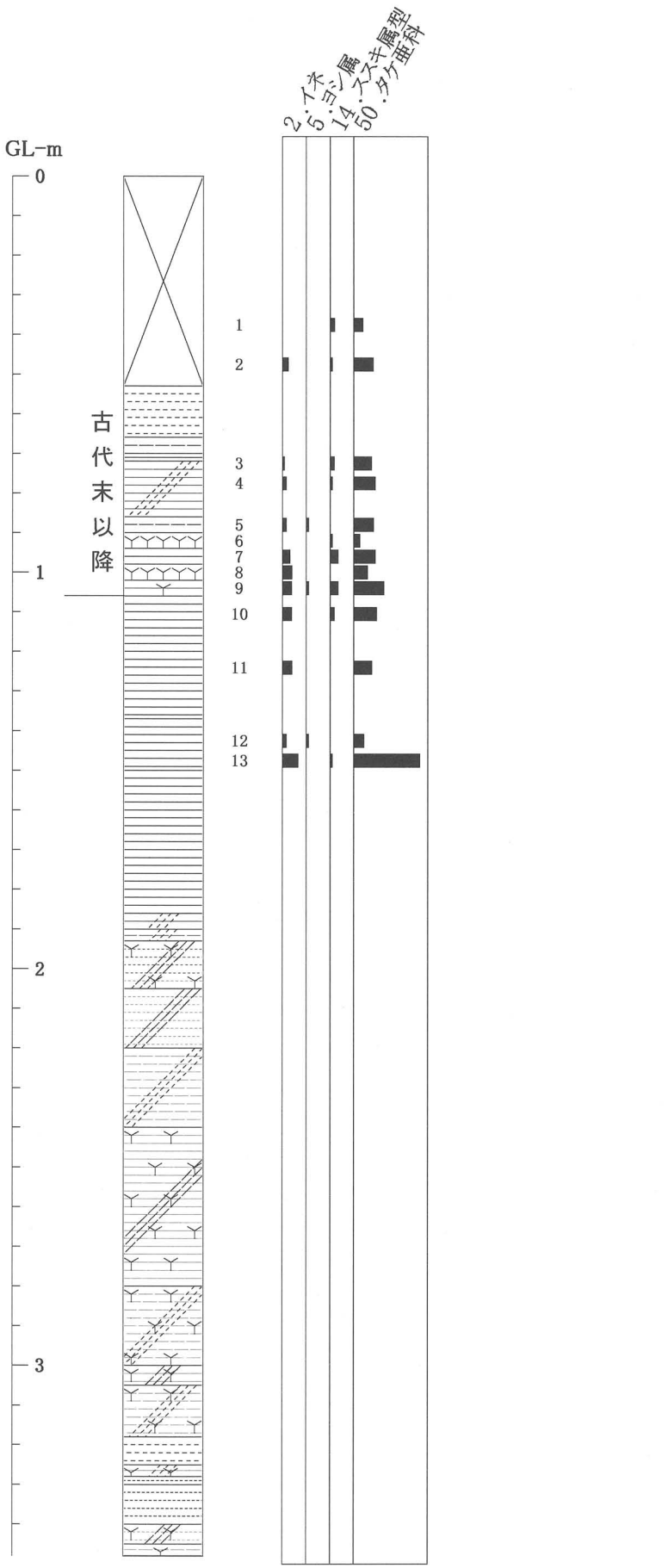


図11　Ⅵ区のプラント・オパールダイアグラム

第４節　中野美保遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析

藁科　哲男（京都大学原子炉実験所）

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている[1,2,3]。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石の成分が一致したからと言って、そこの産地のものと言い切れないことは、他の産地にも一致する可能性が推測されるからで、しかし一致しなかった場合そこの産地のものでないと言い切れる。』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とＡ産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がＡ産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにＡ産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、Ｂ、Ｃ、Ｄの産地でないとの証拠がないために、Ａ産地だと言い切れない。Ｂ産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはＢ産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ……）の原石群と比較して、Ａ産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がＡ産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を

求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのＴ２乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はＡ産地では10個中に一個みられ、Ｂ産地では一万個中に一個、Ｃ産地では百万個中に一個、Ｄ産地では……一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からＡ産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は島根県出雲市に位置する中野美保遺跡出土の黒曜石製石鏃、剥片および軽石に捕獲された黒曜石様岩の３個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光Ｘ分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析し、塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州、の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図１に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされ、元素組成によってこれら原石を分類して表１に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると233個の原石群になる。佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の観音崎、両瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地で、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析を行なった。隠岐島、壱岐島、青森県、和田峠の一部の黒曜石には、Srの含有量が非常に少なく、この特徴が産地分析を行う際に他の原産地と区別する、有用な指標となっている。九州西北地域の原産地で採取された原石は、相互に組成が似た原石がみられる（表２）。西北九州地域で似た組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群（腰岳系と仮称する）および淀姫、中町第二、古里第三、松浦第四の各群（淀姫系と仮称する）などである。淀姫産原石の中で中町第一群に一致する原石は12％個で、一部は淀姫群に重なるが中町第一群に一致する遺物は中町系と分類した。また、古里第二群原石と肉眼的および成分的に似た原石は嬉野町椎葉川露頭で多量に採取でき、この原石は姫島産乳灰色黒曜石と同色調をしているが、組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。もし似た組成の原石で遺物が作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原石産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原石産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の一群および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原石産地は腰岳系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦（牟田、大石）、中町、古里（第二群は角礫）の各産地で産出していることから、似た組成の原石産地の区別は遺物の自然面から円礫か角礫かを判断すれば原石産地の判定に有用な情報となる。旧石器の遺物の組成に一致する原石を産出する川棚町大崎産地から北方４㎞に位置する松岳産地があるが、現在、露頭からは８㎜程度の小礫しか採取できない。また、佐賀県多久のサヌカイト原産地からは黒曜石の原石も採取され梅野群を作った。九州中部地域の塚

瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。また、熊本県の南関、轟、冠ケ岳の各産地の原石はローム化した阿蘇の火砕流の層の中に含まれる最大で親指大の黒曜石で、非常に広範囲な地域から採取される原石で、福岡県八女市の昭和溜池からも同質の黒曜石が採取され昭和池群を作った。従って南関等の産地に同定された遺物の原材産地を局所的に特定できない。桑の木津留原産地の原石は元素組成によって２個の群に区別することができる。桑の木津留第１群は道路切り通し面の露頭から採取できるが、桑の木津留第２群は転礫として採取でき、これら両者を肉眼的に区別はできない。また、間根ヶ平原産地では肉眼観察で淀姫黒曜石のような黒灰色不透明な黒曜石から桑ノ木津留に似た原石が採取され、これらについても原石群を確立し間根ヶ平産黒曜石を使用した遺物の産地分析を可能にした。遺物の産地分析によって桑の木津留第１群と第２群の使用頻度を遺跡毎に調査して比較することにより、遺跡相互で同じ比率であれば遺跡間の交易、交流が推測できるであろう。石炭様の黒曜石は大分県萩台地、熊本県滝室坂、箱石峠、長谷峠、五ヶ瀬川の各産地および大柿産、鹿児島県の樋脇町上牛鼻産および平木場産の黒曜石は似ていて、肉眼観察ではそれぞれ区別が困難であるが、大半は元素組成で区別ができるが、上牛鼻、平木場産の両原石については各元素比が似ているため区別はできない。これは両黒曜石を作ったマグマは同じで地下深くにあり、このマグマが地殻の割れ目を通って上牛鼻および平木場地区に吹きだしたときには、両者の原石の組成は似ると推定できる。従って、産地分析で上牛鼻群または平木場群のどちらかに同定されても、遺物の原石産地は上牛鼻系として上牛鼻または平木場地区を考える必要がある。出水産原石組成と同じ原石は日東、五女木の各原産地から産出していてこれらは相互に区別できず日東系とした。竜ケ水産原石は桜島の対岸の竜ケ水地区の海岸および海岸の段丘面から採取される原石で元素組成で他の産地の黒曜石と容易に弁別できる。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。今回分析した遺物の元素比結果を表３に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表３の試料番号92055番の遺物ではRb/Zrの値は0.389で、久見群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.386±0.011である。遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から0.27σ離れている。ところで久見群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.27σのずれより大きいものが78個ある。すなわち、この遺物が、久見群の原石から作られていたと仮定しても、0.27σ以上離れる確率は78％であると言える。だから、久見群の平均値から0.27σしか離れていないときには、この遺物が久見群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を腰岳群に比較すると、腰岳群の平均値からの隔たりは、約14σである。これを確率の言葉で

表現すると、腰岳の産地の原石を採ってきて分析したとき、平均値から14σ以上離れている確率は、百兆分の一であると言える。このように、百兆個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、腰岳産の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は久見群に78％の確率で帰属され、信頼限界の0.1％を満たしていることから久見産原石が使用されていると同定され、さらに腰岳群に一兆分の一％の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1％に満たないことから腰岳産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（久見産地）と一致したからと言って、例え久見群と腰岳群の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（久見群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表１の233個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて久見産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯１ヶの変量だけでなく、前述した８ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならならい。例えばＡ原産地のＡ群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、Ａ群の石材で作られた遺物であれば、Ａ群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はＡ群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのＴ２乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する[4,5]。産地の同定結果は１個の遺物に対して、黒曜石製では233個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、久見産原石と判定された遺物について、台湾の台東山脈産原石、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石と同じ組成の原石とか、信州和田峠、霧ケ峰産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表４に記入した。原石群を作った原石試料は直径３㎝以上であるが、小さな遺物試料によっては、測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1％に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離Ｄ２乗の値を記する。今回分析した中野美保遺跡出土の黒曜石製石鏃には久見産が、剥片には津井産がそれぞれ使用され、本遺跡が隠岐島と交流があったことが証明された。また、十分条件として隠岐産地以外の約230個の原石、遺物群でないことが証明されたことにより、黒曜石原材の供給は本遺跡が隠岐島との交流のみにより受けていたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。また軽石に捕獲された黒曜石様岩は比重が3.415で黒曜石の比重約2.5より重い、また蛍光Ｘ線スペクトルには回折線と思われるピークが観測されることから、黒曜岩より結晶鉱物の可能性が推測された。

参考文献

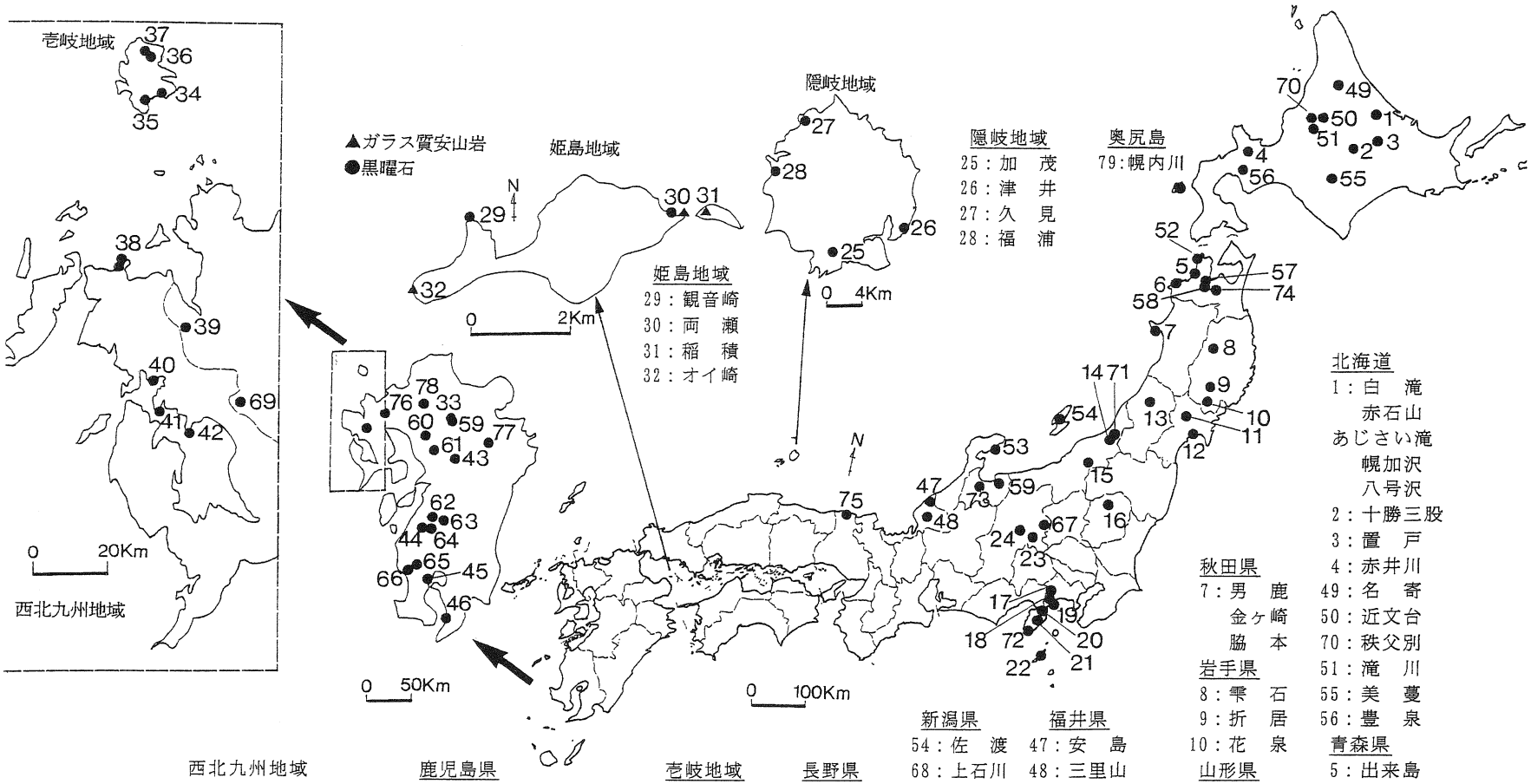
1）藁科哲男・東村武信（1975），蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（II）。考古学と自然科学，8:61-69

2）藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977），（1978），蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（III）。（IV）。考古学と自然科学，10,11:53-81:33-47

3）藁科哲男・東村武信（1983），石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16:59-89

4）東村武信（1976），産地推定における統計的手法。考古学と自然科学，9:77-90

5）東村武信（1980），考古学と物理化学。学生社



姫島地域
29：観音崎
30：両　瀬
31：稲　積
32：オイ崎

隠岐地域
25：加　茂
26：津　井
27：久　見
28：福　浦

奥尻島
79：幌内川

北海道
1：白　滝
赤石山
あじさい滝
幌加沢
八号沢
2：十勝三股
3：置　戸
4：赤井川
49：名　寄
50：近文台
70：秩父別
51：滝　川
55：美　蔓
56：豊　泉

青森県
5：出来島
6：深　浦
八森山
52：折腰内
57：戸　門
58：鶴ケ坂
鷹森山
大釈迦
74：下湯川

秋田県
7：男　鹿
金ヶ崎
脇　本

岩手県
8：雫　石
9：折　居
10：花　泉

山形県
13：月　山

宮城県
11：湯　倉
12：塩　釜

栃木県
16：高原山

東京都
22：神津島

新潟県
54：佐　渡
68：上石川
14：板　山
15：大白川
71：金　津

富山県
59：魚　津
73：二上山

石川県
53：比　那

福井県
47：安　島
48：三里山

神奈川県
17：箱根・笛塚
18：〃・畑宿
19：鍛冶屋

静岡県
20：上多賀
21：柏峠西
72：小豆峠

長野県
23：麦草峠
双子池
24：霧ケ峰
男女倉
和田峠
67：大窪沢

兵庫県
75：香　住

壱岐地域
34：久喜ノ辻
35：君ケ浦
36：角　川
37：貝　畑

大分県
33：塚　瀬
77：荻台地
緒方下尾平

熊本県
59：小　国
60：南　関
61：　轟
43：冠ケ岳
62：白　浜

鹿児島県
63：間根平
44：出　水
（日　東）
64：五女木
65：上牛鼻
66：平木場
45：竜ケ水
46：長　谷

西北九州地域

宮崎県
63：桑ノ木津留

長崎県
38：松　浦
40：淀　姫
41：中町、古里
42：大　崎
松　岳

佐賀県
39：腰　岳
69：椎葉川
松　尾
77：梅　野
中　野

福岡県
78：八女昭和池

図1　黒曜石原産地

表１－１　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名			分析個数	元素比									
				Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｍｎ／Ｚｒ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｎｂ／Ｚｒ	Ａｌ／Ｋ	Ｓｉ／Ｋ
北海道		名寄第一群	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010
北海道		名寄第二群	35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.265±0.011	0.301±0.022	0.026±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010
北海道	白滝地区	赤石山	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010
北海道	白滝地区	白土沢	27	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.049±0.181	1.855±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.368±0.006
北海道	白滝地区	八号沢	30	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.008	0.359±0.042
北海道	白滝地区	幌加沢	50	0.140±0.003	0.024±0.007	0.101±0.009	3.021±0.183	1.835±0.152	0.109±0.047	0.480±0.042	0.104±0.044	0.027±0.001	0.364±0.009
北海道	白滝地区	あじさい滝	34	0.139±0.003	0.023±0.003	0.099±0.007	2.970±0.179	1.792±0.103	0.102±0.036	0.472±0.028	0.098±0.046	0.027±0.001	0.361±0.008
北海道		近文台第一群	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008
北海道		近文台第二群	107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.090	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009
北海道		近文台第三群	47	0.529±0.014	0.096±0.008	0.068±0.018	2.746±0.262	0.838±0.100	0.796±0.081	0.220±0.043	0.035±0.021	0.036±0.004	0.413±0.014
北海道		台場第一群	50	1.076±0.052	0.142±0.005	0.072±0.011	2.912±0.117	0.291±0.020	0.678±0.035	0.126±0.022	0.022±0.012	0.049±0.005	0.517±0.014
北海道		台場第二群	42	0.670±0.030	0.126±0.006	0.074±0.017	3.046±0.163	0.759±0.044	0.849±0.045	0.204±0.032	0.035±0.018	0.038±0.004	0.414±0.019
北海道		秩父別第一群	51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013
北海道		秩父別第二群	48	0.519±0.016	0.097±0.005	0.065±0.016	2.705±0.125	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.025	0.032±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
北海道		滝川第一群	31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023
北海道		滝川第二群	40	0.522±0.016	0.101±0.010	0.068±0.019	2.751±0.140	0.809±0.055	0.783±0.044	0.201±0.030	0.040±0.019	0.036±0.003	0.419±0.014
北海道		置戸・所山	65	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010
北海道		置戸・置戸山	58	0.464±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.726±0.072	0.449±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.032±0.003	0.456±0.010
北海道		北見・常呂川第２群	48	0.548±0.025	0.145±0.007	0.037±0.007	1.691±0.134	0.380±0.024	0.409±0.020	0.120±0.015	0.031±0.012	0.039±0.004	0.477±0.019
北海道		北見・常呂川第３群	48	0.390±0.011	0.137±0.006	0.030±0.006	1.510±0.059	0.372±0.018	0.238±0.014	0.179±0.019	0.029±0.015	0.033±0.004	0.414±0.011
北海道		北見・常呂川第４群	50	0.291±0.017	0.109±0.008	0.046±0.012	1.812±0.098	0.807±0.041	0.445±0.029	0.192±0.033	0.034±0.015	0.031±0.003	0.362±0.023
北海道		ケショマップ第一群	68	0.575±0.056	0.110±0.011	0.051±0.011	2.555±0.086	0.595±0.058	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.003	0.397±0.013
北海道		ケショマップ第二群	65	0.676±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.032	0.170±0.028	0.030±0.013	0.030±0.003	0.392±0.010
北海道	十勝	十勝三股	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
北海道	十勝	美蔓第一群	41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.052±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.442±0.015
北海道	十勝	美蔓第二群	28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
北海道		赤井川第一群	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009
北海道		赤井川第二群	30	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007
北海道		豊泉第一群	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013
北海道		豊泉第二群	40	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010
北海道		奥尻島・幌内川	58	0.285±0.026	0.087±0.005	0.193±0.032	1.834±0.182	2.043±0.224	1.475±0.207	0.269±0.068	0.085±0.031	0.031±0.004	0.347±0.011
青森県		折腰内	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010
青森県		出来島	27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013
青森県	深浦	六角沢	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010
青森県	深浦	八森山	41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.384±0.009
青森県	青森市	戸門第一群	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015
青森県	青森市	戸門第二群	28	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
青森県	青森市	鶴ケ坂	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018
青森県	青森市	鷹森山	45	0.250±0.009	0.066±0.003	0.074±0.009	2.547±0.131	1.153±0.066	0.551±0.031	0.284±0.031	0.049±0.037	0.028±0.005	0.381±0.010
青森県	青森市	下湯川	36	9.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.217	21.648±1.500	0.090±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.858±0.088
青森県		大釈迦	64	0.252±0.012	0.066±0.003	0.074±0.012	2.516±0.148	1.149±0.063	0.548±0.035	0.284±0.032	0.044±0.035	0.028±0.002	0.383±0.010
青森県		黒石	41	8.905±0.243	2.484±0.055	0.161±0.018	7.570±0.336	0.068±0.014	1.621±0.063	0.244±0.022	0.027±0.014	0.124±0.014	1.409±0.044
秋田県	男鹿	金ヶ崎	43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008
秋田県	男鹿	脇本	45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009
山形県		月山	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014
山形県		寒河江	48	0.385±0.008	0.116±0.005	0.049±0.017	1.806±0.054	0.580±0.025	0.441±0.023	0.212±0.020	0.056±0.015	0.033±0.003	0.460±0.010

表１－２　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名			分析個数	元素比									
				Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｍｎ／Ｚｒ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｎｂ／Ｚｒ	Ａｌ／Ｋ	Ｓｉ／Ｋ
岩手県		雫石	25	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014
		折居第１群	37	0.632±0.033	0.185±0.013	0.052±0.002	1.766±0.048	0.307±0.017	0.420±0.026	0.205±0.015	0.039±0.016	0.040±0.001	0.579±0.019
		折居第２群	54	0.708±0.033	0.143±0.008	0.061±0.002	1.826±0.048	0.179±0.010	0.246±0.022	0.416±0.012	0.112±0.014	0.057±0.001	0.805±0.012
		花泉	29	0.602±0.044	0.175±0.015	0.053±0.003	1.781±0.068	0.313±0.020	0.416±0.027	0.214±0.013	0.036±0.016	0.040±0.002	0.576±0.037
宮城県		湯倉	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040
		塩釜	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
栃木県		高原山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012
東京都		神津島第一群	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012
		神津島第二群	46	0.317±0.021	0.120±0.007	0.114±0.005	1.833±0.089	0.615±0.044	0.656±0.064	0.303±0.029	0.107±0.057	0.033±0.001	0.471±0.022
		長根	40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012
神奈川県		箱根・笛塚	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046
		箱根・畑宿	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.080±0.005	1.126±0.031
		鍛冶屋	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020
		熱海峠	52	2.225±0.149	0.506±0.015	0.042±0.009	2.228±0.164	0.085±0.008	0.737±0.039	0.135±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033
静岡県		上多賀	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018
		柏峠西	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020
		小豆峠	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016
富山県		魚津	42	0.278±0.012	0.065±0.003	0.064±0.013	2.013±0.119	0.878±0.052	0.599±0.039	0.190±0.029	0.077±0.033	0.031±0.004	0.353±0.012
	高岡市	二上山第一群	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.015±0.014	0.392±0.018
		二上山第二群	40	0.710±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.028	0.840±0.050	0.118±0.025	0.051±0.031	0.020±0.020	0.599±0.024
		二上山第三群	45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155	1.222±0.088	0.127±0.041	0.067±0.053	0.015±0.014	0.412±0.025
長野県		霧ケ峰	168	0.156±0.010	0.068±0.003	0.101±0.018	1.331±0.070	1.052±0.051	0.360±0.030	0.275±0.039	0.090±0.035	0.029±0.003	0.346±0.011
		観音沢	72	0.159±0.010	0.069±0.002	0.100±0.019	1.324±0.084	1.055±0.057	0.368±0.033	0.279±0.032	0.086±0.033	0.030±0.003	0.345±0.010
		和田峠第一群	143	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.056	0.409±0.048	0.139±0.026	0.025±0.002	0.355±0.016
		和田峠第二群	32	0.147±0.004	0.032±0.003	0.153±0.011	1.481±0.084	2.487±0.169	0.027±0.024	0.527±0.040	0.185±0.023	0.026±0.001	0.363±0.010
		和田峠第三群	57	0.247±0.043	0.064±0.012	0.114±0.011	1.509±0.173	1.667±0.135	0.275±0.097	0.372±0.046	0.122±0.024	0.025±0.003	0.347±0.017
		和田峠第四群	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.311±0.037	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
		和田峠第五群	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1.282±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
		和田峠第六群	53	0.156±0.011	0.055±0.005	0.095±0.012	1.333±0.064	1.523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.010±0.017	0.021±0.002	0.313±0.012
		鷹山・和田	53	0.138±0.004	0.042±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.360±0.010
		男女倉	101	0.223±0.024	0.103±0.009	0.058±0.008	1.164±0.078	0.693±0.101	0.409±0.046	0.126±0.022	0.052±0.017	0.026±0.002	0.354±0.008
		高松沢	53	0.206±0.017	0.090±0.005	0.064±0.008	1.257±0.069	0.850±0.077	0.357±0.034	0.149±0.026	0.056±0.017	0.022±0.002	0.318±0.008
		うつぎ沢	81	0.222±0.014	0.099±0.006	0.058±0.008	1.189±0.060	0.748±0.075	0.392±0.031	0.140±0.022	0.046±0.021	0.025±0.005	0.340±0.009
		立科	49	0.155±0.007	0.068±0.003	0.102±0.018	1.320±0.077	1.033±0.063	0.362±0.030	0.285±0.035	0.104±0.040	0.030±0.003	0.356±0.011
		麦草峠	97	0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	1.397±0.099	0.542±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013
		双子池	83	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011
		冷山	87	0.267±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.546±0.034	0.727±0.036	0.109±0.031	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011
		大窪沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012
		横川	41	3.047±0.066	1.071±0.026	0.115±0.015	7.380±0.366	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021
新潟県		佐渡第一群	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
		佐渡第二群	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
		上石川	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009
		板山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
		大白川	47	0.569±0.006	0.142±0.005	0.033±0.001	1.608±0.034	0.261±0.009	0.332±0.009	0.150±0.008	0.033±0.009	0.036±0.001	0.491±0.014
		金津	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
		羽根川	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030

表１－３　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名			分析個数	元素比									
				Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｍｎ／Ｚｒ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｎｂ／Ｚｒ	Ａｌ／Ｋ	Ｓｉ／Ｋ
石川県		比那	48	0.370±0.009	0.087±0.005	0.060±0.003	2.699±0.088	0.639±0.021	0.534±0.026	0.172±0.011	0.052±0.025	0.032±0.002	0.396±0.016
福井県		安島	42	0.407±0.006	0.123±0.006	0.038±0.002	1.628±0.048	0.643±0.026	0.675±0.023	0.113±0.008	0.061±0.022	0.032±0.001	0.450±0.010
		三里山	37	0.295±0.020	0.127±0.008	0.035±0.003	1.411±0.095	0.597±0.021	0.740±0.053	0.114±0.010	0.027±0.012	0.022±0.001	0.324±0.007
兵庫県		香住第一群	30	0.216±0.005	0.062±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.365±0.008
		香住第二群	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	0.446±0.012
		雨滝(微粒集)	48	0.123±0.004	0.056±0.002	0.083±0.012	1.967±0.061	1.171±0.040	0.157±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.316±0.006
島根県		加茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016
		津井	30	0.161±0.008	0.132±0.182	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.015±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008
		久見	31	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006
岡山県		津	48	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.150	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.083±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009
香川県		奥池第一群	51	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011
		奥池第二群	50	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.013
		雄山	50	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.500±0.012
		神谷・南山	51	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	0.500±0.014
		大麻山南第一群	39	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.080	1.010±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.487±0.016
		大麻山南第二群	34	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.012
福岡県		八女昭和溜池	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.009
佐賀県		中野第一群	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
		中野第二群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008
		梅野	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009
		腰岳	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.335±0.008
		椎葉川	59	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009
		松尾第一群	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008
		松尾第二群	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010
大分県	姫島地域	観音崎	42	0.223±0.010	0.046±0.005	0.409±0.086	6.691±0.878	1.805±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.400±0.011
		両瀬第一群	51	0.226±0.011	0.045±0.003	0.411±0.066	6.743±0.900	1.845±0.286	1.553±0.230	0.318±0.087	0.560±0.144	0.038±0.004	0.401±0.012
		＊両瀬第二群	50	0.649±0.044	0.141±0.010	0.186±0.046	4.355±0.683	0.610±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.056	0.041±0.004	0.427±0.014
		＊両瀬第三群	46	1.038±0.131	0.211±0.024	0.110±0.027	3.367±0.617	0.311±0.058	3.756±0.668	0.105±0.030	0.094±0.037	0.042±0.007	0.442±0.021
		＊オイ崎	50	1.059±0.143	0.214±0.030	0.120±0.043	3.598±1.035	0.335±0.106	4.000±1.162	0.118±0.048	0.092±0.036	0.044±0.004	0.449±0.018
		＊稲積	45	0.680±0.061	0.145±0.013	0.168±0.037	4.397±0.776	0.612±0.095	3.080±0.476	0.147±0.046	0.194±0.060	0.041±0.005	0.431±0.015
		塚瀬	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
		荻台地	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
		緒方下尾平	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016
長崎県	壱岐島	久喜ノ辻	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
		君ケ浦	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
		角川	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010
		貝畑	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015
		松浦第一群	42	0.213±0.005	0.031±0.004	0.073±0.006	2.545±0.134	1.579±0.079	0.420±0.034	0.292±0.019	0.258±0.037	0.027±0.003	0.341±0.011
		松浦第二群	42	0.190±0.012	0.032±0.006	0.068±0.011	2.371±0.323	1.582±0.199	0.315±0.069	0.276±0.055	0.210±0.056	0.026±0.003	0.336±0.010
		松浦第三群	42	0.244±0.016	0.063±0.010	0.046±0.007	1.880±0.200	0.836±0.121	0.368±0.098	0.145±0.019	0.127±0.030	0.026±0.003	0.329±0.020
		松浦第四群	41	0.288±0.014	0.070±0.006	0.042±0.003	1.833±0.086	0.717±0.179	0.451±0.040	0.111±0.010	0.123±0.022	0.027±0.003	0.341±0.012
		淀姫	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
		中町第一群	42	0.244±0.011	0.060±0.010	0.057±0.004	1.866±0.089	0.810±0.087	0.398±0.039	0.135±0.017	0.146±0.026	0.025±0.001	0.342±0.007
		中町第二群	42	0.319±0.042	0.079±0.023	0.046±0.003	1.793±0.089	0.666±0.091	0.482±0.044	0.118±0.018	0.101±0.024	0.025±0.001	0.333±0.015

表１－４　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名		分析個数	元素比									
			Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｍｎ／Ｚｒ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｎｂ／Ｚｒ	Ａｌ／Ｋ	Ｓｉ／Ｋ
長崎県	古里第一群	50	0.202±0.012	0.029±0.004	0.076±0.018	2.628±0.214	1.695±0.146	0.403±0.060	0.319±0.073	0.233±0.074	0.030±0.003	0.342±0.011
	古里第二群	40	0.423±0.016	0.075±0.007	0.089±0.017	2.797±0.274	1.148±0.133	1.814±0.192	0.103±0.060	0.208±0.053	0.034±0.003	0.367±0.009
	古里第三群	41	0.265±0.032	0.064±0.009	0.046±0.010	1.931±0.143	0.799±0.110	0.433±0.049	0.122±0.041	0.119±0.044	0.031±0.003	0.347±0.010
	松岳	43	0.194±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017
	大崎	74	0.176±0.012	0.053±0.002	0.041±0.012	1.710±0.081	0.912±0.036	0.181±0.022	0.202±0.029	0.133±0.024	0.023±0.002	0.319±0.010
熊本県	小国	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	南関	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	轟	44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0.008
	大柿	53	1.534±0.139	0.665±0.035	0.075±0.008	4.494±0.460	0.247±0.014	1.236±0.092	0.090±0.018	0.041±0.012	0.030±0.003	0.292±0.010
	冠ケ岳	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	滝室坂	57	1.599±0.107	0.722±0.046	0.085±0.011	6.205±0.305	0.256±0.018	1.154±0.055	0.103±0.014	0.047±0.013	0.027±0.004	0.247±0.016
	箱石峠	84	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.023	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.366±0.033
	長谷峠	53	1.668±0.165	0.694±0.036	0.080±0.010	4.977±0.587	0.253±0.015	1.335±0.104	0.098±0.016	0.040±0.008	0.031±0.003	0.295±0.012
	五ヶ瀬川	48	1.471±0.136	0.602±0.041	0.078±0.011	4.838±0.634	0.252±0.016	1.288±0.124	0.101±0.014	0.043±0.013	0.027±0.003	0.265±0.020
	御船	49	1.558±0.146	0.651±0.030	0.075±0.011	4.571±0.572	0.257±0.016	1.252±0.112	0.091±0.016	0.040±0.009	0.030±0.004	0.291±0.010
	白浜	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0.009
宮崎県	桑ノ木津留第一群	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	桑ノ木津留第二群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
	霧島	36	35.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022
鹿児島県	間根ヶ平第一群	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	0.281±0.031	0.041±0.032	0.022±0.008	0.358±0.014
	間根ヶ平第二群	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.235±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.013
	間根ヶ平第三群	42	0.584±0.012	0.176±0.005	0.037±0.007	1.484±0.097	0.449±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.019
	日東	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	五女木	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	上牛鼻	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	0.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
	平木場	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010
	竜ケ水	48	0.533±0.029	0.167±0.006	0.061±0.013	1.494±0.093	0.611±0.039	0.688±0.052	0.127±0.023	0.069±0.022	0.033±0.003	0.494±0.011
	長谷	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
台　湾	台東山脈	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
ロシア	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030
北朝鮮	白頭山灰皿	50	0.154±0.009	0.067±0.003	0.018±0.005	1.081±0.028	0.530±0.013	0.081±0.008	0.151±0.015	0.338±0.012	0.027±0.003	0.306±0.008

表１－５　黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名		分析個数	元素比									
			Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｍｎ／Ｚｒ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｎｂ／Ｚｒ	Ａｌ／Ｋ	Ｓｉ／Ｋ
北海道	ＨＳ１遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	ＨＳ２遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
	ＦＲ１遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047
	ＦＲ２遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043
	ＦＲ３遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037
	ＦＲ４遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036
	ＦＨ１遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011
	ＫＴ１遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015
	ＫＴ２遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010
	ＫＳ１遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
	ＫＳ２遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
	ＫＳ３遺物群	48	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.337±0.015
	Ｋ１９遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
	ＮＩ２９遺物群	51	5.445±0.122	2.301±0.074	0.207±0.024	13.422±1.113	0.151±0.018	1.839±0.134	0.207±0.022	0.007±0.011	0.069±0.006	0.622±0.021
青森県	ＨＹ遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
	ＳＮ１遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
	ＳＮ２遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
秋田県	ＫＮ遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
	ＴＢ遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021
	ＨＲ遺物群	48	0.259±0.008	0.093±0.003	0.067±0.011	2.055±0.067	0.741±0.028	0.293±0.016	0.331±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.010
岩手県	ＡＩ１遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024
	ＡＩ２遺物群	61	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
	ＡＩ３遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009
	ＡＩ４遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	ＡＩ５遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	ＦＳ遺物群	45	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
	ＳＤ遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
新潟県	ＡＣ１遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
	ＡＣ２遺物群	48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007
	ＡＣ３遺物群	36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013
	ＩＮ１遺物群	48	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007
	ＩＮ２遺物群	48	0.745±0.013	0.110±0.004	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010
長野県	ＮＫ遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
	ＵＨ６３遺物群	48	0.308±0.018	0.118±0.005	0.040±0.010	1.646±0.100	0.811±0.039	0.562±0.030	0.138±0.031	0.057±0.020	0.036±0.005	0.426±0.022
	ＵＨ６６遺物群	48	0.310±0.019	0.075±0.005	0.064±0.014	1.980±0.082	0.901±0.051	0.841±0.040	0.159±0.038	0.054±0.020	0.041±0.018	0.378±0.025
山口県	ＹＭ遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013
	ＮＭ遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.011
	ＭＫ－１遺物群	48	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010
	ＭＫ－２遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007

表１－６　黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名		分析個数	元素比									
			Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｍｎ／Ｚｒ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｎｂ／Ｚｒ	Ａｌ／Ｋ	Ｓｉ／Ｋ
大分県	Ｉ遺物群	54	0.794±0.070	0.202±0.009	0.061±0.013	1.774±0.132	0.380±0.030	1.350±0.096	0.076±0.032	0.079±0.022	0.040±0.004	0.434±0.015
宮崎県	ＨＢ１遺物群	48	0.197±0.035	0.754±0.055	0.098±0.042	7.099±0.844	0.434±0.062	0.975±0.130	0.368±0.079	0.126±0.079	0.093±0.022	6.312±0.525
	ＨＢ２遺物群	48	0.414±0.100	1.557±0.674	0.110±0.044	9.900±1.595	0.176±0.088	1.209±0.459	0.327±0.052	0.178±0.069	0.178±0.044	9.938±1.532
	ＵＴ１遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014
	ＫＵ４遺物群	48	1.871±0.365	1.018±0.094	3.790±0.705	14.990±4.008	0.673±0.081	2.043±0.233	0.752±0.079	0.056±0.045	0.090±0.017	4.302±0.246
鹿児島県	ＫＩ１遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.985±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
	ＫＩ２遺物群	46	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.017	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022
	ＫＩ３遺物群	48	1.545±0.154	0.557±0.045	0.074±0.011	3.746±0.455	0.284±0.018	0.783±0.044	0.106±0.021	0.025±0.011	0.047±0.006	0.499±0.021
	ＫＩ４遺物群	56	2.625±0.109	0.871±0.136	0.093±0.007	5.623±0.602	0.255±0.015	0.906±0.074	0.107±0.009	0.031±0.015	0.062±0.007	0.587±0.038
	ＫＩ１８遺物群	46	0.447±0.011	0.122±0.005	0.045±0.020	1.737±0.046	0.687±0.023	0.481±0.020	0.140±0.009	0.050±0.024	0.030±0.001	0.428±0.008
	ＫＩ８４遺物群	48	0.655±0.009	0.151±0.009	0.026±0.001	1.515±0.020	0.332±0.011	0.340±0.011	0.102±0.005	0.051±0.011	0.032±0.001	0.431±0.007
	ＳＧ遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033
	ＯＫ遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021
	ＫＫ１遺物群	48	0.347±0.010	0.080±0.003	0.081±0.012	3.085±0.155	0.887±0.036	1.487±0.065	0.119±0.036	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.009
	ＫＫ２遺物群	46	0.521±0.012	0.122±0.004	0.076±0.013	3.125±0.222	0.877±0.048	1.500±0.074	0.109±0.034	0.187±0.023	0.035±0.004	0.359±0.010
	ＨＭ１遺物群	44	0.683±0.024	0.861±0.021	0.063±0.013	8.678±0.663	0.642±0.039	0.739±0.054	0.127±0.034	0.065±0.018	0.037±0.005	0.282±0.008
	ＨＭ２遺物群	50	0.483±0.022	0.121±0.006	0.054±0.014	1.975±0.122	0.695±0.040	0.454±0.034	0.191±0.028	0.058±0.028	0.034±0.006	0.474±0.016
	ＯＮ１遺物群	54	0.303±0.012	0.167±0.006	0.038±0.007	1.157±0.044	0.447±0.020	0.435±0.016	0.126±0.025	0.039±0.016	0.032±0.004	0.376±0.012
	ＯＮ２遺物群	56	0.276±0.019	0.053±0.004	0.084±0.017	2.491±0.128	1.492±0.088	0.667±0.046	0.211±0.032	0.108±0.028	0.030±0.004	0.345±0.011
北朝鮮	会寧城外遺跡遺物群	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
ロシア	イリスタヤ	26	18.888±2.100	6.088±0.868	0.293±0.032	27.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
	パラトウンカー１	56	0.706±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.015±0.008	0.041±0.004	0.482±0.022
	パラトウンカー２	40	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.604±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
	パラトウンカー３	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.753±0.026	0.066±0.026	0.013±0.062	0.017±0.003	0.176±0.009
	パラトウンカー４	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
	ナチキ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.099±0.016	1.261±0.062	0.608±0.028	0.500±0.026	0.122±0.030	0.064±0.023	0.024±0.003	0.340±0.006
	アバチャ	40	0.255±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
標準試料	ＪＧ－１[a)]	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

Ｍ群＝桑ノ木津留第１群、Ｆ群＝ＵＴ遺物群、ＨＳ２群＝置戸･置戸山群、ＦＲ２群＝ケショマップ第一群にそれぞれ一致　平均値±標準偏差値、＊：ガラス質安山岩、ＮＫ遺物群：中ッ原遺跡、ＨＹ遺物群：日和山遺跡、ＳＮ遺物群：三内丸山遺跡出土、ＫＮ遺物群：此掛沢遺跡、ＨＳ遺物群：北進遺跡、ＫＩ遺物群：桐木遺跡、ＵＴ遺物群：内屋敷遺跡、ＡＩ遺物群：相ノ沢遺跡、ＦＳ遺物群：房ノ沢遺跡、ＳＤ遺物群：下舘銅屋遺跡、ＦＲ遺物群：東麓郷１，２遺跡、ＦＨ遺物群：東９線８遺跡、ＫＴ遺物群：北区１遺跡、ＫＳ遺物群：キウス４遺跡Ａ-Ｒ地区、ＳＧ遺物群：志風頭遺跡、ＯＫ遺物群：奥名野遺跡、ＴＢ遺物群：戸平川遺跡、ＮＭ遺物群：長桝遺跡、ＭＫ遺物群：南方遺跡、ＹＭ遺物群：南方、藤尾、岩上遺跡、ＡＣ１、２、３遺物群：アチャ平遺跡、ＩＮ１、２遺物群：岩野原遺跡、Ｋ１９遺物群：Ｋ３９遺跡、ＫＫ１，２遺物群：計志加里遺跡、ＨＢ１，２（フリント様）：八久保第２遺跡、ＨＲ遺物群：堀量遺跡、ＨＭ遺物群：春ノ山遺跡、ＫＵ４（硬質頁岩様）：久木野遺跡、ＯＮ１,２：大原野遺跡、ＮＩ２９：穂香遺跡、ＵＨ６３・ＵＨ６６：上ノ原遺跡など出土遺物の産地不明の原石群。ウラジオストック付近：イリスタヤ遺跡、南カムチャッカ：パラトウンカ、ナチキ、アバチャ遺跡。

a)：Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8, 175-192.

表２　九州西北地域原産地採取原石が各原石群に同定される割合の百分率（%）

原石群	九州西北地域原産地地区名（原石個数）							
	腰岳 (26)	淀姫 (44)	古里陸地 (66)	古里海岸 (21)	中町 (44)	牟田 (46)	大石 (39)	椎葉川 (59)
腰岳群	100		37			24	33	
淀姫群		100						
古里第一群	100		63	5		43	51	
第二群			11	57	2			100
第三群		95	25	33	88	50	26	
中町第一群		12	14	24	68	26	18	
第二群		98	14	24	57	39	28	
松浦第一群	88		32			24	33	
第二群	96		51	5	2	39	51	
第三群		57	24	33	91	54	49	
第四群		93	17	24	80	52	33	
椎葉川群			9	48	2			100

注：同定確率を１%以上に設定した。古里陸地で採取された原石１個（No.６）判定例＝古里第１群（62%），松浦第１群（37%），松浦第２群（23%），腰岳（21%）が１%以上で同定され残りの220個の原石群に対しては１%以下の同定確率であった。古里陸地（66個）の腰岳群37%は66個の中の37%個は腰岳群に１%以上の同定確率で帰属される。

表３　中野美保遺跡出土黒曜石製石器、剥片の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
92054	0.160	0.135	0.016	0.917	0.301	0.017	0.061	0.142	0.019	0.231
92055	0.144	0.064	0.020	0.944	0.389	0.002	0.103	0.229	0.022	0.305
92056	35.767	3.810	0.281	13.781	0.404	0.250	0.237	0.000	0.066	1.436
JG-1	0.811	0.221	0.070	3.899	0.930	1.279	0.310	0.073	0.022	0.299

JG-1：標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表４　中野美保遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の原材産地分析結果

分析番号	試料番号	出土区	層位	ホテリングのＴ２乗検定	判定	器種
92054	1	８区	Ｂ８層	津井（76%），加茂（９%）	津井	剥片
92055	2	８区 SX06		久見（77%），加茂（0.1%）	久見	石鏃
92056	3	８区 Pit6	９層	黒曜石でない		比重 3.415

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第５節　中野美保遺跡出土管玉の産地分析

藁科哲男（京都大学原子炉実験所）

はじめに

今回分析を行った玉類は勾玉、管玉などで、玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、メノウなどが推測される。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。これら玉材については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどくらいであり、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ケ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）や碧玉の原産地うち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説であったが、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法[1]および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光Ｘ線分析で行う元素比法[2,3]が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究としては蛍光Ｘ線分析法と電子スピン共鳴法を併用することで産地分析をより正確に行った例[4]が報告されている。石鏃などの石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。（１）石器の原材産地推定で明らかになる遺跡から石材原産地までの移動距離、活動範囲は、石器が生活必需品であるので、生活上必要な生活圏と考えられる。（２）玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではなく、勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリーとして精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれないし、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏ではないかと考えられる。このように玉類の産地分析では、石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った遺物は、島根県出雲市に位置する中野美保遺跡の弥生時代の管玉１個の産地分析結果が得られたので報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。よって石器の原材産地分析で成功している[4]非破壊で分析を行なう蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をり、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。碧玉製玉類はＥＳＲ法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した[5]。

碧玉原石の蛍光X線分析

碧玉の蛍光X線スペクトルの例として島根県、花仙山産原石を図１に示す。猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光X線ピークも異同はあるものの図１で示されるピークは観測される。土岐、興部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピーク高さとともに、定性的に原材産地を判定する指標として用いている。

碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を図２に示す。佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良くないものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であったらしく採石跡が何ケ所か見られるが、今回分析した原石は猿八の各地点から表採したもの、および地元で提供された原石などであり、また提供されたものの中には露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約７㎝幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6～2.5の間のものは31個、2.5～2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も２個含まれている。原石の比重が2.6～2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶系色と緑系色の縞があるなど、多少色の違いがあっても分析した組成上には大きな差はみられなかった。出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②島根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるにしたがって比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619～2.600の間のものは10個、2.599～2.500は18個、2.499～2.400は７個、2.399～2.300は11個、2.299～2.200は11個、2.199～2.104は３個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。花仙山産原石は色の違い、比重の違いによる分析組成の差はみられなかった。玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で産出する碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。ま

た、原石の中には緑系色に茶系色が混じるものもみられ、これは佐渡猿八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡猿八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644～2.600は23個、2.599～2.589は４個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる分析組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから、露頭は医王山に存在する可能性がある。ここの河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーンタフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分として見られる。分析した４個の原石の中で、３個は同一塊から３分割したもので、1個は別の塊からのもので、前者の３個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地の組成と異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析数を増やす必要がある。細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーンタフの岩脈に団塊として緻密な濃緑の碧玉質の部分が見られる。それは肉眼では、他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重が分析した８個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。興部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。石戸の産地は、⑧兵庫県氷上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が４個、2.62.5が５個、2.5 2.4が５個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質の碧玉を多数収集することは困難である。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作り表１－１に示す。各母集団に原産地名を付けて、その産地の原石群、例えば花仙山群と呼ぶ。花仙山群は比重によって２個の群に分けて表に示したが比重は異なっても組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒にして行い、花仙山群として取り扱った。原石群とは異なるが、例えば、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製の玉の原材料で、玉作り行程途中の遺物が多数出土している。当初、原石産地を探索すると言う目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南Ｂ（女代Ｂ）群であるが、同質の材料で作られた可能性がある玉類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。宇木汲田遺跡の管玉に産地未発見の原石を使用した同質の材料で作られた管玉で作った未定Ｃ（未定(C)）群をそれぞれ原石群と同じように使用する。また、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)の遺物群、多摩ニュウタウン遺跡、梅田古墳群、上ノ段遺跡、梅田東古墳群、

新方遺跡などから出土した玉類および玉材剥片でそれぞれ遺物群を作り他の遺跡、墳墓から出土する玉類に組成が一致するか定量的に判定できるようにし、遺物群を表１－２に示した。この他、鳥取県の福部村多鯰池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素比組成は、興部、玉谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石とは組成で区別される。また、緑系の原石ではない。最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大１個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光Ｘ線分析の結果では、興部産碧玉に似ているが、ＥＳＲ信号および比重（2.35）が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。

中野美保遺跡出土の管玉と国内産碧玉原材との比較

遺跡から出土した玉材は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原材産地の同定をするために、（１）蛍光Ｘ線法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数理統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。（２）また、ＥＳＲ分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石の産地の原材であると推測する方法も応用した。

蛍光Ｘ線法による産地分析

管玉の比重および蛍光Ｘ線分析による元素組成比を求めて結果を表２に示す。碧玉と分類した遺物は、緻密で、蛍光Ｘ線分析でRb, Sr, Y, Zrの各元素が容易に観測できるなどを条件に分類した。また、緑色凝灰岩（グリーンタフ）製は比重が2.4に達しない玉材が多い。分析した管玉の比重は2.173で緑色凝灰岩製の可能性が高い。管玉の元素組成比の結果を碧玉原石群（表１）の結果と比較する。また分析個数が少なくて統計処理ができる群が作れなかった産地については、原石の元素組成比を今回分析した管玉と比較したが一致するものは見られなかった。原石の数が多く分析された原産地については、数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリングＴ２乗検定[6]により同定を行ったところ、何処の原石群、遺物群とも一致しなかった。これら一致しなかった全ての原石・遺物群（表１）について、信頼限界の0.1％に達しないことを証明しているが、紙面都合上、表３には原石・遺物群（表１）の中から高確率で同定された原石・遺物群を抜粋して記した。一致した出雲№１遺物群は、今回分析した管玉の分析場所を変えて統計処理が可能な30回分析し、出雲№１遺物群を作り、この管玉と同じ岩塊で作られた兄弟玉類が他の遺跡で使用されているときに判定できるように、新しく原石・遺物群（表１）に登録した。より正確に産地を特定するためにＥＳＲ分析を併用して総合的に産地分析を行った。

ＥＳＲ法による産地分析

ＥＳＲ分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ＥＳＲの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11㎜以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。図３－（１）のＥＳＲのスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、ｇ値が4.3の小さな信号（Ｉ）は鉄イオンによる信号で、

ｇ値が２付近の幅の広い信号（Ⅱ）と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号（Ⅲ）で構成されたている。図３－（１）では、信号（Ⅱ）より信号（Ⅲ）の信号の高さが高く、図３－（２）、（３）の二俣、細入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。各原産地の原石の信号（Ⅲ）の信号の形は産地ごとに異同があり産地分析の指標となる。図４－（１）に花仙山、猿八、玉谷、土岐を図４－（２）に興部、石戸、八代谷－４、女代Ｂ遺物群、八代谷および図４－（３）に富良野市空知川の空知（Ａ）、（Ｂ）、北海道今金町花石および茂辺地川の各原石の代表的な信号（Ⅲ）のスペクトルを示す。図４－（４）には宇木汲田遺跡の管玉で作った未定Ｃ形と未定Ｄ形およびグリーンタフ製管玉によく見られる不明Ｅ形を示した。ＥＳＲ分析では管玉のＥＳＲ信号の形が、それぞれ似た信号を示す原石、産地不明遺物群のＥＳＲ信号形と一致した場合、そこの産地の可能性が大きいことを示唆している。今回分析した管玉のＥＳＲ信号（Ⅲ）の結果を図５に示す。この管玉のＥＳＲ信号は花仙山産の信号に似ているが、Ｂ、Ｃ、Ｌの位置の信号ピークが花仙山産の信号に比べて非常に小さく、花仙山産の信号が崩れた形で、Ｂ、Ｃ、Ｌの信号を出す、色中心とか鉱物イオンの含有量が花仙山産に比べて非常に少ないと推測される。より正確な原石産地を推測するために蛍光Ｘ線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法でともに同じ原産地に特定された場合は、蛍光Ｘ線の元素分析のみで判定した原石・遺物群産地よりも正確に、そこの原石・遺物群と同じものが使用されているとして総合判定原石産地の欄に結果（表３）を記した。

結　論

分析した管玉は、比重が2.173と軽く、緑色凝灰岩製の可能性が推測され、蛍光Ｘ線分析の結果では、調査した原石・遺物群の何処にも一致しなかった。ＥＳＲ分析結果は遺跡から近い花仙山産のＥＳＲ信号に似て、花仙山産碧玉との関係も推測できるが、一致したと判定できなかった。この原石産地が特定できなかった管玉で作った美保１遺物群については、この玉材と同じ岩塊で作られた兄弟玉類が他の遺跡で使用されているときに判定できるように、新しく原石・遺物群（表１）に登録し、またＥＳＲ信号を形も判定の指標して、より正確にこれら遺物群の使用圏が求められるようにした。本遺跡に近い花仙山産碧玉は、笠見第３遺跡で管玉未製品として使用された例が、花仙山産原石が国内最初に玉の原材料として使用された例である。女代南Ｂ遺物群は弥生時代を中心に多用された原石で、豊岡市の女代南遺跡の中期の玉作り過程の石片、滋賀県の筑摩佃、立花遺跡出土の管玉、神戸市の玉津田中遺跡の中期の石片、管玉には玉谷産と共に使用されていた。玉谷産碧玉は、京都府の余部遺跡で剥片が出土している。関東地方では埼玉県蓮田市宿下遺跡、東海地方では、清洲町朝日遺跡、新城市大宮の大ノ木遺跡の弥生時代の管玉に、畿内地域では東大阪市の、鬼虎川、巨摩、亀井、久宝寺北、久宝寺南遺跡で、また中国地方では、作用町の長尾・沖田遺跡の中期末の管玉、総社市の南溝手遺跡出土の弥生前期末～中期初頭の玉材、岡山市の百間川原尾島遺跡出土の管玉、岡山県川上村下郷原和田遺跡の管玉、鳥取県羽合町の長瀬高浜遺跡の中期中葉の管玉、米子市の御建山遺跡尾高19号墳第２主体部出土の管玉、東広島市の西本６号遺跡の管玉に使用されている。四国地方では徳島県板野町の蓮華谷古墳群Ⅱ、２号墳、３世紀末の管玉、香川県善通寺市の彼ノ宗遺跡の末期の管玉に使用され、九州地方では、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、また宇木汲田遺跡の管玉に使用されていた。また、続縄文時代には北海道の上磯町茂別遺跡、余市大川遺跡、

千歳市キウス遺跡にまで伝播し、女代南Ｂ群の原石は糸魚川産ヒスイに匹敵する広い分布圏を示している。一方、今だ畿内では使用が確認されていない管玉として、南溝手遺跡の中期前葉の管玉片には、唐津市の宇木汲田遺跡の管玉で作った原石群の未定Ｃ群の原石が使用され、この未定Ｃ群は坂出市の龍川・五条遺跡の管玉、今治市の持田町３丁目遺跡の前期の管玉、大和町の尼寺一本松遺跡の管玉、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、吉野ヶ理遺跡の南西サブトレ出土の管玉に使用されている。また、猿八産原石が弥生時代に使用されている遺跡は、北海道余市町の大川遺跡および茂別遺跡の続縄文時代では女代南Ｂ群原石の管玉と共に使用され、江別市の大麻22遺跡出土の続縄文（後北Ｃ１式）の管玉に、七飯町の大中山13遺跡（続縄文）出土の管玉に使用され、佐渡島以北で主に使用されていることが明らかになっている。西日本では、鳥取県の高瀬長浜遺跡では女代南Ｂ群と同時に猿八産碧玉が使用されているにすぎない。これら佐渡産碧玉、女代南Ｂ群の剥片出土遺跡は、豊岡市、米原町、福井県など日本海側で、これら玉類が日本海の玉材原産地地方で作られ、これら玉類の使用圏からみて、日本海を交易ルートとし遠距離に伝播したと推測され、伝播には遺跡をリレー式に伝わる場合、また、産地から遠距離の遺跡に直接到達する場合などが考えられる。未定Ｃ群は、朝日遺跡で使用されている可能性が推測されたことから、推測は空論になるが、未定Ｃ群の管玉が韓国で作られ、西北九州地方および瀬戸内海ルートを通って伊予、備前、讃岐へ流入し現在の東進の限界になっている。朝日遺跡での使用は、播磨、摂津、大和、近江を飛び越え、尾張の朝日遺跡に伝播したことが明らかになり東進の限界が一気に300km延びる可能性がでている（図２）。笠見第３遺跡で使用されている最古（弥生時代後期）の花仙山産原石の管玉未製品は、花仙山産原石地が笠見第３遺跡から近いにもかかわらず、圧倒的に、北陸産と推測している女代南Ｂ遺物群が搬入されている。これは遺跡から近い産地が多用されるとは限らないことを示し、先史の交易を推測する貴重な例と思われる。玉類の産地分析を行うときの困難さは原石の入手で、産地同定を定量的に行う場合、統計処理の母集団（原石群）を作り、原石群の組成の変動を評価するため多数の原石が必要で、今後、佐渡島猿八産原石が佐渡島以南に本当に伝播していないかを調査し、女代南Ｂ群、未定Ｃ群、不明の管玉などの原石産地を明らかにし、これら不明の原石群を作ること、また、玉類に使用されている産地の原石が多い方が、その産地地方との文化交流が強いと推測できることから、日本各地の遺跡から出土する貴重な管玉を数多く分析することが重要で、是非とも各地の遺跡の詳細な碧玉製遺物の科学的調査が必要であるが現在調査が殆ど進んでいないのが現状で、国庫補助での発掘調査には必ず科学的調査も加えるべきだと思う。今回行った産地分析は完全な非破壊で、玉類、碧玉産地に関する小さな情報であっても御提供頂ければ研究はさらに前進すると思われます。

参考文献

１）茅原一也（1964）、長者が原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報）。長者ケ原、新潟県糸魚川市教育委員会：63-73

２）藁科哲男・東村武信（1987）、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要６：1-18

３）藁科哲男・東村武信（1990）、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』，14：95-109

４）藁科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16：59-89

５）Tetsuo Warashina (1992), Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of

Archaeological Science 19:357-373
6）東村武信（1976），産地推定における統計的手法。考古学と自然科学，9：77-90

表１－１　各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原石群名	分析個数	Ａｌ／Ｓｉ	Ｋ／Ｓｉ	Ｃａ／Ｋ	Ｔｉ／Ｋ	Ｋ／Ｆｅ	Ｒｂ／Ｆｅ	Ｆｅ／Ｚｒ	Ｒｂ／Ｚｒ	Ｓｒ／Ｚｒ	Ｙ／Ｚｒ	Ｍｎ／Ｆｅ	Ｔｉ／Ｆｅ	Ｎｂ／Ｚｒ	比　重
		Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ	Ｘａｖ±σ
興　部	31	0.011±0.003	0.580±0.320	0.123±0.137	0.061±0.049	0.022±0.006	0.070±0.021	174.08±124.9	16.990±13.44	0.668±0.435	1.801±1.434	0.004±0.003	0.001±0.001	0.455±0.855	2.626±0.032
空知Ａ１	42	0.039±0.006	1.026±0.281	2.728±0.907	0.547±0.119	0.042±0.011	0.124±0.058	3.309±1.295	0.353±0.101	12.485±3.306	0.032±0.045	0.028±0.009	0.020±0.005	0.007±0.010	2.495±0.039
空知Ａ２	46	0.021±0.008	0.866±0.447	0.797±0.393	0.225±0.050	0.032±0.006	0.039±0.007	25.866±11.50	1.023±0.499	7.433±4.531	0.378±0.198	0.009±0.003	0.006±0.002	0.118±0.167	2.632±0.012
空知Ｂ	47	0.064±0.004	3.600±0.328	0.088±0.008	0.101±0.009	0.242±0.037	0.460±0.055	2.137±0.274	0.974±0.110	0.190±0.082	0.137±0.022	0.015±0.002	0.022±0.004	0.134±0.024	2.607±0.001
猿　八	36	0.046±0.007	3.691±0.548	0.049±0.038	0.058±0.011	0.370±0.205	0.384±0.153	1.860±1.070	0.590±0.185	0.139±0.127	0.165±0.138	0.003±0.001	0.018±0.010	0.032±0.014	2.543±0.049
土　岐	51	0.006±0.004	0.361±0.131	0.072±0.063	0.098±0.063	0.023±0.005	0.096±0.025	43.067±23.28	4.056±2.545	0.271±0.308	0.159±0.180	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.160	2.607±0.009
玉　谷	27	0.025±0.009	0.625±0.297	0.110±0.052	0.476±0.104	0.045±0.014	0.151±0.020	6.190±1.059	0.940±0.205	0.192±0.170	0.158±0.075	0.006±0.003	0.016±0.003	0.054±0.021	2.619±0.014
花仙山１	27	0.019±0.004	0.909±0.437	0.171±0.108	0.222±0.098	0.059±0.019	0.225±0.028	10.633±3.616	2.345±0.693	0.476±0.192	0.098±0.052	0.001±0.001	0.009±0.002	0.042±0.034	2.570±0.044
花仙山２	33	0.023±0.003	1.178±0.324	0.157±0.180	0.229±0.139	0.055±0.015	0.219±0.028	12.677±2.988	2.723±0.519	0.472±0.164	0.132±0.071	0.001±0.001	0.009±0.004	0.035±0.025	2.308±0.079
細　入	8	0.019±0.003	0.534±0.284	0.991±0.386	0.372±0.125	0.031±0.008	0.073±0.020	12.884±3.752	0.882±0.201	1.879±0.650	0.026±0.032	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.344	2.169±0.039
二　俣	4	0.043±0.001	2.644±0.183	0.337±0.079	0.158±0.009	0.312±0.069	0.338±0.039	1.495±0.734	0.481±0.176	0.697±0.051	0.088±0.015	0.007±0.002	0.043±0.010	0.043±0.023	2.440±0.091
石　戸	4	0.019±0.004	0.601±0.196	0.075±0.022	0.086±0.038	0.154±0.072	0.170±0.079	7.242±1.597	1.142±0.315	0.649±0.158	0.247±0.092	0.007±0.001	0.009±0.002	0.227±0.089	2.598±0.008
茂辺地川	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051	0.003±0.008	0.016±0.001	0.132±0.069	2.536±0.033
ｹｼｮﾏｯﾌﾟ１	44	0.040±0.007	2.745±0.957	0.234±0.139	0.135±0.030	0.067±0.008	0.096±0.007	5.720±0.608	0.543±0.034	0.489±0.184	0.146±0.027	0.003±0.001	0.009±0.001	0.035±0.018	2.287±0.013

Ｘａｖ：平均値、σ：標準偏差値

表１－２　各原石産地不明碧玉玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺物群名	分析回数	Al／Si	K／Si	Ca／K	Ti／K	K／Fe	Rb／Fe	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Mn／Fe	Ti／Fe	Nb／Zr	比　重
		Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ	Xav±σ
女代南B	68	0.045±0.016	3.115±0.445	0.042±0.024	0.107±0.036	0.283±0.099	0.267±0.063	2.374±0.676	0.595±0.065	0.214±0.097	0.171±0.047	0.011±0.004	0.026±0.009	0.034±0.016	2.554±0.019
未定C	58	0.030±0.028	4.416±0.618	0.013±0.013	0.207±0.034	0.589±0.130	0.650±0.113	0.583±0.110	0.369±0.035	0.090±0.030	0.070±0.026	0.002±0.001	0.101±0.019	0.019±0.016	2.646±0.023
車塚１	33	0.030±0.015	3.774±0.404	0.015±0.005	0.278±0.043	0.334±0.031	0.469±0.030	0.782±0.071	0.365±0.016	0.071±0.012	0.090±0.060	0.002±0.001	0.081±0.013	0.033±0.013	2.619±0.019
車塚２	45	0.035±0.015	4.066±0.618	0.012±0.004	0.232±0.025	0.544±0.118	0.672±0.112	0.540±0.122	0.350±0.036	0.070±0.280	0.057±0.019	0.002±0.001	0.109±0.023	0.028±0.013	2.6I6±0.019
牟田辺	58	0.082±0.042	3.327±0.450	0.853±0.213	0.913±0.178	0.091±0.019	0.161±0.018	1.342±0.160	0.214±0.026	2.140±0.412	0.064±0.024	0.008±0.003	0.067±0.008	0.018±0.010	2.1～
長塚(1)	47	0.036±0.004	3.525±0.347	0.033±0.005	0.439±0.050	0.204±0.037	0.361±0.040	2.756±0.473	0.980±0.110	0.472±0.083	0.379±0.143	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.016
長塚(2)	45	0.028±0.007	2.659±0.122	0.010±0.004	0.064±0.003	0.719±0.065	0.832±0.054	0.412±0.038	0.341±0.023	0.036±0.010	0.386±0.242	0.004±0.001	0.047±0.004	0.024±0.013	2.569±0.003
№200-1	32	0.042±0.004	0.808±0.025	3.588±0.074	0.639±0.016	0.051±0.002	0.042±0.006	1.751±0.149	0.073±0.016	4.665±0.374	0.239±0.026	0.006±0.001	0.033±0.001	0.006±0.009	2.308
№200-2	28	0.037±0.004	0.990±0.021	2.384±0.067	0.605±0.029	0.064±0.003	0.072±0.011	1.422±0.075	0.102±0.015	6.680±0.322	0.170±0.017	0.008±0.001	0.038±0.002	0.006±0.010	2.277
№200-3	28	0.039±0.003	0.926±0.020	2.527±0.114	1.085±0.059	0.053±0.002	0.053±0.009	1.668±0.093	0.088±0.015	4.455±0.197	0.343±0.031	0.014±0.003	0.058±0.003	0.002±0.005	2.27
№200-4	32	0.047±0.007	0.855±0.025	3.771±0.079	1.228±0.035	0.057±0.003	0.118±0.023	1.110±0.129	0.130±0.030	9.626±1.090	0.117±0.025	0.005±0.001	0.068±0.002	0.006±0.008	2.256
№200-6	32	0.040±0.006	4.185±0.162	0.031±0.006	0.103±0.003	0.821±0.019	0.692±0.040	0.646±0.037	0.447±0.025	0.207±0.020	0.296±0.026	0.011±0.002	0.082±0.003	0.038±0.026	2.542
梅田１	40	0.021±0.003	1.204±0.094	0.066±0.017	0.143±0.008	0.065±0.005	0.220±0.029	12.333±0.882	2.710±0.421	0.273±0.374	0.741±0.134	0.001±0.000	0.009±0.001	0.014±0.019	2.579±0.013
梅田２	44	0.032±0.004	2.539±0.246	0.025±0.006	0.522±0.050	0.172±0.035	0.299±0.051	3.517±0.603	2.024±0.053	0.316±0.048	0.283±0.066	0.005±0.001	0.080±0.011	0.035±0.015	2.531±0.007
梅田３	40	0.027±0.003	1.911±0.062	0.020±0.007	0.518±0.010	0.261±0.012	0.430±0.017	3.262±0.209	1.401±0.057	0.338±0.028	0.386±0.048	0.005±0.001	0.121±0.005	0.033±0.027	2.511
梅田４	38	0.081±0.008	7.149±0.288	0.023±0.003	0.082±0.002	0.558±0.020	0.473±0.026	1.003±0.046	0.473±0.018	0.222±0.032	0.100±0.013	0.006±0.001	0.039±0.002	0.039±0.010	2.446
上ノ段１	42	0.014±0.002	0.413±0.046	0.054±0.026	0.395±0.040	0.053±0.005	0.223±0.020	3.772±0.448	0.833±0.068	0.077±0.037	0.296±0.053	0.006±0.001	0.019±0.001	0.014±0.018	2.636±0.001
梅田東１	51	0.030±0.007	1.974±0.317	0.026±0.011	0.529±0.061	0.192±0.011	0.219±0.019	2.366±0.474	0.512±0.069	0.072±0.024	0.101±0.042	0.008±0.001	0.095±0.014	0.027±0.018	2.541±0.016
新方１	67	0.062±0.005	1.868±0.115	1.640±0.137	0.733±0.069	0.078±0.012	0.111±0.205	1.610±0.264	0.175±0.018	8.298±0.619	0.078±0.019	0.050±0.020	0.046±0.006	0.027±0.009	2.290±0.018
新方２	30	0.056±0.005	4.152±0.162	0.226±0.181	0.313±0.010	0.212±0.019	0.297±0.018	3.847±0.314	1.137±0.057	0.649±0.095	0.139±0.053	0.010±0.003	0.061±0.004	0.032±0.017	2.546±0.011
新方３	39	0.044±0.008	0.912±0.178	2.416±0.174	0.786±0.267	0.080±0.011	0.086±0.018	1.685±0.413	0.144±0.050	7.449±1.605	0.182±0.056	0.068±0.027	0.057±0.013	0.007±0.007	2.257±0.024
新井１	51	0.046±0.004	3.875±0.879	0.316±0.009	0.234±0.004	0.146±0.018	0.255±0.021	1.874±0.168	0.476±0.020	1.994±0.080	0.077±0.022	0.084±0.001	0.035±0.001	0.021±0.011	2.482
亀井３	41	0.112±0.010	3.879±0.431	0.122±0.022	0.668±0.030	0.034±0.004	0.073±0.011	9.768±0.951	0.706±0.062	0.117±0.011	0.126±0.022	0.005±0.001	0.022±0.002	0.094±0.020	2.530±0.054
東船２	40	0.118±0.001	0.466±0.010	0.376±0.009	0.108±0.004	0.020±0.001	0.087±0.004	48.841±6.946	4.250±0.538	0.756±0.136	0.056±0.074	0.001±0.000	0.002±0.000	0.115±0.058	2.190　吸水
山ノ奥１	42	0.013±0.002	0.608±0.049	0.080±0.015	0.355±0.018	0.136±0.011	0.278±0.025	1.052±0.082	0.291±0.015	0.083±0.010	0.142±0.015	0.010±0.001	0.045±0.002	0.027±0.016	2.461
昼飯３	48	0.028±0.005	2.002±0.046	0.020±0.010	0.442±0.015	0.169±0.009	0.290±0.014	0.967±0.040	0.280±0.010	0.052±0.007	0.062±0.010	0.002±0.001	0.070±0.002	0.035±0.010	2.501
昼飯４	48	0.030±0.005	2.078±0.122	0.040±0.018	0.702±0.032	0.132±0.008	0.263±0.009	3.774±0.170	0.991±0.049	0.227±0.035	0.145±0.048	0.005±0.001	0.083±0.002	0.035±0.015	2.579
斉当坊６	45	0.045±0.004	3.512±0.108	0.038±0.004	0.090±0.003	0.839±0.059	0.618±0.047	0.849±0.074	0.522±0.020	0.181±0.011	0.984±0.219	0.015±0.001	0.070±0.004	0.030±0.033	2.554
笠見3-5	46	0.103±0.010	4.761±0.127	0.039±0.005	0.513±0.069	0.090±0.003	0.157±0.006	1.470±0.050	0.231±0.007	0.574±0.047	0.022±0.015	0.008±0.001	0.044±0.006	0.025±0.005	2.249－2.098
笠見８	40	0.079±0.008	3.542±0.123	0.148±0.014	0.561±0.019	0.044±0.001	0.047±0.004	2.782±0.184	0.131±0.014	1.861±0.149	0.028±0.009	0.008±0.001	0.024±0.001	0.023±0.006	2.257
笠見10	48	0.100±0.008	4.776±0.117	0.064±0.004	0.600±0.007	0.078±0.001	0.097±0.009	1.650±0.059	0.159±0.016	2.187±0.074	0.020±0.014	0.009±0.001	0.046±0.001	0.018±0.005	2.278
笠見４	45	0.105±0.002	0.135±0.005	0.313±0.043	0.781±0.030	0.013±0.001	0.045±0.005	7.429±0.531	0.332±0.035	0.220±0.037	0.105±0.032	0.059±0.002	0.010±0.001	0.049±0.027	2.61
笠見13	45	0.088±0.008	4.591±0.091	0.123±0.005	0.439±0.008	0.074±0.002	0.099±0.007	2.090±0.151	0.206±0.013	1.523±0.108	0.028±0.010	0.008±0.001	0.032±0.001	0.024±0.007	2.297
矢野４	46	0.039±0.004	2.666±0.087	0.042±0.006	0.144±0.003	0.482±0.018	0.456±0.019	0.911±0.041	0.415±0.016	0.173±0.011	0.262±0.023	0.008±0.001	0.064±0.002	0.024±0.016	2.456
青田77	48	0.038±0.005	2.294±0.066	0.109±0.009	0.302±0.008	0.273±0.010	0.401±0.018	1.349±0.077	0.540±0.026	0.627±0.035	0.143±0.024	0.004±0.001	0.077±0.003	0.033±0.019	2.583
青田78	48	0.053±0.007	2.304±0.206	0.432±0.011	0.766±0.016	0.072±0.003	0.116±0.009	1.643±0.158	0.190±0.021	1.583±0.113	0.031±0.019	0.011±0.001	0.051±0.002	0.024±0.009	2.403
菜畑	36	0.029±0.019	3.666±0.328	0.081±0.034	0.268±0.050	0.529±0.189	0.674±0.256	0.548±0.131	0.337±0.017	0.198±0.096	0.103±0.038	0.005±0.002	0.129±0.028	0.035±0.016	2.521±0.027
石田２	30	0.019±0.001	1.325±0.043	0.010±0.007	1.041±0.047	0.109±0.003	0.157±0.005	1.810±0.058	0.281±0.011	0.010±0.006	0.049±0.006	0.022±0.006	0.102±0.003	0.025±0.010	2.425
石田３	30	0.014±0.001	0.461±0.059	0.001±0.003	0.335±0.038	0.098±0.011	0.134±0.014	4.288±0.414	0.567±0.062	1.160±0.117	0.204±0.035	0.065±0.009	0.029±0.002	0.010±0.018	2.63
美保１	30	0.095±0.002	4.703±0.190	0.140±0.006	0.421±0.013	0.062±0.005	0.101±0.010	3.071±0.337	0.304±0.006	0.483±0.011	0.039±0.002	0.001±0.001	0.023±0.002	0.024±0.003	2.173

Xav：平均値、σ：標準偏差値　比重2.29以下は緑色凝灰岩女代南B：女代南遺跡(豊岡市)、未定C：宇木汲田遺跡(唐津市)、車塚１，２：車塚古墳(交野市)、牟田辺：牟田辺遺跡(多久市)、長塚(1),(2)：長塚古墳(可児市)、№200-1～6：多摩ニュウタウン遺跡(東京都)、梅田１～４：梅田古墳(兵庫県和田山町)、梅田東１：梅田東古墳(兵庫県和田山町)、上ノ段１：上ノ段遺跡(兵庫県島町)、新方１～３：新方遺跡(神戸市)、新井１：新井三丁目遺跡(東京都中野区)、亀川３：亀川遺跡(阪南市自然田)、東船１：東船遺跡(島根県今津町)、山ノ奥１：山ノ奥遺跡(岡山県)、昼飯３，４：昼飯大塚古墳(大垣市)、斉当坊６：市田斉当坊(京都府久御山町)、笠見３～13：笠見第３遺跡(鳥取県東伯町)矢野４：矢野遺跡(徳島市)、青田77､78：青田遺跡(新潟県加治川村)、菜畑(唐津市)、石田２，３：石田古墳(松江市)、美保１：中野美保遺跡(出雲市)で使用されている原石産地不明の玉類で作った群。

表２－１　中野美保遺跡出土管玉の分析結果

分析番号	元素比							
	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr
92053	0.095	4.438	0.142	0.422	0.056	0.089	3.463	0.308
JG-1[a)]	0.067	3.392	0.774	0.237	0.111	0.263	3.795	0.998

表２－２　中野美保遺跡出土管玉の分析結果

分析番号	元素比					重量 gr	比重
	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr		
92053	0.489	0.039	0.001	0.0218	0.025	0.24144	2.173
JG-1[a)]	1.345	0.281	0.024	0.024	0.079		

a）：標準試料、Ando,A., Kurasawa,H.,Ohmori,T. & Takeda,E.（1974）. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192.

表３　中野美保遺跡管玉の原材産地分析結果

分析番号	通番	出土区	形態	原石産地（確率）	ＥＳＲ信号形	総合判定	色調
92053	1	NM５区 SI01	管玉	美保№１遺物群（85%）	崩花仙山形	不明	緑系灰色

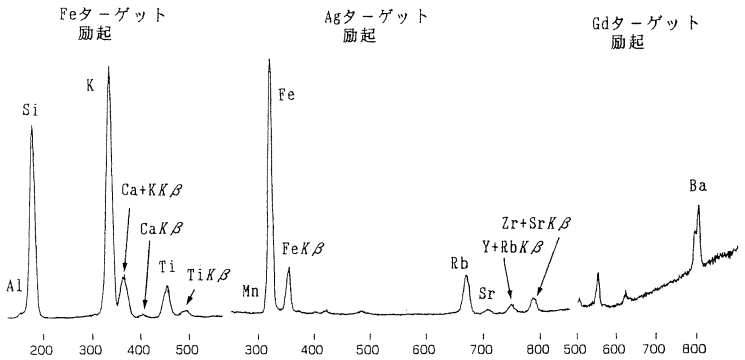


図１　花仙山産碧玉原石の蛍光Ｘ線スペクトル

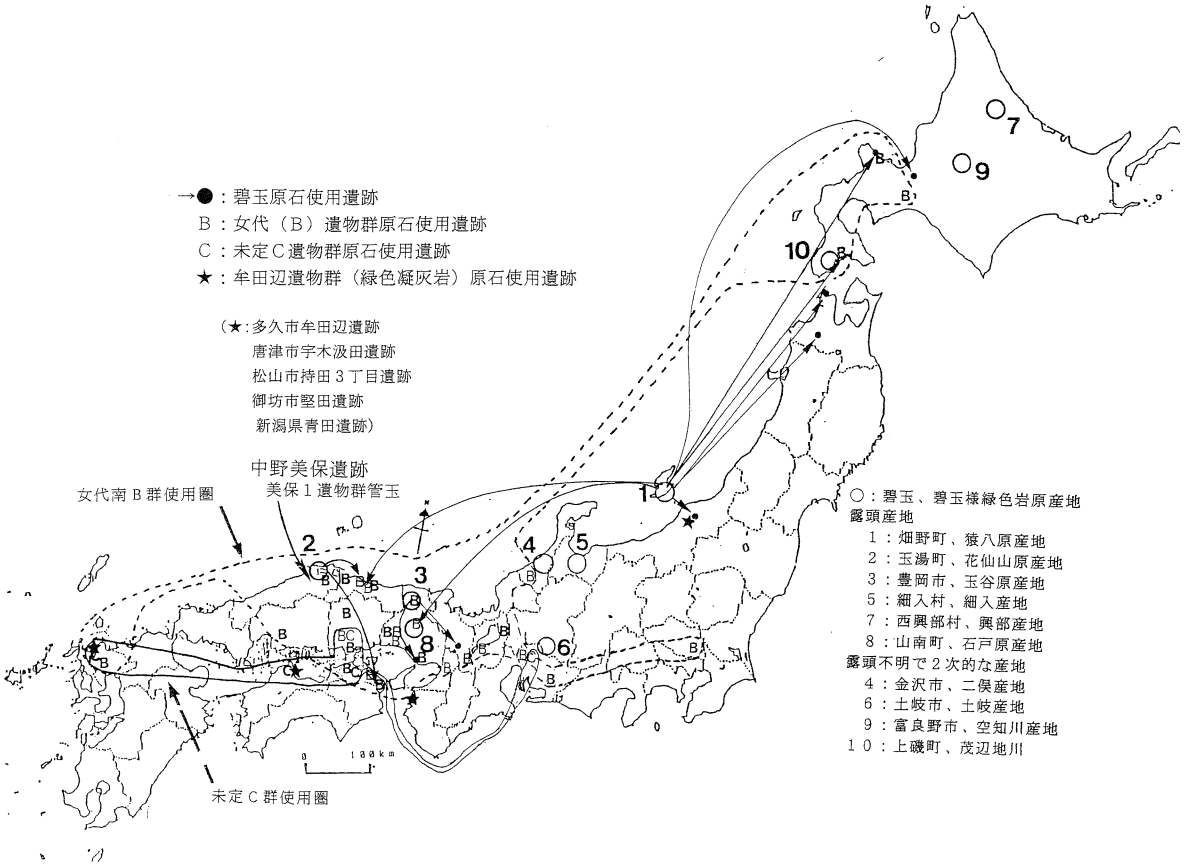


図２　弥生（続縄文）時代の碧玉製、緑色凝灰岩製玉類の現在使用分布圏および碧玉・碧玉様岩の原産地

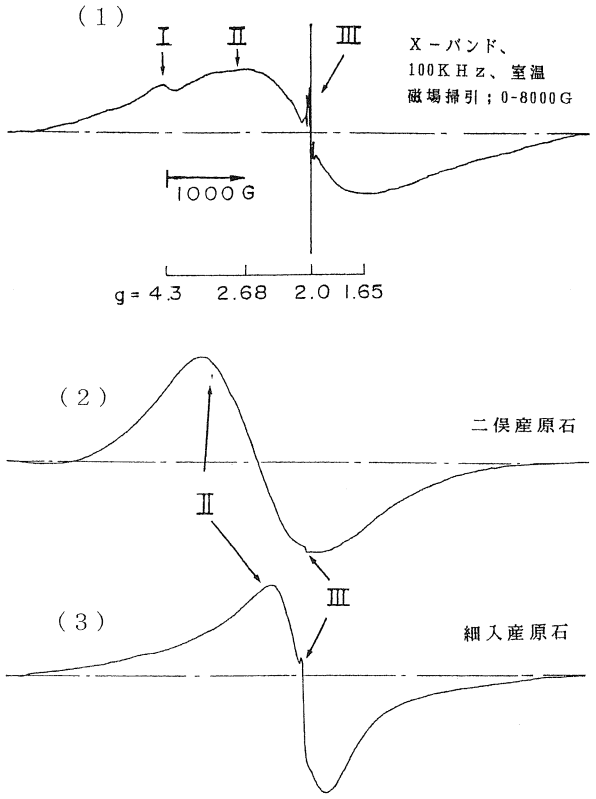


図３　碧玉原石のＥＳＲスペクトル

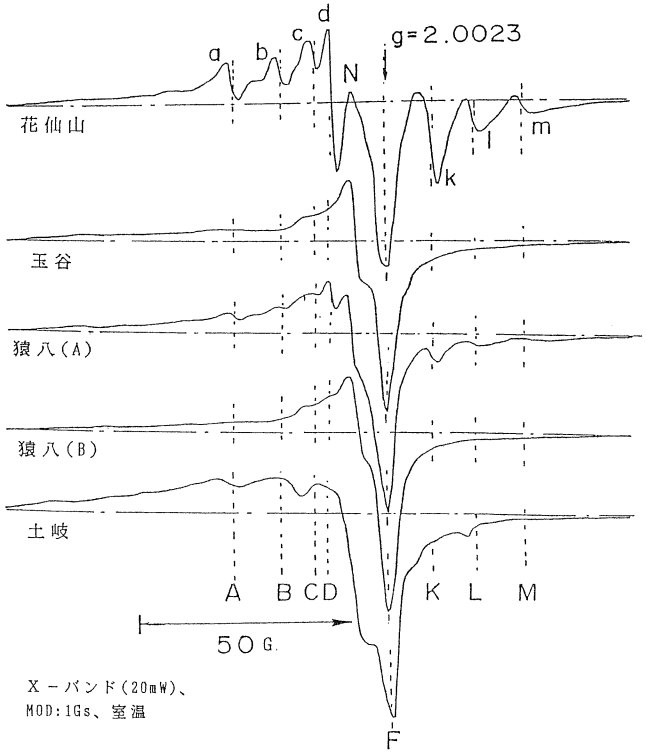


図４－（１）　碧玉原石の信号(III)のＥＳＲスペクトル

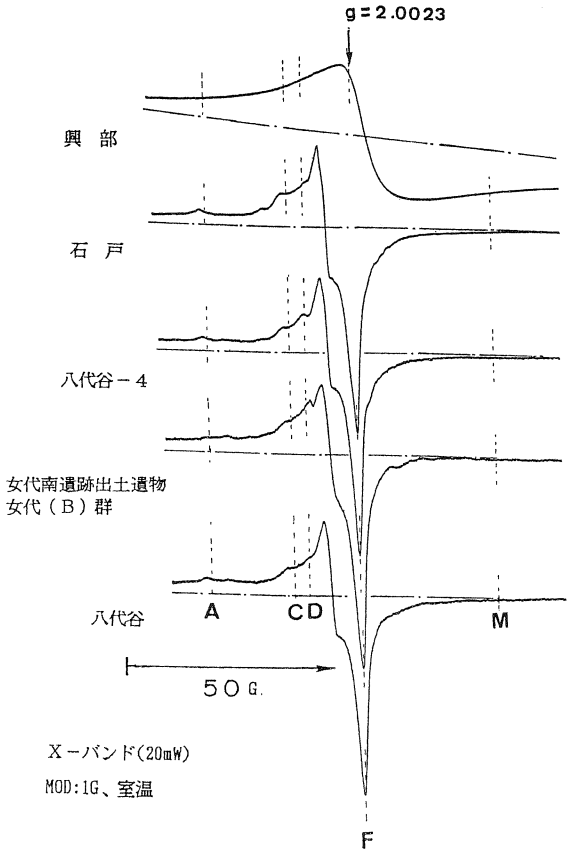
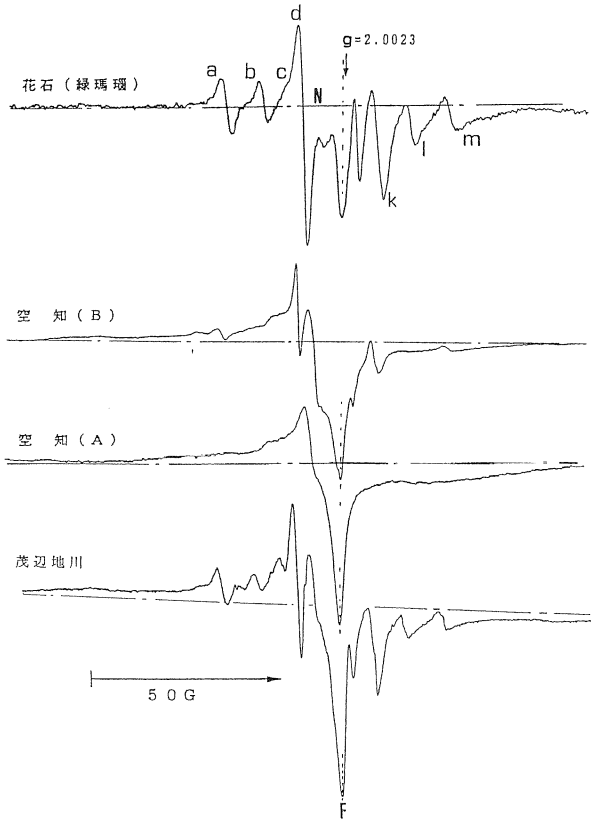
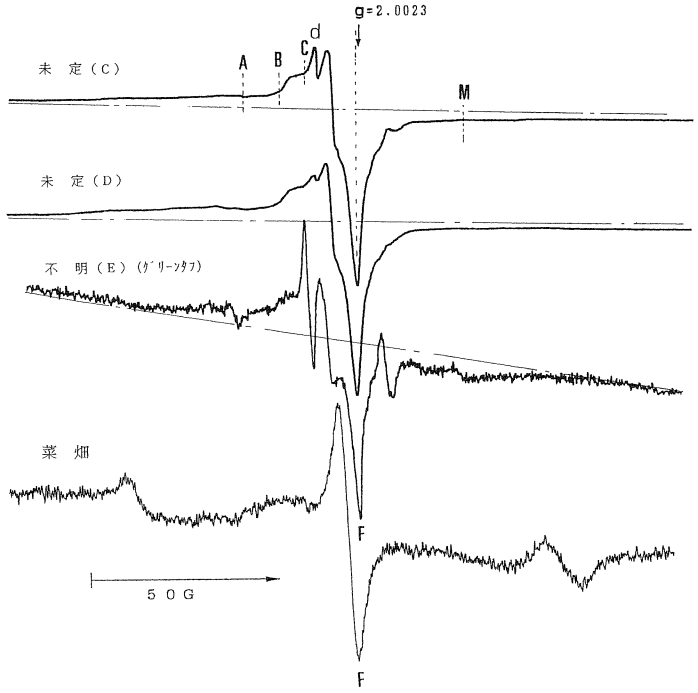
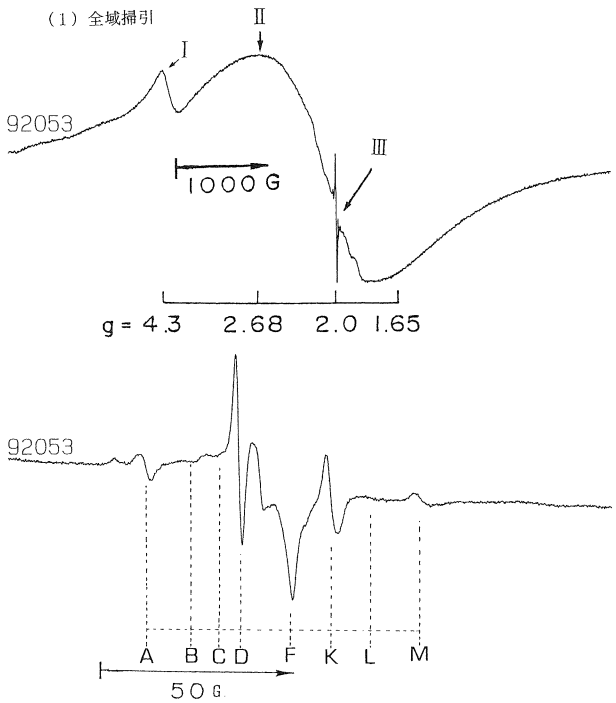


図４－（２）　碧玉原石の信号(III)のＥＳＲスペクトル







（2）信号（III）のＥＳＲスペクトル

図４－（３）　碧玉原石の信号(III)のＥＳＲスペクトル　　図４－（４）　碧玉原石の信号(III)のＥＳＲスペクトル　　図５　中野美保遺跡出土管玉の信号(I・II・III)のＥＳＲスペクトル

第6章　考　察

第１節　四隅突出型墳丘墓の付随施設について
－「円形状石組」の認識に関して－

はじめに

中国地方の山間部や日本海沿岸部を中心に営まれる四隅突出型墳丘墓は、地域史的研究はもとより列島規模の弥生後期社会像を描く上でも重要な位置にある考古資料として、広く研究の俎上に上っている。この四隅突出型墳丘墓を考古資料として分析する際に、最も注目されてきたのが「突出部」である。型式学的研究を始め[註1)]、突出部を構成する諸要素を分類し、その組み合わせ関係を様式的に捉える新しい検討も行われている[註2)]。一方で、貼石や列石などの「配石構造」の分類検討も試みられ、型式的な変遷過程、系譜差、地域性、墳丘規模に見る階層性等が検討されている[註3)]。

小稿では四隅突出型墳丘墓の「突出部」の形態、貼石の形態とは別に、これまであまり注目されていなかった列石と貼石に付随、あるいは利用して造られている円形状の石組（以下、「円形状石組」とする）について検討を行う。

「円形状石組」の初例と考えられるものが、これと同義のものか否かという検討も必要であるが、「ストーンサークル」という名称で島根県邑智郡瑞穂町所在の順庵原１号墓で報告されている[註4)]。非常に特殊な遺構であったため、四隅突出型墳丘墓関連の研究では川原和人氏や吉川正氏の見解を除き[註5)]、その後は議論の対象とはならなかった[註6)]。

今回この「円形状石組」を取り上げたのは、中野美保１号墓の調査の中で、使用石材の形状から順庵原１号墓の「ストーンサークル」とは規模において異なるが、円形状に組まれた石組みが検出されたことに端を発する。主に「円形状石組」の評価とその位置づけに対して見通しを述べることを目的とする。同時に「そもそも、石が円形に組まれているという状態が、客観的な観察の結果見出されたものなのか、主観的な認識によるものなのか。」という意見が十分に予想されるので、これに対する当報告書の説明責任の１つとして小稿をなすこととした。

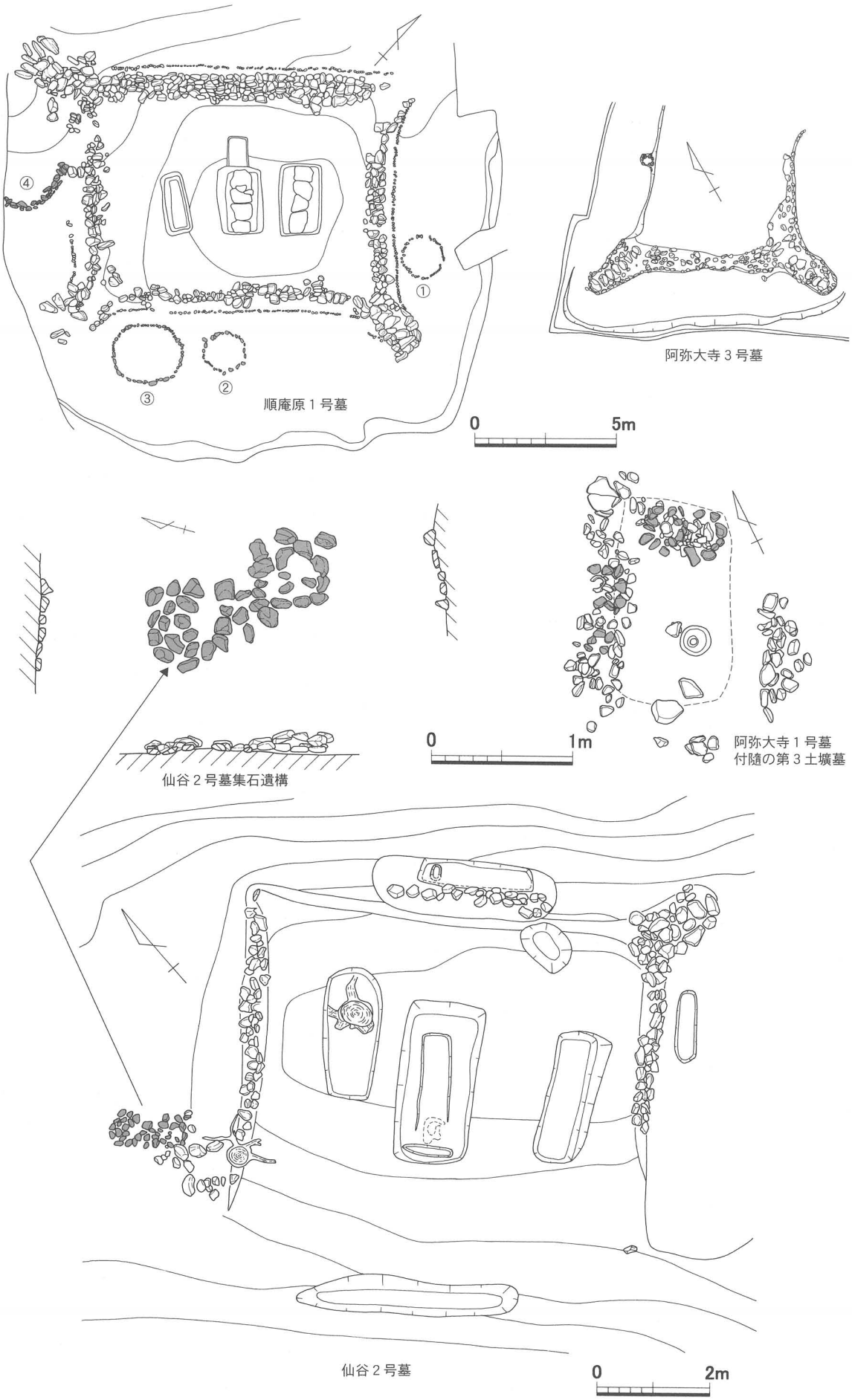
ところで「円形状石組」とは別に、四隅突出型墳丘墓の墳丘周辺には配石墓や石囲土壙墓などの埋葬施設、性格不明の集石遺構等が営まれている場合が多い。それぞれの遺構はもちろん、「円形状石組」と区別するのが困難なものが含まれている[註7)]。このため、本来的には系統的に遺構の分類を進めた上で「円形状石組」を論じなければならないが、紙幅の都合もあるので、「円形状石組」の「形態」や「規模」、「検出地点」の共通要素に着目して、類例資料の抽出を行うこととする。

そこで、小稿では先ず第一に過去に報告された四隅突出型墳丘墓の関連文献に掲載された報告文や遺構図面、写真図版から、円形状石組の可能性のあるものを抽出する。次に、遺構の出現時期や地域性、規模、形態等について検討を加え、円形状石組の評価と位置付けを提示することに努めたい。なお、中野美保１号墓の円形状石組についての詳細は前章で報告してあるので、可能な限り繰り返さないこととする。

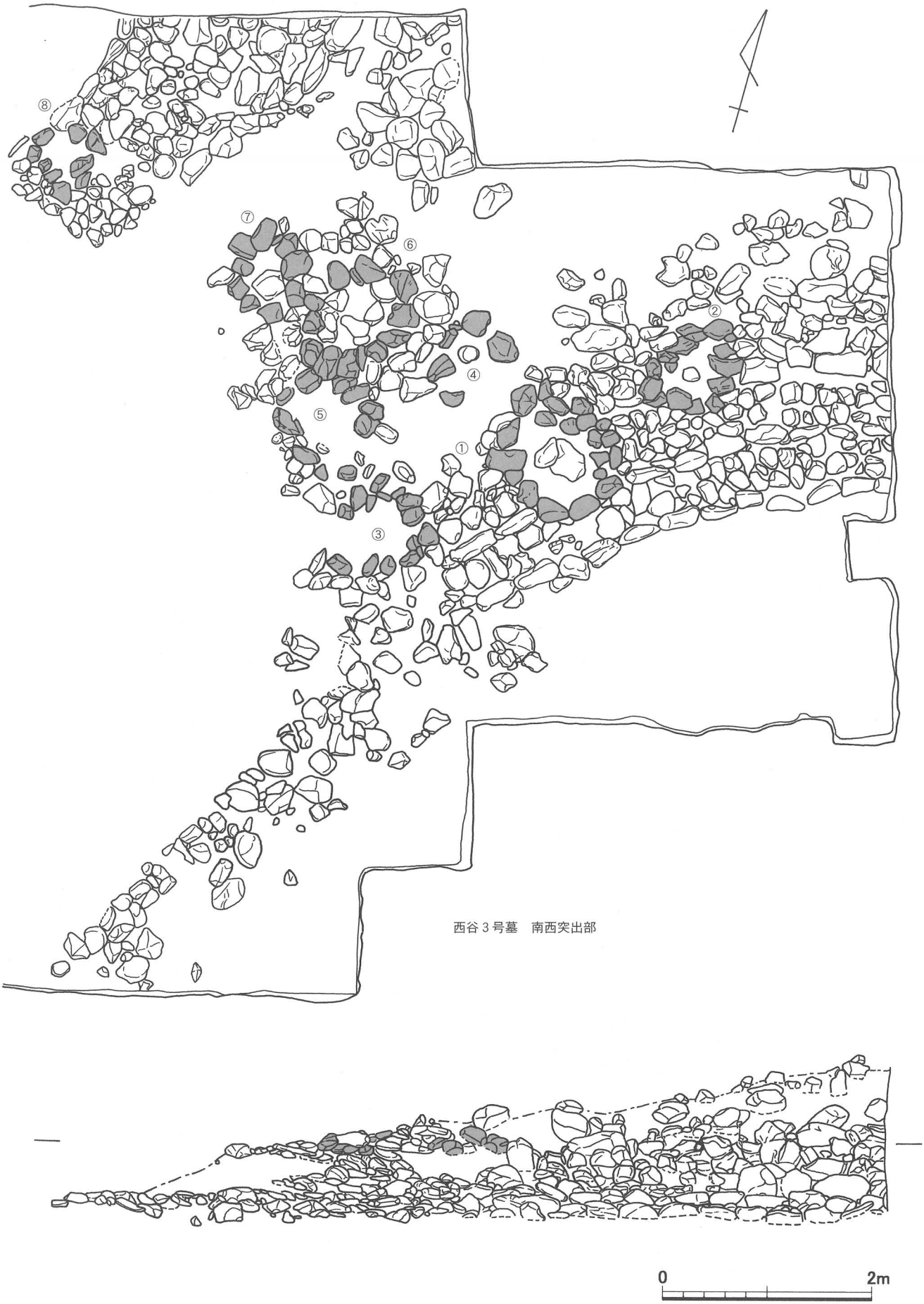
１．四隅突出型墳丘墓に見られる円形状石組の類例（第127～128図）

（１）順庵原１号墓（島根県邑智郡瑞穂町：弥生時代後期中葉）

「ストーンサークル」として報告されている。墳丘に沿って施された「立石（縁石）」（棒状石列



第127図　円形状石組の諸例（１）



第128図　円形状石組の諸例（２）（Ｓ＝１／50）

と報告される）に使用された同様の石材で、「円形状石組」が墳丘の周溝内で３箇所確認されている。同じく、墳丘の北東辺に弧状に石が並べられた箇所がある。調査区外に延びるため、その全貌は不明である。「円形状石組」の可能性もあるが、その判断は保留される。墳丘東辺の「円形状石組」は直径約1.5mの規模で、墳丘南側には2.0×2.5mの楕円状の「円形状石組」と、直径1.45mの「円形状石組」がある。なお、順庵原１号墓の「円形状石組」は、墳丘に伴う「立石（縁石）」と同等規模、あるいは小振りの石が用いられており、他の四隅突出型墳丘墓では見られない遺例である。ただし、他の四隅突出型墳丘墓の「円形状石組」が墳丘に使用される貼石や立石（縁石）とほぼ同じ規模の石を使用していることからすれば、後述する土器の出土状況と併せて、順庵原１号墓のストーンサークルも同じ遺構として認識しても問題はないものと考えられる。また、順庵原１号墓からは３つの主体部が検出されており、３つの「円形状石組」はこれに対応して造られた可能性が報告されている。

（２）仙谷２号墓（鳥取県西伯郡淀江町：弥生時代後期中葉）

墳丘北西側の加工段の底面南側（周溝内か）で10～20cm大の角礫を使用した長さ1.55m、幅0.65mの範囲で径60～65cmの同心円状に凝集した２つの「円形状石組」が眼鏡状に並列している。隣接する墳丘北西隅にも石組が確認されているが、これは突出部状にも見える。周辺からは器台が２個体、甕片が５個体分検出されている。

（３）阿弥大寺３号墓（鳥取県倉吉市：弥生時代後期中葉）

報告書の記載はないが、平面図・写真図版では確認できる。墳丘西側のほぼ中央部に直径50cmの「円形状石組」が１つ見られる。ただし、３号墓の墳丘は北半分が削平を受けており、墳丘西側の貼石の一部が偶然「円形状石組」に見える可能性は否定できない。

（４）阿弥大寺１号墓付随の第３土壙墓周辺の集石遺構（鳥取県倉吉市：弥生時代後期中葉）

土壙墓周辺（一部は墓壙上）に施された集石遺構。そのうち、墓壙北側の集石遺構は70cm×40cmの範囲に２つの同心円状に石が凝集する「円形状石組」が眼鏡状に施されているように観察される。その形態は、中野美保１号集石遺構や仙谷２号墓のそれに類似する。さらに、後述する土器の出土状況は中野美保１号墓周辺のあり方と類似している。

（５）中野美保１号墓（島根県出雲市：弥生時代後期後葉）

墳丘周辺部と立石の一部を利用、あるいは隣接して直径50cm程度の円形状石組が10前後造られている。墳丘東辺中央部の「円形状石組」は貼石や立石を改変して、２～３つの「円形状石組」が隣接し合って造られているように見える。このうち、東辺中央部の「円形状石組」の一つからは注口土器の口縁部（全周する）と注口部（全部）、頸部（一部）が検出された。また、北西裾の「円形状石組」の一部と思われる弧状に並べられた石の内側より甕１点が口縁部を下に向けた状態で出土している。

（６）西谷３号墓（島根県出雲市：弥生時代後期後葉）

南西突出部の調査では、配石構造が詳細に調査され「墳端装飾」の構造が明らかにされている。墳丘規模も当該時期において最大級になり、「墳端装飾」も荘厳化する段階の所産である。

西谷３号墓の南西突出部（調査部分）では、他の類例と異なり「円形状石組」は墳端外からは確認されていない。図面及び写真図版からは「墳端装飾」部の「立石」と「敷石」、墳丘斜面の貼石に「円形状石組」が確認できる。第128図のスクリーントーンがそれに相当する。もちろん、この

見解を主観的なものとする批判は免れ得ない。これは、「貼石」や「立石」、「敷石」が脱落した結果、偶然にして円形状に見えるという指摘につながる。しかし、図面と写真図版上の観察において、第128図に記した「円形状石組①」に注目してもらうと、「立石」列の３つの石だけが外側に向けて弧状に飛び出しているのが見られる。そして、敷石と貼石が円形状に脱落し、空白部分を形成している。また、その中心部には石が２つ存在する。「円形状石組②」にも中心部に１つの石が存在している。このように見ると、「立石」列を曲げてまで「円形状石組」を形成する意図が観察できるのである。ただし、「円形状石組①・②」を除く「円形状石組③～⑧」は、「主観的に円形状に見える」、あるいは「偶然の所産」とする指摘に対しては否定しきれない。ただし、いずれの平面規模も⑧の直径60～70cmを最小に、概ね直径80～100cm程度になる。

他にも、後期後葉の資料を中心として、「円形状石組」の可能性が考えられるものが幾つか見られるが、客観的根拠を提示することが難しいものが多く、既刊の報告書にも記載事項がないため今回は類例資料としては取り上げなかった。

２．円形状石組の用途

以上、配石構造を有する四隅突出型墳丘墓が約70数基ある中で、円形状石組の可能性が考えられるものは中野美保１号墓例を含めて５例しか提示できなかった。しかし、これを検討する上で非常に興味深い現象が見られる。それは「円形状石組」の内部、あるいはその周辺から、その原位置を保ったものも含めて土器が出土している点である。ここで、四隅突出型墳丘墓の周辺で原位置を保ったと考えられる土器の出土状況に対してもその類例を挙げ、両者の出土状況を比較し、「円形状石組」の用途に対する評価とも絡めて考えたい。なお、大半の四隅突出型墳丘から検出される土器の出土位置は、周溝内を含む墳丘裾と、主体部直上・周辺の二者に大別できる。後者の出土状況は今回検討の対象外とする。

（１）陣山墳墓群（広島県三次市：弥生時代中期後葉）

この墳墓群は中国地方山間部にあって、最古に属する四隅突出型墳丘墓５基で構成されている。原位置に近い状況を保っていると考えられる土器は、周溝底部や貼石と縁石の間の犬走り状平坦面で確認されている。大半の土器は倒れた状態で出土しているが、３号墓では周溝床面を掘り窪めた中に甕が立てられる。また、４号墓の張出状施設の貼石外側でも壺が立てられた状態で出土している。いずれの土器も中野美保１号墓のように倒立はしていない。

（２）阿弥大寺１号墓（鳥取県倉吉市：弥生時代後期中葉）

西側突出部の基部近くで、貼石に密着した状態で甕が検出されている。写真図版を見る限りでは口縁部を下に向けた状態で出土している。

同じく、阿弥大寺１号墓に付随する第３土壙墓の周辺からは、器台・壺・甕が中野美保１号墓周辺出土の土器と同様に、それぞれ口縁部を下にした状態で検出されている。このうち、壺と甕は「円形状石組」の可能性のある集石群に隣接して出土している。集石や土器は１号墓というより、土壙墓を使用対象にしたものと考えられる。

（３）間内越１号墓（島根県松江市：弥生時代後期後葉）

南西突出部裾東側の周溝で、大型の壺が１つ据え置かれた状況で出土している。同じく、南東突出部裾北側の周溝でも壺の破片が集中して見つかっている。

（４）来美１号墓（島根県松江市：弥生時代後期後葉）

墳丘南裾部の周溝内で、壺が１点据え置かれていた状態で出土している。「底部は地面にきちんと据え置かれた状態を保ち、本来の供献位置のままと考えられた。」と報告されている。

以上のように、周溝内や墳丘裾から土器片が出土する場合が大半を占める中で、当時のままの状態で遺存する土器個体が確認される例は極めて少ない。もちろん、時間の経過と共に破片になったもの、土器の破砕行為が行われた結果、あるいは墳丘上の土器が流れ込んだ結果など様々な要因で破片となって検出されたという事態は考慮すべきである。その場合も多分にあったと推測するが、その証明が困難であるので、「据え置かれた」ような土器の出土状態に注目することにする。

一般的に墳墓から出土する土器は、「供献土器」として解釈されていることが多い。小稿においては「据え置かれた」ような状態で検出された土器の解釈として、供献の対象やその行為自体の極めて観念的な問題には言及できないが、類例に挙げた土器を墳墓祭祀に関わる「供献土器」と仮定する。すなわち、「据え置かれた」土器の出土状況を「供献行為」の結果として捉えたい。このことから、墳丘裾やその周溝内から検出される土器片の１つの解釈として、供献土器としての役割を持つものが含まれていた可能性が考えられる。強いて言えば、墳丘自体、あるいは墳丘周辺に営まれたものを含めた埋葬施設は、土器の「供献行為」に見られる墳墓祭祀の対象としての意味があったとものと推測される。

そして「円形状石組」の内側や周辺においても土器片は検出されている。順庵原１号墓の円形状石組の内側とその周辺からは、多数の土器片が検出されている。調査担当者の門脇俊彦氏によると、「第１ストーンサークルの周辺においては、明らかに破砕して置かれたと思われる土器片が、東隅突出部の中央付近からサークルの東側までの数カ所のかたまりをもって置かれ、この土器片列はここで直角に曲がってサークル内にはいり、サークルの中心線に沿ってＬ字形に配置されていた」とある。また、第２、３サークルの土器片出土状況には内部に土器片が出土していないものの、周辺から土器片が出土していることから、「サークルと土器片がなんらかの関係をもっていたものであろうと推測される点は両者に共通しており」とし、「サークル内が地山で、そこの地下部分にはなんらの施設も設けられていなかった事実やその数が内部主体数と同数の三個であることなどをも併せて考えると、このストーンサークルは、やはり埋葬に伴うなんらかの目的で儀礼的意味をもってつくられ、これらサークルと土器とを用いることによって、周溝内において葬送儀礼が行われた」と想定している[註8)]。

中野美保１号墓の東辺にある「円形状石組」からは注口土器の口縁部（全周する）と注口部、肩部の一部が検出されている。また、西裾にある弧状の石列の内側からも甕の口縁部が倒立した状態で検出されている。同じく、阿弥大寺１号墓付随の第３土壙墓周辺から検出された集石遺構からは、中野美保１号墓と同様に、口縁部が下に向けられた状態で土器が検出されている。そして、仙谷２号墓の場合には、眼鏡状に組まれた「円形状石組」の周辺から土器片が検出されている。

「円形状石組」の場合においても、土器が「据え置かれた」状態で検出される例は限られている。しかし、「円形状石組」の内外を問わず、土器がこれに隣接して出土していることは注意すべき点である。多くの場合、墳丘裾やその周溝内から出土する大半の土器片と同様の状態で検出されているとは言え、「円形状石組」と土器には密接な関係があるものと考えられる。この「円形状石組」の用途としては、門脇氏が想定する葬送儀礼に伴う施設の可能性も考えられるが、儀礼の対象までは判断しかねないので、ここでは「土器供献」を行うための「墳墓祭祀施設」としての可能性を提

示したい。また、順庵原１号墓のように、埋葬施設の数と対応する可能性も指摘されているが、中野美保１号墓のように10個程度検出されている場合を考えると、埋葬施設が未確認という問題も残るが、後代の継続的な墳墓祭祀によって複数造られた可能性も考えられる。

その一方で、西谷３号墓のように突出部内を構成する「墳端装飾」と墳丘斜面の「貼石」に複数営まれているものを、どのように評価すれば良いのか問題が残る。これは墳丘裾や周溝内に「円形状石組」が造られる様相とは大きく異なる。すなわち、西谷３号墓の「円形状石組」は同様の類例が見られないため、「遺構として認識できない」、「偶然に円形状に見えるだけ」という可能性が残る。また、墳丘造営中に造られたものなのか、墳丘完成後に造られたのかも判断できない。これらの問題に結論を見出すことは現状の資料数からは不可能である。このため、西谷３号墓における「円形状石組」の評価は次の点を予見として、問題提起するに留めたい。すなわち、墳丘自体が巨大化し「墳端装飾」も最も荘厳化している段階のものであることから、墳丘装飾を構成する上での１つの装飾的要素としても意識され、墳墓祭祀施設としての機能が形骸化したものに変容したものが含まれている可能性が考えられる。特に、「円形状石組」の中心に１つ乃至２つの石を置くものが見られる点は、その意図は明らかではないにしろ留意される。また、突出部にのみ「円形状石組」が限定されて付設されていたのかという問題も残る。仮にそうだとしたら、突出部が祭祀空間としても機能していた可能性が想定される。

これらの可能性は、後期後葉段階における大型四隅突出型墳丘墓の調査事例の増加によって、将来検証作業が行えることに期待したい。

３．出現時期と地域性

現状の類例資料からは、この問題を明らかにすることは出来ない。類例資料に限れば、弥生時代後期中葉段階の四隅突出型墳丘墓には「円形状石組」は確認される。そして、中国地方山間部や日本海沿岸部でも確認されているため、地域性については今のところ、特に目立った現象は見られない。

「円形状石組」は中期後葉～後期前葉に遡る四隅突出型墳丘墓からは確認されていないため、その初現やその系譜に上るものも不明である。ただし、「円形状石組」に付随する土器の出土状況から、これを「墳墓祭祀施設」として捉えるならば、後期前葉の陣山墳墓群に見られる石を使用した「方形の張り出し部」のあり方とは無関係ではない可能性も考えられる。

「円形状石組」は墳丘裾や周溝内に造られる場合と、墳端装飾に隣接したり、一部を利用して造られる場合がある。その規模は大半が60㎝前後で、大きいもので１～2.5m程度になる。石組の形状は順庵原１号墓例や中野美保１号墓例のような一重のものと、仙谷２号墓例などの同心円状に石が凝集する二者が見られる。後者の石組みのあり方は、配石墓や集石遺構の石組にも見られる手法である。このため、墳丘に近接した上で、その下部に埋葬施設がなく、周辺から土器が検出されない限りは「円形状石組」と呼称するより、性格不明の集石遺構として認識する他はない場合がある。中野美保１～３号集石遺構がこれに相当する事例である。

４．まとめ

以上、過去に報告された「円形状石組」の類例を抽出し、その用途について検討してきた。結論としては、あくまでも現状の類例資料による見通しではあるが、土器供献に伴う「墳墓祭祀施設」の可能性を指摘した。そして、西谷３号墓のような墳端装飾が最も発達した段階には、円形状石組

の用途が形骸化したものが現れているという可能性を指摘した。ただし、これらはあくまでも一つの可能性を述べたにすぎない。「円形状石組」の認識と評価に対しては、今後の発掘調査による類例の増加に委ねると共に、その認識に対する客観性を高めるためにも、関係諸氏の批判と議論が必要とされる。また、冒頭にも述べたように、四隅突出型墳丘墓の周辺に営まれた様々な石を使用した施設との区別に関する諸問題も残っている。これは何故「円形」という形が現れるのかという問題にもつながる。これらの検討も視野に入れない限り、円形状石組の系譜、そして四隅突出型墳丘墓との関係を論ずることは出来ない。

小稿では特定の土器出土状況に対して検討を加えたが、今後は弥生時代前期以来の墓や墳墓全般における土器の出土状況に対しても検討を行う必要がある。特に、山陰地方と同じく日本海という共通の空間を有した地域に対する検討、すなわち北陸地方の四隅突出型墳丘墓や両丹地方の方形台状墓等の土器出土状況を含めた墳丘墓に現れる諸現象との比較検討は、各地の政治的領域や交流の解明に貢献できる可能性を孕んでいる。今少しの再整理を行い、改めて論ずることを期したい。

第２節　日本海沿岸部における方形貼石墓について
－中野美保２号墓の事例から－

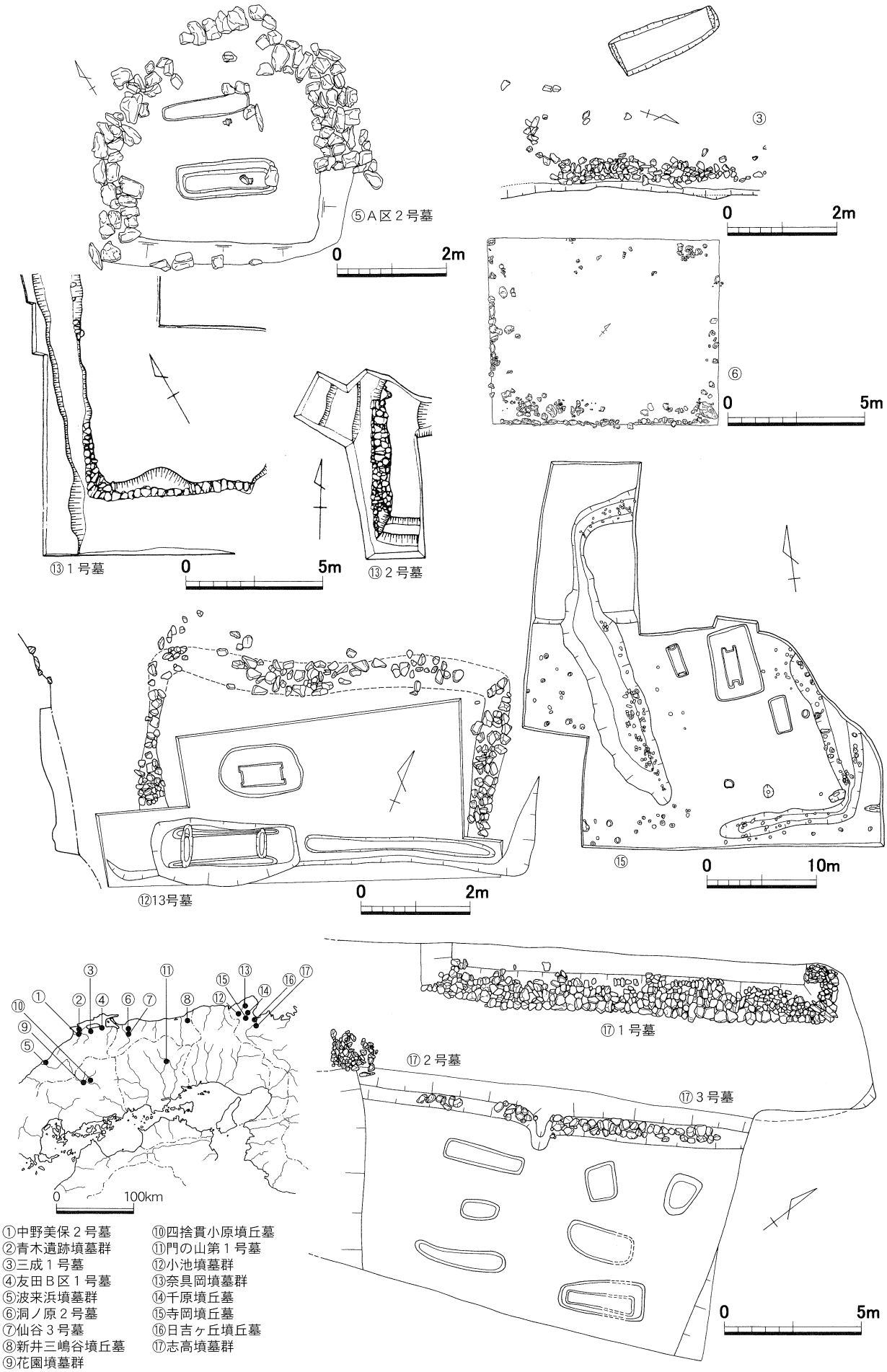
中野美保２号墓は、弥生時代中期中葉～後期前葉を中心に中国地方山間部から丹後地方以西の本州日本海沿岸で確認されている「方形貼（り）石墓」、「貼（り）石方形墳丘墓」、「方形貼石台状墓」、「方形貼石周溝墓」、「方形貼石区画墓」等の名称が与えられている墓制に属する（第129図）。ここでは、その総称として「方形貼石墓」の用語を採る。[註9)]

この墓制の大半は弥生時代後期後半以降は減少する傾向にあり、丹後地方周辺を除く日本海沿岸部では四隅突出型墳丘墓という墓制が盛行する。現在まで議論されているのは、この墓制が四隅突出型墳丘墓という墓制の直接的な系譜に上るか否かというものであり、換言すれば四隅突出型墳丘墓の起源論に遡及される。

四隅突出型墳丘墓の起源論は、その「発生地」と「突出部の起源」という２つの問題に大別される。もちろん、両者は不可分の関係にあるのだが、前者の「発生地」については研究史上、一元的な起源とする見解と多元論的な見解との二者に大別することが出来る。前者を代表するものには、朝鮮半島起源説[註10)]、中国地方山間部での成立とその一元的波及を説く見解[註11)]、「ステッピングストーン（踏石状石列）」を四隅突出型墳丘墓の基本要素とし、その初現を中国山間部に求めた上で、「中国山間部型」と「山陰（伯耆・出雲）型」の展開を説く見解[註12)]がある。後者では、弥生時代中期中葉～中期後葉の貼石の区画を持つ墳丘墓の「通路表現」に四隅突出型墳丘墓の「突出部」の根元を求めつつ、三次盆地（中国地方山間部）と日本海沿岸部で、系統の異なる四隅突出型墳丘墓の成立を説く見解[註13)]がある。

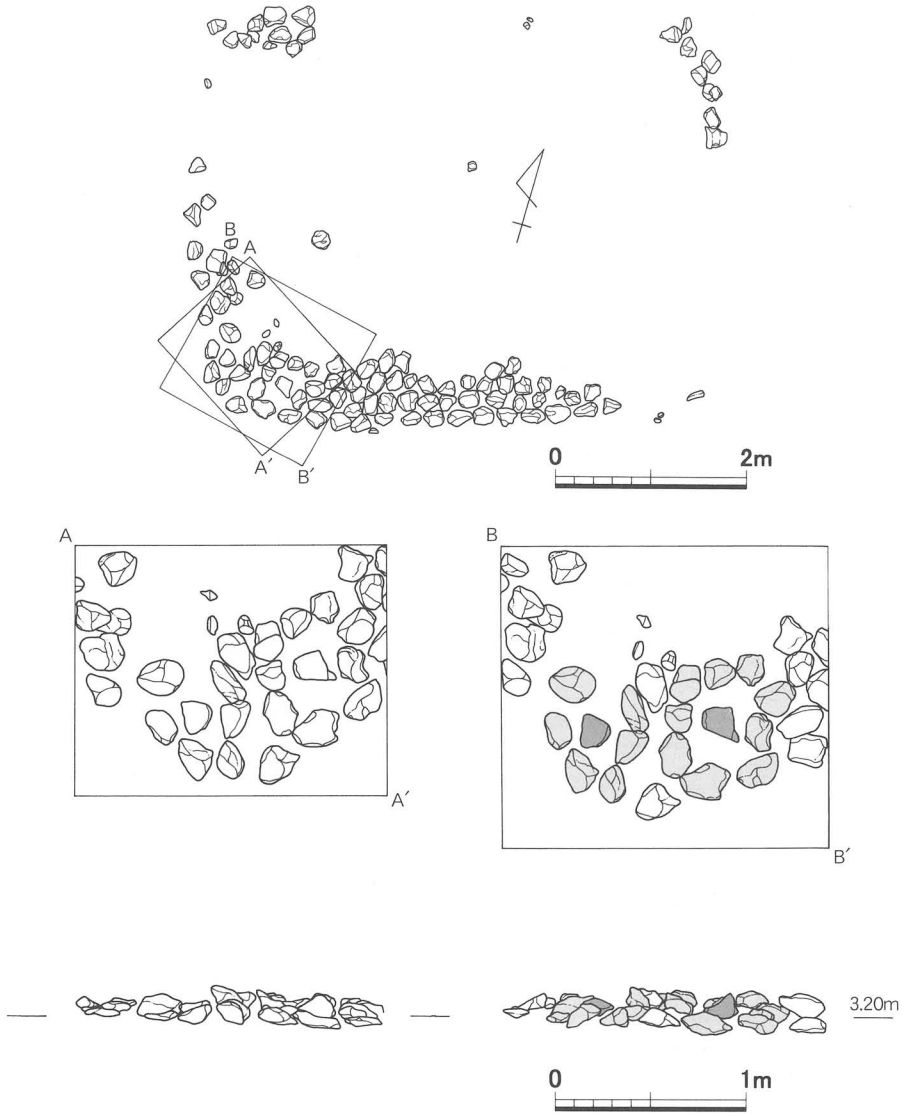
ここでは、先ず方形貼石墓の「隅部の形態」の分析を出発点として、上述の「起源論」について考えてみたい。そこで、中野美保２号墓のそれを検討する。中野美保２号墓の隅部が良好に残る箇所は、南西隅のみである。ここを詳細に観察すると、２つの所見が得られる。

１つは、貼石が墳丘コーナーに対して対角線上に２列並んでいるようにも見える（第130図のＡ－Ａ′）。今１つは、２個の貼石を挟んで２つの円形状に並んだ石組（その中心には１個の石がある）が並んでいるようにも見える（第130図Ｂ－Ｂ′）。



①中野美保２号墓
②青木遺跡墳墓群
③三成１号墓
④友田Ｂ区１号墓
⑤波来浜墳墓群
⑥洞ノ原２号墓
⑦仙谷３号墓
⑧新井三嶋谷墳丘墓
⑨花園墳墓群
⑩四捨貫小原墳丘墓
⑪門の山第１号墓
⑫小池墳墓群
⑬奈具岡墳墓群
⑭千原墳丘墓
⑮寺岡墳丘墓
⑯日吉ヶ丘墳丘墓
⑰志高墳墓群

第129図　日本海沿岸部における方形貼石墓の諸例（中期中葉～後期前葉を中心に）



第130図　中野美保２号墓南西隅部の配石構造（上はＳ＝１／80、下はＳ＝１／40）

この南西隅部の形態をどのように理解するかによって、その評価は異なる。ここでは隅部の形態のあり方に２つの見解を提示しているが、第120図で示したスクリーントーンの石は墳丘隅部を意識したものと考えられる。第130図のＡ－Ａ′は、２条の「踏石状石列」に見え、同図Ｂ－Ｂ′は隅部を２つの軸石から左右対称に、その中心に１個の石がある円形状の石組がこれを挟むような形で表飾するように見える。

前者の貼石のあり方を「踏石状石列」と理解すれば、２条の「踏石状石列」が並ぶ方形貼石墓と評価できる。また、２条の石列は墳丘隅部に対してほぼ45度の対角線上に並んでいることから、隅部の石のあり方を「踏石状石列」と認識することに妥当性が与えられる。ただし、この石列が実際の通路として、その機能に耐え得る構造のものであったかは、石の大きさやその間隔からは懐疑的にならざるを得ない。２条の石列を有する方形貼石墓の類例は、志高１号墓南東隅にその可能性がある。一方、四隅突出型墳丘墓では、後期前葉の尾高浅山１号墓の東側突出部に２条に並ぶ置き石存在の可能性が指摘されている[註14)]。

後者の貼石のあり方は、貼石の遺存が比較的良好な南斜面のそれと比べて、隅部の貼石が減少し

て疎密の差が生じている結果、中心に１個の石がある円形状の石組という印象を得たと言える。

一方、２号墓の貼石の施工には一定の規則性が見られる。それは最も外側の貼石列（①とする）を規準とした場合、次に来る貼石列（②とする）は①の石と石のほぼ中間に石を貼り付け、さらに次に来る貼石列（③とする）は②の石と石のほぼ中間に石を貼り付けるという、「組み違え」を行っている。この規則性は厳密なものではないが、これによって結果的に円形状の石組に見える箇所が生じている可能性も十分にある。例えば、北西隅の貼石が挙げられる（図版26上）。

このような「組み違え」の緩やかな規則性が南西隅部で崩れ、石の疎密が生じている結果、先に記した後者の見方につながったものと考えられるのである。

いずれにせよ墳丘のコーナーには、他の斜面と異なった意識で貼石が施されているものと考えられる。

さらに中野美保２号墓の石の使われ方をもう少し大きく見てみると、四隅突出型墳丘墓のある要素と非常に類似する点が挙げられる。それは、中野美保２号墓の墳丘の最も外側の貼石列である。

先にも述べたが、この貼石列は墳丘に貼り付けられているのではなく、墳丘斜面を縁取るように並べられており、石自体も寝かされていると言うより、立てるように置かれている。これは、四隅突出型墳丘墓に見られる「立石」または「縁石」と同様のあり方を示している。

四隅突出型墳丘墓の貼石・列石を類型化し、その時間的変遷を分析した松本岩雄氏の分類に従えば、中野美保２号墓のそれはⅡＡ類に属する[註15)]。

ここでⅠ類とⅡＡ類に属する四隅突出型墳丘墓の出現を検討するのに参考となるのが、鳥取県淀江町所在の洞ノ原墳墓群である。

すなわち、中期末～後期初頭に比定される洞ノ原２号墓（方形貼石墓）には列石が確認されている。洞ノ原２号墓と同時期には日本海沿岸部において最古の四隅突出型墳丘墓（洞ノ原１号墓）が出現している。このことから、日本海沿岸部においてはⅡＡ類（中野美保２号墓と同じ構造）が四隅突出型墳丘墓が出現する段階まで継続している。ただし、洞ノ原１号墓の貼石・列石構造はⅠ類に属しており、洞ノ原墳墓群内も含めた日本海沿岸部の後期前葉に遡る四隅突出型墳丘墓に、中野美保２号墓や洞ノ原２号墓のような構造のⅡＡ類が採用されている例は、鳥取県米子市所在の尾高浅山１号墓（後期前葉）の南東斜面で部分的に見られる可能性がある程度である[註16)]。また、島根県八束郡宍道町所在の方形貼石墓、三成１号墓（中期後葉）の貼石もⅠ類に分類される。

一方、洞ノ原２号墓は同墳墓群中における最古と目される墳墓で、備後山間部の土器が検出されている。また、洞ノ原１号墓の突出部では「踏石状石列」が見られ、洞ノ原墳墓群の成立と日本海沿岸部の四隅突出型墳丘墓には、備後山間部との交錯した影響を多分に受けている旨が指摘されている[註17)]。

最後に中野美保２号墓に関して言えば、①墳丘隅部を意識した２条の「踏石状石列」、②墳丘裾の「立石（縁石）」という現象が認められる。①は四隅突出型墳丘墓の系譜に上る資料として、同じく日本海沿岸部における多元的な起源論を検討して行く上で、重要な資料になるものとして評価できる。一方、②は四隅突出型墳丘墓の「貼石」と「立石」の系譜に上る可能性と、その系譜には上らない一線を画す可能性の２通りの解釈も考えられる。洞ノ原２号墓のあり方も踏まえて、日本海沿岸地域における方形貼石墓と中期後葉～後期前葉の四隅突出型墳丘墓の類例増加が待たれる。

脱稿後、出雲市北東部の扇状地に位置する青木遺跡（出雲市東林木町）から中期後葉に遡る四隅

突出型墳丘墓を筆頭に、数基の四隅突出型墳丘墓が検出された。1基は日本海沿岸部における最古型式の四隅突出型墳丘墓になる可能性がある。多元論的な四隅突出型墳丘墓の研究に、新たな一石を投じることになろう。また、後期後葉に属する四隅突出型墳丘墓からは「円形状石組」の可能性がある石列が検出されている。その他、方形貼石墓数基も検出されており、一部は弥生時代後期後葉まで下がる可能性がある。日本海沿岸部における弥生墓制を再検討する上で、重要な資料が蓄積されつつある。今後の調査成果が注視される。

第6章を記すにあたり、次の方々から文献の提供を頂いた。記して感謝致します。
佐伯純也（米子市教育委員会）、中原斉（鳥取県教育委員会）（50音順、敬称略）

（註）

1）川原和人1978「島根県における発生期の古墳－特に四隅突出型古墳について－」『古文化談叢』第4集
妹尾周三1993「四隅突出型墳丘墓について－出現の要素と貼石方形墳丘墓からの概観－」『古文化談叢』第30集（上）古文化談叢発刊20周年　小田富士雄代表還暦記念論集（Ⅰ）
渡邊貞幸2003「四隅突出型弥生墳丘墓の「突出部」」『新世紀の考古学－大塚初重先生喜寿記念論文集－』大塚初重先生喜寿記念論文集刊行会編

2）藤田憲司2002「弥生墳丘墓の研究（1）－山陰の弥生墳丘墓（上）－」『調査研究報告』（財）大阪府文化財センター
　また、墳丘長・墳丘高・突出部の規模を計測し、数的処理を加えた検討から、中国地方（山間部）、山陰地方、北陸地方におけるの四隅突出型墳丘墓の地域性を抽出したものに、次の論考がある。
大野英子2002「四隅突出型墳丘墓の地域性」『富山県婦中町　千坊山遺跡群試掘調査　報告書』婦中町教育委員会

3）松本岩雄2003「出雲の四隅突出型墓」『島根県古代文化センター調査研究報告書16　宮山古墳群の研究』島根県古代文化センター　島根県埋蔵文化財調査センター

4）門脇俊彦1971「順庵原一号墳について」『島根県文化財調査報告』第七集　島根県教育委員会

5）註1）川原1978に同じ
吉川　正1992「順庵原一号墓について－第3次調査の概要－」『島根考古学会誌』第9集　島根考古学会
　吉川氏は主体部とストーンサークルの対応関係に対して、埋葬施設の形態や副葬品組成、ストーンサークルの形態等を具体的に積み上げ、明確な対応関係の抽出を試みている。

6）近年、弥生墳丘墓の調査報告書中で「円形状石組（ストーンサークル）」の可能性があるものが報告されている。
　例えば、鳥取県岩美郡岩美町所在の新井三嶋谷墳丘墓の調査報告書中で、墳丘南斜面下方の貼石がストーンサークル状を呈している部分、あるいは方形の張り出し部の可能性を指摘する観察所見が報告されている。

7）弥生時代中期中葉～後期前半に営まれた四隅突出型墳丘墓以外の、弥生墳丘墓や土壙墓においても円形状石組が確認されている。これらの遺構の整理と検討も今後必要である。
　なお、木次町教育委員会2000『斐伊川広域一般河川改修工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書　平田遺跡第Ⅲ調査区』に、土壙（墓）に伴う類例資料の紹介と弥生後期の墓制に対する検討がなされている。

8）註4）に同じ

9）管見のところ、中国地方山間部を除く日本海沿岸部で検出されている中期後葉～後期前葉の方形貼石墓は14遺跡17（＋）で確認されている。この墓制に対する概念あるいは定義は、本来的には考古学的な分類論から求められるべきである。しかし、様々な考古学的用語が氾濫すれば、混乱を来す恐れがある。確かに、日本海沿岸部における方形貼石墓は規模や周溝の有無、立地、存続期間などのあり方が地域によって若干異なり、弥生時代中期に限れば、大きくは（石見・出雲・伯耆・因幡？）と（丹後・丹波）の地域性が存在する。小稿では細長い長方形、正方形に近い長方形に関わらず、「方形の墳丘」に「貼石」が施されている点こそが、この墓制を最も特徴付けていると考えている。「方形貼石墓」として総称する立場を採りたい。なお、現在のところ「方形貼石墓」に関しては次の分類案が示されている。
　野島永氏は貼り石を持つ墳墓は台状墓や周溝墓として捉えられている点を指摘し、貼石を持つ属性を重要視した場合には、これらの名称を「方形貼り石墓」と容認出来るとする。しかし、四隅突出型墳丘墓とその墳丘規模に明確な差がないことを挙げ、貼り石を持つ墳丘墓（台状墓、周溝墓）を「貼り石方形墳丘墓」と呼称す

る立場を採る。

和田晴吾氏は弥生墳丘墓の基本形を「周溝墓」と「台状墓」に分類し、「方形貼石墓」を「台状墓」の地域的変容と捉えて「方形貼石台状墓」の名称を与えている。また、「方形貼石墓」の中には周溝を伴うものがあるため、これを「周溝墓」と「台状墓」の複合として「方形貼石周溝墓」の名称を与えている。

野島　永1991「京都府北部の貼り石墳丘墓について」『京都府埋蔵文化財論集第２集－創立十周年記念誌－』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

和田晴吾2003「弥生墳丘墓の再検討」『古代日韓交流の考古学的研究－葬制の比較研究－』

10）山本　清1975「四隅突出型方墳」『日本の中の朝鮮文化』28号

11）註１）川原和人1978に同じ

12）註１）渡邊貞幸2003に同じ

13）註２）藤田憲司2002に同じ

14）註１）渡邊貞幸2003に同じ

15）註３）松本岩雄2003に同じ

松本氏の分類したⅡＡ類の「立石」は、Ⅳ～Ⅴ－１期に中国地方山間部の四隅突出型墳丘墓に特徴的な、貼石に使用される石より小さい石で墳丘を縁取るものと、中野美保１号墓のように、貼石の石と同等規模の石で墳丘を縁取るものを指している。なお、両者の「立石」は墳丘斜面の貼石から少し離れて施されている。また、墳丘斜面の貼石に隣接して立石（縁石）を施す中野美保２号墓のような構造をしたものもⅡＡ類の範疇に含まれている。このことから、ここで記すⅡＡ類は中野美保２号墓の構造に限定した意味で使用する。

16）山陰考古学研究集会編1997『第25回山陰考古学研究集会　四隅突出型墳丘墓とその時代』

17）淀江町教育委員会2000『妻木晩田遺跡　洞ノ原地区・晩田山古墳群発掘調査報告書』

（遺跡引用文献）

青木遺跡　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター2004『青木遺跡現地説明会資料』

阿弥大寺１号墓　倉吉市教育委員会1981『上米積遺跡群発掘調査報告Ⅱ－阿弥大寺地区－』

尾高浅山１号墓　米子市教育委員会1998『尾高浅山遺跡』米子市文化財ガイド２

門の山第１号墳　近藤義郎・中尾寿雄1952「門の山第１号墳発掘調査報告」『佐良山古墳群の研究』津山市

来美１号墓　山本清1989「松江市矢田町来美の四隅突出型方形墳丘」『間内越１号墓・間内遺跡』松江市教育委員会

四拾貫小原墳丘墓　四拾貫小原発掘調査団1969『四拾貫小原』

順庵原１号墓　門脇俊彦1971「順庵原一号墳について」『島根県文化財調査報告』第七集　島根県教育委員会

吉川正1992「順庵原一号墓について－第３次調査の概要－」『島根考古学会誌』第９集　島根考古学会

陣山墳墓群　三次市教育委員会1996『陣山遺跡』

仙谷２号・３号墓　大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・鳥取県大山町教育委員会2000『妻木晩田遺跡発掘調査報告』

仲仙寺９号墓　安来市教育委員会1972『仲仙寺古墳群』

千原遺跡　岩滝町教育委員会1988『千原遺跡第３次』京都府岩滝町文化財調査報告第11集

寺岡遺跡SX56　野田川町教育委員会1988『寺岡遺跡』京都府野田川町文化財調査報告第２集

奈具岡墳墓群　京都府弥栄町教育委員会1986『奈具岡遺跡第３次発掘調査報告書』

波来浜墳墓群　江津市教育委員会1973『波来浜遺跡発掘調査報告書－第１．２次緊急調査概報－』

新井三嶋谷墳丘墓　岩美町教育委員会2001『新井三嶋谷墳丘墓発掘調査報告書』岩美町文化財調査報告書第22集

西谷３号墓　渡邊貞幸他1993「西谷墳墓群の調査（Ⅰ）」『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』島根大学法文学部考古学研究室

写真図版は、出雲市教育委員会編1995『四隅突出型墳丘墓の謎に迫る』の表紙に依拠する。

花園墳墓群　三次市教育委員会1980『史跡花園遺跡－調査と整備－』

日吉ヶ丘墳丘墓　加悦町教育委員会2001『日吉ヶ丘発掘調査現地説明会資料』

加悦町教育委員会2003『日吉ヶ丘遺跡（平成14年度）・明石大師山古墳群（平成14年度）』加悦町文化財調査報告書第30集

間内越１号墓　松江市教育委員会1989『間内越１号墓・間内遺跡』

三成１号墓　丹羽野裕1999「宍道町　三成墳墓群について」『宍道町歴史叢書４』島根県宍道町教育委員会

（四隅突出型墳丘墓の類例抽出のための参考文献）

東森市良1989『四隅突出型墳丘墓』ニューサイエンス社
田中義昭1992『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』島根大学法文学部考古学研究室
出雲市教育委員会編1995『四隅突出型墳丘墓の謎に迫る』
山陰考古学研究集会編1997『第25回山陰考古学研究集会　四隅突出型墳丘墓とその時代』

（図版引用文献）

第126図
　松本2003を参考に、本書作成。遺構図は各報告書・参考文献より一部改変後再トレース。
第127～128図
　１～４：各報告書・文献より一部改変後再トレース。
第129図
　各報告書より一部改変後再トレース。ただし、⑫・⑬は野島1991より複写転載。
　図中の分布図は野島1991を参考に、一部改変と追加修正して本書作成。なお、中国地方山間部の資料を中心に四隅突出型墳丘墓（の祖形）として評価されるものが含まれている。同じく、墳丘形態が不明のもの（四拾貫小原墳丘墓）、方形にならないもの（門の山第１号墓）も含まれている。
第130図
　本書作成

表１　中野美保出土土器総数

Ⅰ区３層（須恵器）

器　種	甕（口縁）	蓋	坏 Ⅱｂ	糸切り（底部）	坏	高台付坏	高坏（坏部）	壺（高台付）	壺（底部）	小型壺（底部）	長頸壺	蓋 古墳後期	蓋 Ⅳ	甕・壺（口縁）	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	2	3	21	14	4	10	1	1	1	1	1	3	1	4	67
合　計	2	3	21	14	4	10	1	1	1	1	1	3	1	4	67

Ⅰ区３層（土師器）

器　種	鼓形器台	甕（口縁）	甕（底部）	把手付甕（甑）	赤彩皿	赤彩皿（高台付）	赤彩坏 坏	赤彩坏（直）	赤彩坏（湾曲）	高台付坏	高坏（脚部）	坏	製塩土器	土製支脚 穴あき	土製支脚 穴なし	竈	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	1	6	20	2	1	1	7	2	5	20	6	5	5	2	1	1	85
合　計	1	6	20	2	1	1	7	2	5	20	6	5	5	2	1	1	85

Ⅰ区４層包含層

器　種（弥生～古墳）	甕 Ⅰ－４	甕 Ⅳ－１	甕 Ⅴ－１	甕 Ⅴ－２	甕 Ⅴ－３	甕 草田４	甕 草田５	甕 草田６～７	甕 小谷２	甕（口縁・胴部）	直口壺 草田７	広口壺（二重口縁）小谷１～２	壺 Ⅳ－１	壺 Ⅳ－２	壺 草田５	壺 草田６～７
掲載数	1	1	－	－	－	－	2	2	2	－	1	1	1	2	－	－
非掲載数	－	4	104	42	2	2	17	17	1	8	－	1	－	－	3	1
合　計	1	5	104	42	2	2	19	19	3	8	1	2	1	2	3	1

Ⅴ－１	小谷３～４	壺胴部 Ⅳ－２	鼓形器台 Ⅴ－３	鼓形器台 草田５～７	高坏 Ⅳ期	高坏 草田６～７	高坏脚部 Ⅳ－１～２	高坏脚部 草田５	高坏坏部	高台付坏 古代末	低脚坏脚部	低脚坏脚部 草田６～７	甑形土器 小谷１～２	甕底部 Ⅳ～Ⅴ	不明 綾杉文	不明（竹管文）	総計
－	－	3	－	－	1	1	－	1	－	1	－	－	1	－	－	－	21
6	1	－	1	3	2	2	4	－	3	－	3	6	－	28	1	1	267
6	1	3	1	3	3	3	4	1	3	1	3	6	1	28	1	1	288

Ⅱ区３層包含層（須恵器）

器　種	蓋 Ⅱ類	蓋	坏 Ⅱｂ類	坏（底部糸切）	高坏	長頸壺（頸部）	壺底部（高台付）	高台部	甕（個体数）	高台付底部	高坏底部	つまみ	高台付坏	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	4	2	1	2	5	1	1	2	2	2	2	1	4	29
合　計	4	2	1	2	5	1	1	2	2	2	2	1	4	29

Ⅱ区３層包含層（土師器）

器　種	底部（糸切）	製塩土器	移動式竈	土製支脚	把手付甕・甑（把手のみ）	器台受部	高坏受部 草田６～７	高台付坏	高坏脚部	赤彩底部	赤彩口縁	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	5	3	1	4	1	1	1	3	1	5	1	26
合　計	5	3	1	4	1	1	1	3	1	5	1	26

Ⅱ区３層包含層（弥生）

器　種	甕 Ⅴ－１	総計
掲載数	－	0
非掲載数	2	2
合　計	2	2

Ⅱ区４層包含層（須恵器）

器　種	蓋 古墳時代後期	坏 古墳時代後期	蓋Ⅱ類	坏Ⅱｂ類	坏（底部糸切）	皿	高坏	壺底部	壺底部（高台付）	高台部	壺・甕（口縁部）	高台付坏底部	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	7	5	5	3	5	1	14	1	2	9	7	2	61
合　計	7	5	5	3	5	1	14	1	2	9	7	2	61

Ⅱ区４層包含層（土師器）

器　種	高台付坏	高台部	土製支脚	甕（個体数）	赤彩坏 古墳後期	総計
掲載数	－	－	－	－	1	1
非掲載数	1	2	3	5	－	11
合　計	1	2	3	5	1	12

Ⅱ区４層包含層（弥生）

器種（弥生～古墳）	甕 Ⅰ－4	甕 Ⅳ－1	甕 Ⅳ－2	甕 Ⅴ－1	甕 Ⅴ－2	甕 草田4	甕 草田5	甕 草田6～7	甕 小谷2式	甕 小谷3式	甕 古墳中期	小型丸形直口壺 古墳中期	無頸壺 Ⅲ－1	壺 Ⅳ－1	壺 草田5	壺 草田6～7	鼓形器台 草田4～5
掲載数	1	－	－	－	－	－	－	2	4	3	－	1	1	3	－	－	－
非掲載数	－	15	1	14	4	2	36	27	1	1	1	1	－	－	7	10	5
合計	1	15	1	14	4	2	36	29	5	4	1	2	1	3	7	10	5

器種（弥生～古墳）	甕 草田6～7	甕 Ⅴ－3	甕	低脚坏（脚部） 草田5～6	低脚坏（脚部） 草田6～7	高坏（ミニチュア） 小谷2	高坏 Ⅳ－1	高坏 Ⅳ－2	高坏 草田6～7	高坏脚部 草田6～7	高坏脚部 5ｃ後半	注口土器 Ⅴ－3	注口土器 Ⅴ期	壺頸部 小谷2	甕底部 Ⅳ～Ⅴ	壺 底部	台付き甕底部 Ⅲ－1	総計
掲載数	－	1	－	－	－	1	－	2	－	－	－	1	－	1	－	－	2	23
非掲載数	16	－	10	1	9	－	1	－	8	2	1	－	1	－	3	7	－	184
合計	16	1	10	1	9	1	1	2	8	2	1	1	1	1	3	7	2	207

（注口部）

Ⅲ区４層（弥生土器）

器種（弥生）	甕 Ⅰ－4	甕 Ⅴ－1	甕 Ⅴ－3	壺 Ⅰ－4～Ⅱ	壺 Ⅴ－1	甕底部 Ⅱ～Ⅲ	壺底部 Ⅱ～Ⅲ	高坏脚部 Ⅳ－1	蓋 Ⅳ～Ⅴ	石製紡錘車（３層からの混入）	高台付付（須恵器）（３層からの混入）	総計
掲載数	6	－	－	1	－	－	－	－	2	1	1	11
非掲載数	9	20	2	－	4	8	5	1	－	－	－	49
合計	15	20	2	1	4	8	5	1	2	1	1	60

Ⅳ区包含層３層

器種	甕 Ⅴ－1	甕（複合口縁） 草田5	鼓形器台 草田6～7	須恵器甕片	土師器坏 底部糸切り	総計
掲載数	－	－	－	－	－	0
非掲載数	17	1	1	1	21	41
合計	17	1	1	1	21	41

Ⅳ区包含層４層

器種	甕（複合口縁） Ⅰ－4	Ⅴ－1	Ⅴ－2	Ⅴ－3	草田4	草田4～5	草田5	草田6～7	小谷2式	小谷3式	4世紀後半	5世紀（古墳中期）	7世紀	甕底部 Ⅴ期	草田6～7	Ⅴ－1
掲載数	1	1	－	－	－	4	1	4	2	2	－	4	－	－	1	1
非掲載数	－	68	14	14	4	－	134	188	－	18	5	1	3	2	－	－
合計	1	69	14	14	4	4	135	192	2	20	5	5	3	2	1	1

※ 草田５～７の数量は、口縁部の破片（１／８程度）でカウントしている。

器種	壺（複合口縁） 草田4～5	草田5	草田6～7	草田6～小谷2	小谷2～3	壺 底部	鼓形器台	草田4～5	草田6～7	草田6～小谷2	Ⅴ－2	高台付坏 草田4～5	高坏坏部 草田7	Ⅴ－1	高坏 草田6～小谷2	高坏脚部 草田6～7（裾部穿孔なし）	裾部穿孔（草田7）
掲載数	2	4	－	2	1	－	－	－	－	3	－	1	2	1	1	－	2
非掲載数	－	1	21	－	－	1	2	3	13	－	2	－	11	－	－	14	1
合計	2	5	21	2	1	1	2	3	13	3	2	1	13	1	1	14	3

器種	(草田6)太い脚部	草田5～6	Ⅴ－1	Ⅴ－2	低脚坏 草田5～6	低脚坏（脚部） 草田4～5	低脚坏（脚部） 草田5～6	底部 Ⅳ～Ⅴ	底部 草田5～7	甑形土器 草田6～7	注口土器 草田5	壺か注口土器胴部 草田4～5	把手付甕か甑 古墳中期	鉢 中世(3層混入)	高坏坏部 古墳中期	蓋 弥生後期	総計
掲載数	1	1	－	1	2	1	－	－	－	2	3	2	1	1	1	2	58
非掲載数	1	－	1	1	－	－	26	9	11	6	3	－	－	－	－	－	578
合計	2	1	1	2	2	1	26	9	11	8	6	2	1	1	1	2	636

注口部

Ⅴ区ＳＸ０１

器種	甕 Ⅳ－1	甕 Ⅳ－2	甕底部 Ⅳ－2	長頸壺 Ⅳ－1	高坏 Ⅳ－1	高坏 Ⅳ－2	総計
掲載数	2	3	1	1	1	2	10
非掲載数	8		3	－	－	－	11
合計	13		4	1	1	2	21

Ⅴ区ＳＸ０２

器種	甕	甕底部	総計
掲載数	1	2	3
非掲載数	－	－	0
合計	1	2	3

Ⅴ区ＳＤ０２

器種	甕 Ⅴ－1	甕 Ⅴ－2	甕底部 Ⅴ期	総計
掲載数	1	2	－	3
非掲載数	3	－	2	5
合計	4	2	2	8

Ⅴ区ＳＤ０３

器種	甕 Ⅳ－2	甕底部 Ⅳ-2～Ⅴ-1	総計
掲載数	1	1	2
非掲載数	－	－	0
合計	1	1	2

Ⅴ区ＳＤ０４

器種	甕 Ⅴ－1	壺 Ⅴ－1	甕(底部) Ⅴ－1	総計
掲載数	3	1	2	6
非掲載数	－	－	－	0
合計	3	1	2	6

Ⅴ区ＳＤ０５

器種	甕 Ⅴ－1	総計
掲載数	1	1
非掲載数	－	0
合計	1	1

Ⅴ区包含層

器種	甕 Ⅳ－1	甕 Ⅳ－2	甕 Ⅴ－1	甕 古代	高坏 Ⅳ－2	甕底部 Ⅳ～Ⅴ期	壺底部 Ⅳ～Ⅴ期	土製円盤（紡錘車）	赤彩土師器（坏）	砥石	総計
掲載数	1	2	－	－	1	－	－	1	1	－	6
非掲載数	1	－	1	1	1	3	1	－	－	2	10
合計	2	2	1	1	2	3	1	1	1	2	16

VI区包含層４層

器　種	甕（古墳中期）	総計
掲 載 数	1	1
非掲載数	－	0
合　計	1	1

VII区３層包含層（須恵器）

器　種	蓋（古墳後期）	蓋坏（古墳終末）	坏（古墳後期）	坏（古墳終末）	蓋 Ⅰ類	蓋 Ⅱ類	坏 Ⅰa類	坏 Ⅱa類	坏 Ⅱb類	坏 ⅡC類	坏 Ⅱd	坏	皿	高台付皿	高坏	壺（高台付底部）	高台部	甕・壷口縁（直口壺）	蓋輪状部
掲 載 数	2	3	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1	－	1	－
非掲載数	4	－	21	－	2	5	5	1	1	7	2	1	1	1	6	2	39	5	8
合　計	6	3	21	1	2	6	5	1	1	7	2	1	1	1	8	3	39	6	8

甕胴部等	底部（糸切）	坏（底部ヘラ起こし）	高台付底部	高坏脚部	把手	総計
1	－	1	－	－	－	13
3	2	－	41	7	1	165
4	2	1	41	7	1	178

VII区３層包含層（弥生～古墳）

器　種（弥生～古墳）	甕 Ⅲ－１	甕 Ⅲ－２	甕 Ⅴ－１	甕 Ⅴ－２	甕 草田５	甕 草田６～７	甕 小谷２式	甕 小谷３式	甕 松山Ⅳ式	壺口縁 Ⅲ－１	壺口縁 Ⅲ－２	壺 小谷２式	低脚坏脚部 草田６～７	高坏 草田６～７	甕底部 Ⅳ～Ⅴ	蓋 Ⅲ～Ⅳ期	紡錘車 Ⅲ～Ⅳ期	土錘	注口土器（注口部のみ）	総計
掲 載 数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	3	－	5
非掲載数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	2	6	－	－	－	1	24
合　計	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	2	6	1	1	3	1	29

（５Ｃ後半）

VII区３層包含層（土師器）

器　種	古代甕	甕（口縁）	高台付底部	把手付甑（甕）	赤彩皿	坏	坏（底部糸切）	坏（直線）	坏（底部）	壺底部	甑	赤彩坏（古墳時代）	赤彩坏	赤彩坏（厚手）	赤彩椀	赤彩高坏	赤彩高坏脚部	赤彩甕	赤彩甑	高坏
掲 載 数	－	1	－	1	－	－	2	－	1	－	1	2	－	－	1	5	2	2	1	2
非掲載数	6	205	3	－	14	2	3	3	11	2	－	－	30	12	－	4	－	－	－	2
合　計	6	206	3	1	14	2	5	3	12	2	1	2	30	12	1	9	2	2	1	4

（墨書土器）

高坏脚部	低脚坏脚部	製塩土器	手捏土器	移動式竈	土製支脚	砥石	総計
－	－	－	5	－	－	－	26
7	2	34	1	2	5	1	349
7	2	34	6	2	5	1	375

VIII区Ａ３層包含層（須恵器）

器　種	蓋（古墳後期）	坏（古墳後期）	蓋 Ⅰ類	蓋 Ⅱ類	蓋 Ⅲ類	輪状つまみ部	坏 Ⅰa類	坏 Ⅰb類	坏 Ⅰc類	坏 Ⅱa類	坏 Ⅱb類	坏 Ⅱc類	坏底部（糸切）	皿	高台付皿	高坏	直口壺	短頸壺	壺（胴部）	壺（底部）	壺（高台付底部）	高台部	横瓶	甕・壷口縁	甕・壷胴部片	横瓶胴部	甕底部	小型壺	総計
掲 載 数	－	－	2	2	1	－	1	1	－	1	－	－	－	2	1	3	－	2	－	－	1	－	1	2	4	1	－	－	25
非掲載数	52	51	18	8	－	21	22	5	－	－	12	－	7	4	4	25	－	1	－	1	－	17	－	4	11	－	－	1	264
合　計	52	51	20	10	1	21	23	6	－	1	12	－	7	6	5	28	－	3	－	1	1	17	1	6	15	1	－	1	289

VIII区Ｂ３層包含層（須恵器）

器　種	蓋（古墳後期）	坏（古墳後期）	蓋 Ⅰ類	蓋 Ⅱ類	蓋 Ⅲ類	輪状つまみ部	坏 Ⅰa類	坏 Ⅰb類	坏 Ⅰc類	坏 Ⅱa類	坏 Ⅱb類	坏 Ⅱc類	坏底部（糸切）	皿	高台付皿	高坏	直口壺	短頸壺	壺（胴部）	壺（底部）	壺（高台付底部）	高台部	横瓶	甕・壷口縁	甕・壷胴部片	横瓶胴部	甕底部	円面硯	総計
掲 載 数	1	1	2	－	－	－	2	1	－	1	2	－	－	－	1	1	2	1	－	－	1	－	－	1	－	－	－	1	18
非掲載数	4	4	23	14	－	4	2	3	－	14	－	2	2	5	2	13	－	－	－	3	－	12	－	2	9	5	3	－	126
合　計	5	5	25	14	－	4	4	4	－	15	2	2	2	5	3	14	2	1	－	3	1	12	－	3	9	5	3	1	144

VIII区Ｃ３層包含層（須恵器）

器　種	蓋（古墳後期）	坏（古墳後期）	蓋 Ⅰ類	蓋 Ⅱ類	蓋 Ⅲ類	輪状つまみ部	坏 Ⅰa類	坏 Ⅰb類	坏 Ⅰc類	坏 Ⅱa類	坏 Ⅱb類	坏 Ⅱc類	坏底部（糸切）	皿	高台付皿	高坏	直口壺	短頸壺	壺（胴部）	壺（底部）	壺（高台付底部）	高台部	横瓶	甕・壷口縁	甕・壷胴部片	横瓶胴部	甕底部	総計
掲 載 数	－	－	－	2	1	－	－	1	1	1	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	12
非掲載数	6	5	3	12	－	－	30	4	－	15	35	－	19	9	4	5	－	－	6	－	－	－	－	－	10	－	－	163
合　計	6	5	3	14	1	－	30	5	1	16	35	－	19	12	4	5	－	－	6	－	－	－	－	－	13	－	－	175

Ⅷ区Ａ３層包含層（土師器）

器　種	古墳時代坏	赤彩坏 6ｃ	赤彩椀	赤彩坏（直）	赤彩坏（湾）	赤彩皿	赤彩高台付坏	赤彩底部	坏	高台付坏	皿	底部（糸切）	手捏土器	製塩土器（口縁）	移動式竈	土製支脚	甑	甕	高坏脚部（古墳後期）
掲載数	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	3	－	1	3	1	6	1
非掲載数	－	－	3	4	16	16	2	3	16	32	4	76	5	6	11	41	1	197	30
合　計	2	1	3	4	16	16	2	3	16	32	6	76	8	6	12	44	2	203	31
			（口縁）					（ヘラ）			（糸切り）					（ミニチュア２）（穴・二股１）			

赤彩高坏	砥石	柱状高台皿	器台	壷	低脚坏	るつぼ	土錘	総計
1	－	1	－	－	－	－	－	22
－	4	－	1	1	4	6	1	467
1	4	1	1	1	4	6	1	489

Ⅷ区Ｂ３層包含層（土師器）

器　種	蓋	赤彩椀 7ｃ	赤彩椀	赤彩坏（直）	赤彩坏（湾）	赤彩皿	赤彩皿厚手	赤彩高台付坏	赤彩高台付皿	赤彩底部	赤彩壷底部？	底部	手捏土器	製塩土器（口縁）	移動式竈	土製支脚	甑	甕	小型甕
掲載数	1	－	1	1	1	4	－	1	1	－	1	－	－	2	－	1	1	1	1
非掲載数	－	3	3	72	25	51	2	19	11	9	－	15	2	36	3	14	－	106	－
合　計	1	3	4	73	26	55	2	20	12	9	1	15	2	38	3	15	1	107	1
					（糸切１つ）					（ヘラ）									

高坏（古墳後期）	総計
－	17
1	372
1	389

Ⅷ区Ｃ３層包含層（土師器）

器　種	坏（古墳時代）	赤彩椀 6ｃ	赤彩椀	赤彩高坏	赤彩坏（直）	赤彩坏（湾）	赤彩皿	赤彩高台付坏	赤彩高台付皿	赤彩底部	坏（糸切）	高台付坏（糸切）	皿（糸切）	土師器皿	底部（糸切）	手捏土器	製塩土器（口縁）	移動式竈	土製支脚
掲載数	1	－	2	－	5	1	4	－	－	－	1	1	2	1	－	－	－	－	2
非掲載数	－	1	7	2	30	13	56	5	3	21	－	7	－	－	11	4	21	2	10
合　計	1	1	9	2	35	14	60	5	3	21	1	8	2	1	11	4	21	2	12
					（特殊１）					（ヘラ）								（ミニチュア１）（穴・二股１）	

甕	ミニチュア甕	高坏（古墳後期）	柱状高台坏	紡錘車	総計
－	－	－	1	－	20
104	2	4	－	1	299
104	2	4	1	1	319

Ⅷ区Ａ４層包含層（弥生土器）

器　種	甕（底部）	甕（くの字口縁）	壷（広口壷）	甕（口縁）	高坏	甕（ネクタイ）口縁	広口壷（加飾口縁）	器台	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	15	6	3	10	2	7	6	－	49
合　計	15	6	3	10	2	7	6	－	49

Ⅷ区Ｂ４層包含層（弥生土器）

器　種	甕（底部）	甕（くの字口縁）	刻目	甕（口縁）	高坏	甕（ネクタイ）口縁	広口壷（加飾口縁）	器台	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	5	4	4	4	－	－	4	－	21
合　計	5	4	4	4	－	－	4	－	21

Ⅷ区Ｃ４層包含層（弥生土器）

器　種	甕（底部）	甕（くの字口縁）	広口壷（口縁）	甕（口縁）	高坏	甕（ネクタイ）口縁	広口壷（加飾口縁）	器台	総計
掲載数	－	－	－	－	－	－	－	－	0
非掲載数	8	－	7	13	3	－	－	1	32
合　計	8	－	7	13	3	－	－	1	32

Ⅷ区４層包含層

器種	甕（くの字口縁）Ⅲ－１	甕（くの字口縁）Ⅲ－２	甕（口縁肥厚）Ⅲ－２	甕（ネクタイ）口縁ナデ(Ⅳ-1)	甕（ネクタイ）頸部	甕（ネクタイ）口縁刻目(Ⅳ-1)	甕（ネクタイ）口縁刻目(Ⅲ-2)	甕（ネクタイ）凹線・刻目	甕（ネクタイ）口縁凹線(Ⅳ-1)	甕 口縁凹線	甕（加飾口縁）刻目(Ⅲ-2)	甕（加飾口縁）凹線(Ⅳ-1)	壺（口縁肥厚）	甕 5ｃ前半	甕 草田５	壺(直口壺) 口縁ナデ(Ⅲ-1)	壺(ネクタイ) 口縁ナデ(Ⅲ-2)
掲載数	－	－	2	－	－	－	－	－	－	2	－	2	－	2	－	1	－
非掲載数	65	4	19	2	2	3	2	1	4	1	10	6	3	－	1	1	1
合計	65	4	21	2	2	3	2	1	4	3	10	8	3	2	1	2	1

器種	広口壺(加飾口縁) Ⅲ－１	広口壺(加飾口縁) Ⅲ－２	壺頸部 (ネクタイ)Ⅲ期	壺頸部 (加飾)	無頸壺	短頸壺 Ⅰ－４	古墳時代後期坏	小型丸形(直口)壺 古墳時代中期	古墳時代 高坏(古墳後期)	高坏（口縁刻目）Ⅲ－１	高坏（口縁刻目）Ⅲ－２	高坏坏部	高坏 口縁鍔坏(Ⅲ-1)	高坏脚部 Ⅲ期	甕・壺底部 Ⅲ期	高台付壺底部	甕底部 (焼成前穿孔)(Ⅲ期)	紡錘車	総計
掲載数	－	－	－	－	1	1	1	4	1	－	－	1	－	1	1	1	－	3	24
非掲載数	34	8	7	9	1	1	－	3	－	6	1	－	4	4	90	－	5	－	298
合計	34	8	7	9	2	2	1	7	1	6	1	1	4	5	91	1	5	3	322

ＳＸ０１

器種	甕（くの字口縁）	広口壺（頸部加飾）	甕底部	総計
掲載数	1	1	1	3
非掲載数	－	－	－	0
合計	1	1	1	3

ＳＸ０２

器種	甕（口縁凹線）	壺	壺頸部	高坏	総計
掲載数	1	－	－	1	2
非掲載数	－	1	1	－	2
合計	1	1	1	1	4

ＳＸ０３

器種	甕（くの字口縁）	壺底部	総計
掲載数	1	1	2
非掲載数	－	－	0
合計	1	1	2

ＳＸ０４

器種	壺	高坏	甕底部	総計
掲載数	1	1	1	3
非掲載数	－	－	2	2
合計	1	1	3	5

ＳＸ０５

器種	甕（くの字口縁）	甕（ネクタイA）	甕（ネクタイB）	甕（加飾口縁・刻目）	甕（加飾口縁・凹線）	壺（口縁刻目）	壺（加飾口縁）	無頸壺	長頸壺	壺（頸部加飾）	高台付鉢	甕底部	壺底部	総計
掲載数	2	3	1	1	1	1	2	－	－	1	1	1	4	18
非掲載数	2	－	－	－	－	3	1	1	1	－	－	10	1	19
合計	4	3	1	1	1	4	3	1	1	1	1	11	5	37

備考）ネクタイＡは口縁凹線　ネクタイＢは口縁凹線のち刻目

ＳＸ０６

器種	甕（くの字口縁）	甕（ネクタイＡ）	甕（ネクタイＢ）	甕（口縁肥厚）	甕（加飾口縁・刻目）	甕（加飾口縁・凹線）	壺	壺（加飾口縁）	甕底部	壺底部	総計
掲載数	6	2	－	1	1	1	3	1	1	1	17
非掲載数	17	2	2	1	2	－	1	－	－	－	25
合計	23	4	2	2	3	1	4	1	1	1	42

備考）ネクタイＡは口縁刻目・ネクタイＢは口縁ナデ

ＳＸ０７

器種	甕（くの字口縁）	壺（ネクタイ）	壺（加飾口縁）	総計
掲載数	4	1	1	6
非掲載数	－	－	－	0
合計	4	1	1	6

ＳＸ０８

器種	甕（くの字口縁）	甕（口縁肥厚）	甕（ネクタイ・刻目）	甕（加飾口縁・刻目）	壺	無頸壺	壺（ネクタイ・ナデ）	直口壺	坏	高坏脚部	甕底部	壺底部	総計
掲載数	－	2	－	2	3	－	3	2	－	1	3	1	17
非掲載数	7	2	2	－	1	1	－	－	1	－	4	3	21
合計	7	4	2	2	4	1	3	2	1	1	7	4	38

ＳＸ０９

器種	甕（くの字口縁）	甕（口縁刻目）	壺（ネクタイ）	甕底部	総計
掲載数	－	1	－	－	1
非掲載数	1	－	1	1	3
合計	1	1	1	1	4

ＳＸ１０

器種	甕（くの字口縁）	壺（加飾口縁）	甕底部	総計
掲載数	1	1	2	4
非掲載数	4	2	－	6
合計	5	3	2	10

ＳＸ１１

器種	甕（くの字口縁）	甕（口縁刻目）	壺（口縁凹線）	無頸壺	鉢	壺底部	総計
掲載数	1	1	1	1	－	－	4
非掲載数	－	－	－	－	1	1	2
合計	1	1	1	1	1	1	6

ＳＸ１２

器種	壺（加飾口縁）	壺	総計
掲載数	1	－	1
非掲載数	－	1	1
合計	1	1	2

SX13

器　種	甕（くの字口縁）	甕（ネクタイA）	甕（ネクタイB）	甕（加飾口縁・刻目）	壺	広口壺	壺（刻目）	バケツ形土器	高坏脚部	高台付壺脚部	高坏（鍔付）	甕底部	壺底部	総計
掲載数	2	－	－	－	2	1	1	1	－	3	1	1	1	13
非掲載数	17	2	2	1	1	－	－	－	2	－	－	1	－	26
合　計	19	2	2	1	3	1	1	1	2	3	1	2	1	39

備考）ネクタイAはナデ・ネクタイBは刻目

SX14

器　種	壺	総計
掲載数	1	1
非掲載数	－	0
合　計	1	1

SX15

器　種	甕（くの字口縁）	壺（ネクタイA・ナデ）	壺（ネクタイB・刻目）	甕（口縁肥厚）	壺	壺（加飾口縁）	広口壺	鉢（加飾口縁）	高坏脚部	甕底部	総計
掲載数	2	1	1	－	3	1	1	1	1	2	13
非掲載数	14	1	1	2	－	2	－	－	－	7	27
合　計	16	2	2	2	3	3	1	1	1	9	40

SX16

器　種	甕（くの字口縁）	甕（口縁肥厚）	壺（口縁肥厚）	壺（加飾口縁）	甕胴部	甕底部	壺底部	総計
掲載数	1	1	1	4	1	4	－	12
非掲載数	3	－	－	－	－	3	1	7
合　計	4	1	1	4	1	7	1	19

SX17

器　種	甕（くの字口縁）	甕（口縁肥厚）	甕底部	総計
掲載数	1	1	－	2
非掲載数	－	－	2	2
合　計	1	1	2	4

SX18

器　種	壺（口縁刻目）	総計
掲載数	1	1
非掲載数	－	0
合　計	1	1

SX19

器　種	坏	総計
掲載数	1	1
非掲載数	－	0
合　計	1	1

SX20

器　種	壺底部	総計
掲載数	1	1
非掲載数	－	0
合　計	1	1

SX21

器　種	壺（口縁肥厚・刻目）	高坏	甕底（胴）部	総計
掲載数	1	1	1	3
非掲載数	－	－	－	0
合　計	1	1	1	3

SX22

器　種	甕（くの字口縁）	甕（ネクタイA）	甕（ネクタイB）	甕（口縁肥厚）	甕（加飾口縁・凹線）	広口壺	壺（加飾口縁）	直口壺（須恵器）	壺	高坏（口縁凹線）	高坏脚部	甕底部	総計
掲載数	2	1	1	2	1	1	4	－	2	1	2	2	19
非掲載数	13	－	－	－	1	－	2	1	－	－	1	4	22
合　計	15	1	1	2	2	1	6	1	2	1	3	6	41

備考）ネクタイAは口縁ナデ・ネクタイBは口縁凹線

SX22

器　種	甕（くの字口縁）	甕（口縁凹線）	直口壺（口縁凹線）	台付甕脚部	高坏	甕底部	総計
掲載数	2	2	1	1	1	1	8
非掲載数	－	－	－	－	－	4	4
合　計	2	2	1	1	1	5	12

SX23

器　種	甕（口縁肥厚）	甕（ネクタイA）	総計
掲載数	1	1	2
非掲載数	－	－	0
合　計	1	1	2

備考）ネクタイAは口縁加飾

SX24

器　種	甕（くの字口縁）	甕（ネクタイA）	甕（ネクタイB）	甕	甕（加飾口縁・刻目）	甕（加飾口縁・凹線）	壺（頸部加飾）	壺（加飾口縁）	壺	直口壺	高坏（刻目）	高坏	甕底部	壺底部	高坏脚部	総計
掲載数	－	1	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	－	2	2	18
非掲載数	20	2	2	1	3	－	2	－	1	－	2	2	28	2	1	66
合　計	20	3	3	2	4	1	3	4	2	1	3	3	28	4	3	84

備考）ネクタイAは口縁凹線のち刻目・ネクタイBは口縁凹線

SD01

器　種	甕（ネクタイ・口縁加飾）	総計
掲載数	1	1
非掲載数	－	0
合　計	1	1

古代井戸

器　種	坏	高台付坏	手捏ね土器	甕	総計
掲載数	2	1	1	1	5
非掲載数	－	－	－	－	0
合　計	2	1	1	1	5

表２　中野美保遺跡出土石器・石製品総数

地区名	掲載・非掲載	種別														
		石斧	大形石包丁	穂摘具	石皿	すり石	砥石	すじ砥石	瑪瑙・水晶小片	黒曜石剥片	紡錘車	桂化木	管玉	石鏃	火山弾（軽石）	未製品
Ⅰ区	掲載数							1								
	非掲載数															
Ⅱ区	掲載数						1									
	非掲載数						3		3							1
Ⅲ区	掲載数										1					
	非掲載数															
Ⅳ区	掲載数			2			1									
	非掲載数								5							
Ⅴ区	掲載数												1			
	非掲載数															
Ⅶ区	掲載数						2				1					
	非掲載数								6							
Ⅷ区	掲載数	9	1	2	1	1	2			1	1			2	1	
	非掲載数	1					8		8			1				
合計		10	1	4	1	1	17	1	22	1	3	1	1	2	1	1

表３　中野美保遺跡掲載土器・土製品観察表

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
15－1	37	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	1／10	21.0	－	－	－	(内)淡橙褐色 (外)褐色	ミガキ、ケズリのちミガキ	ナデ	口縁部に刻目文、口縁直下に13条の沈線、三角刺突文	良好		
15－2	37	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	1／4	18.4	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデ	ナデ	口縁部３条の凹線文	良好	0.1㎜程度の砂粒を含む	
15－3	36	Ⅰ区	4		弥生土器	高坏	1／3	22.4	17.5	14.6	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	口縁部と脚部裾に３条の凹線文	良好	１㎜程度の白色砂粒目立つ	外面と坏部内面に赤色顔料塗布
15－4	36	Ⅰ区	4		土師器	直口壺	1／3	16.0	－	23.0	－	(内)淡黄橙色 (外)淡黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ	外面頸部にヘラ描文、口縁部２条の凹線文	良好	１～３㎜程度の砂礫を多く含む	
15－5	37	Ⅰ区	4		弥生土器	高坏	1／5以下 (脚部)	20.0	－	－	－	(内)黄灰色 (外)黄灰色	ナデ、摩滅により調整不明瞭	ナデ	底部に何条かの凹線文	良好	１～２㎜の白色砂粒を多く含む	
15－6	37	Ⅰ区	4		弥生土器	壺	1／5以下	26.0	－	－	－	(内)明黄褐色 (外)黄褐色	ナデ	ナデ	口縁部４条の凹線文	良好	１㎜程度の白色砂粒を多く含む	
15－7	36	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	3／4	(19.5)	(29.4)	(3.0)	(22.5)	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ヘラケズリのちナデ、胴部上部ヘラケズリ、口縁部ナデ	口縁部ナデ、下部タテ方向ハケメ	外面頸部から肩部にかけて凹線文(12条)、波状文（９条)、凹線文（８条）	良好	１～２㎜の砂粒を多く含む	外面にスス多く付着
15－8	37	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	1／10以下 (口縁部)	20.8	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ	口縁部擬凹線文ナデ消し	良好	密(0.1㎜以下の微砂粒を多く含む)	外面にスス付着
15－9	37	Ⅰ区	4		古式土師器	甕	1／8	15.0	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	肩部に波状文	良好	0.1㎜以下の微砂粒を多く含む	
15－10	37	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	1／5以下	17.0	－	－	－	(内)淡橙褐色 (外)淡黄橙色	ナデ	ナデ		良好	0.1㎜以下の微砂粒を多く含む	
16－1	36	Ⅰ区	4		弥生土器	壺	1／2以下	頸部 (22.0)	－	－	(33.2)	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ハケメ、タテ・ヨコケズリ、ナデ	ハケメ、ミガキ	頸部に４条の凹線文、木口による刺突列点文が５列	良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
16－2	36	Ⅰ区	4		弥生土器	壺	1／3以下	頸部 (26.7)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ハケメ	ハケメ、ナデ	外面頸部に４条の凹線文、木口による３列の刺突列点文	良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
17－1	36	Ⅰ区	4		弥生土器	壺	1／4 (口縁部)	34.4	－	－	－	(内)暗黄褐色 (外)暗黄褐色	ナデ	ナデ、ハケメ	口縁部に凹線文(３条)、口縁部内面に緩やかな凸線(２条)	やや不良	0.1㎜程度の砂粒を含む	
17－2	36	Ⅰ区	4		弥生土器	壺	完存 (口縁～頸部)	39.0	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に４条の凹線文、頸部に５条の凹線文、１列の刺突列点文、斜行（左下り）ヘラ描文	良好		
17－3	36	Ⅰ区	4		弥生土器	壺	1／5 (頸部)	－	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	頸部に凹線（４条)、刺突文、沈線（３条)、ヘラ描文	良好		

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
18－1	37	Ⅰ区	4		弥生土器	高坏	2／3以上	9.0	－	－	－	(内)淡黄橙色 (外)淡黄橙色	ナデ	ナデ、ミガキ	口縁部がすぼまる形態	良好	0.1㎜以下の微砂粒を多く含む	
18－2	37	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	1／8 (口縁部)	(16.2)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ		良好	0.1㎜以下の微砂粒を含む	
18－3	37	Ⅰ区	4		弥生土器	甕	1／2	13.7	－	－	24.3	(内)淡黄白色 (外)淡白色	ケズリ、ナデ	ハケメ（かなり摩滅している）	肩部刺突文	良好	0.5～1㎜程度の白色砂粒を多く含む	外面にスス付着
18－4	37	Ⅰ区	4		古式土師器	壺	1／2以下	23.0	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	頸部に部分的に3条の沈線文のちに、木口による2列の羽状文	良好	1～2㎜前後の白色砂礫を多く含む	
18－5	37	Ⅰ区	4		土師器	甑形土器	1／6	－	－	(48.4)	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		良好	1～3㎜程度の砂礫を多く含む	
18－6	37	Ⅰ区	4		土師器	高台付坏	2／3	13.8	6.4	6.6	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄橙白色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	口縁端部が外方にくびれる	良好	密（微砂粒をわずかに含む）	
19－1	38	Ⅱ区	4		弥生土器	甕	1／10以下	(26.2)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄色	摩滅により調整不明	ナデ	口縁部端部に刺突文、胴部上方に7～10条の櫛描直線文	良好	1㎜以下の砂粒を少量含む	
19－2	38	Ⅱ区	4		弥生土器	無頸壺	1／4	11.6	－	－	－	(内)淡黄灰褐色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ、ケズリ	口縁端部から肩部にかけて6条・5条・6条の凹線文、櫛状工具による刺突列点文、刺突文は一部ナデ消される	やや不良	1～2㎜程度の白色砂礫目立つ	
19－3	38	Ⅱ区	4		弥生土器	壺	1／10	－	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ	口縁部に4条の凹線文	良好	0.1㎜程度の白色微砂粒を多く含む、2～3㎜の砂礫をわずかに含む	
19－4	39	Ⅱ区	4		弥生土器	壺	1／2以下	12.2	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄橙白色	ナデ、ケズリ	ハケメ、ミガキ	胴部に列点文、口縁部に2～3条の凹線文	良好	1㎜程度の白色砂礫を含む	
19－5	39	Ⅱ区	4		弥生土器	壺	1／2	(14.6)	34.8	5.4	(24.0)	(内)淡灰色 ※所々黄灰色 (外)淡黄灰色 ※摩滅部分淡灰色	ナデ、ヘラミガキ、ナデ	ヘラミガキ	口縁部に2条の凹線文	やや不良	1㎜以下の白色砂粒を多量に含む	
19－6	39	Ⅱ区	4		弥生土器	台付甕	完存 (高台部)	－	－	5.8	－	(内)淡黄褐色 (外)淡橙褐色	ヘラケズリのちナデ	ナデ		良好	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	外面にスス付着
19－7	39	Ⅱ区	4		弥生土器	台付甕	完存 (高台部)	－	－	6.8	－	(内)淡褐白色 (外)淡橙褐白色	ナデ	ハケメ、ナデ		良好	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	外面脚部にスス付着
19－8	38	Ⅱ区	4		土師器	高坏	1／6 (口縁部)	18.4	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄灰色	ナデ、ミガキ	ナデ	口縁部に8条の凹線文	良好	0.5㎜程度の雲母を含む	
19－9	38	Ⅱ区	4		弥生土器	高坏	1／6 (脚部)	－	－	(21.0)	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ヘラケズリ	ナデ	脚部裾に10条程度の凹線文（摩滅のため詳細不明）	良好	1～2㎜の砂礫を多く含む	
19－10	38	Ⅱ区	4		弥生土器	鼓形器台	2／3以下	－	－	－	－	(内)黄褐灰色 (外)黄褐灰色	ナデ	ナデ～ケズリ	頸部に3条と4条の沈線、貝殻施文による羽状文	良好		
19－11	38	Ⅱ区	4		土師器	注口土器	1／8 (口縁部)	22.4	－	－	－	(内)黄橙色 (外)黄橙色	ナデ	ナデ	口縁部に擬凹線文のちナデ消し	良好	1㎜程度の白色砂礫を含む	
20－1	38	Ⅱ区	4		土師器	甕	1／4	(16.6)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄色	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケメ		良好	1㎜以下の砂粒を多く含む	
20－2	38	Ⅱ区	4		土師器	甕	1／7	18.2	－	－	－	(内)暗白色 (外)暗白色	ナデ	ナデ		良好		
20－3	38	Ⅱ区	4		土師器	甕	1／5	(16.6)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	肩部に8条の波状文、1列の刺突列点文	良好	1㎜以下の砂粒を少量含む	
20－4	39	Ⅱ区	4		弥生土器	甕	1／3	16.0	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、ナデ、頸部に指頭圧痕	ハケメ、ナデ	肩部に7条の波状文	良好	1～2㎜の白色砂礫を多く含む	外面にスス付着
20－5	38	Ⅱ区	4		土師器	甕	1／8 (口縁部)	(16.0)	－	－	－	(内)淡橙褐色 (外)淡褐色	ナデ	ナデ		良好	0.1㎜程度の白色微砂粒を少量含む	外面にわずかにスス付着
20－6	38	Ⅱ区	4		土師器	甕	1／4 (口縁部)	(12.0)	－	－	－	(内)淡黄橙色 (外)淡黄橙色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	0.1㎜程度の白色微砂粒を少量含む	
20－7	38	Ⅱ区	4		土師器	甕	1／10 (口縁部)	(15.6)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ	ナデ		良好	0.1㎜程度の微砂粒を少量含む	
20－8	38	Ⅱ区	4		古式土師器	ミニチュア高坏	1／2	4.4	－	－	－	(内)淡灰白色 (外)淡灰白色	ナデ	ナデ、指頭圧痕		やや不良	0.1㎜以下の砂粒を多く含む	
20－9	38	Ⅱ区	4		古式土師器	甕	1／2 (上部)	16.6	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ケズリ	ハケメ	外面肩部に10条の波状文	良好	0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	
20－10	39	Ⅱ区	4		古式土師器	壺	完存 (頸部)	－	－	－	－	(内)淡黄橙白色 (外)淡黄橙白色	ナデ、指頭圧痕文多数	ナデ、ケズリ	頸部に貼付突帯文	良好	0.1㎜程度の微砂粒を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種　類	器　種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎　土	備　考
20－11	38	Ⅱ区	4		古式土師器	甕	1／4（口縁部）	(16.4)	－	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	指押しのちヘラケズリ、ナデ（口縁）	ナデ（口縁）、かなり摩滅している		良好	1～2㎜程度の砂礫をやや多く含む	
20－12	39	Ⅱ区	4		古式土師器	(小型丸底)直口壺	1／2	11.0	(9.8)	－	－	(内)黄橙灰色 (外)黄橙灰色	ナデ	ナデ、ハケメ		良好	0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
20－13	39	Ⅱ区	4		土師器	坏	1／2	13.0	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ケズリのちナデ一部ミガキ		良好	1㎜程度の白色砂粒を含む	赤彩顔料塗布
21－1	40	Ⅲ区	4		弥生土器	甕	1／4	20.0	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、指頭圧痕	口縁直下に4条の凹線文	やや不良	4㎜程度の砂礫をわずかに含む	
21－2	40	Ⅲ区	4		弥生土器	甕	1／4	25.4	－	－	－	(内)淡橙灰褐色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ、摩滅により不明	口縁に刻目文、胴部に5条の凹線文	やや不良	3㎜程度の砂礫を多く含む	
21－3	40	Ⅲ区	4		弥生土器	甕	1／3	26.0	－	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙灰色	ミガキ、ナデ	ハケメ、ナデ、頸部指頭圧痕		やや不良	3㎜程度の砂礫を多く含む	
21－4	40	Ⅲ区	4		弥生土器	甕	1／3	18.6	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ミガキ、ケズリ(強いナデか？)	ナデ		良好	密（3㎜程度の砂礫をわずかに含む）	外面胴部にスス付着
21－5	40	Ⅲ区	4		弥生土器	甕	1／6	26.4	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡橙灰褐色	ナデ	ナデ、ハケメ	口縁直下（頸部～肩部）に4条の凹線文	良好	2～4㎜程度の砂礫を含む	
21－6	40	Ⅲ区	4		弥生土器	甕	1／6	19.3	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁直下（頸部～肩部）に5条の凹線文	良好	1～4㎜程度の砂礫を含む	外面にスス付着
21－7	40	Ⅲ区	4		弥生土器	壺	1／3	23.0	－	－	－	(内)浅黄橙色 (外)浅黄橙色	ミガキ	ハケメのちミガキ	頸部に2列の円形刺突列点文、8条のヘラ描沈線文	良好	4㎜大までの石英を多く含む	
21－8	40	Ⅲ区	4		弥生土器	蓋	1／2	5.2	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡灰色	ナデ	ナデ	中央部に穿孔	良好	0.1㎜以下の砂粒を含む	
21－9	40	Ⅲ区	4		弥生土器	蓋	1／2	(8.2)	－	－	－	(内)暗褐色 (外)暗黄灰色	ナデ	ナデ		良好	密（0.1㎜以下の砂粒を含む）	
21－11	40	Ⅲ区	4		須恵器	高台付坏	1／2（底部）	－	－	(9.8)	－	(内)淡青灰色 (外)淡青灰色	ナデ	ナデ	外面底部にヘラ描文字	良好	0.1㎜以下の白色砂粒を含む	
22－1	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／10（口縁部）	(23.4)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ	口縁端部に刻目文、頸部に10条の沈線	良好	1㎜程度の白色砂礫を含む	
22－2	42	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／6（口縁部）	20.6	－	－	－	(内)淡赤白色 (外)淡赤白色	ナデ	ナデ	口縁端部に2条の凹線文、竹管文	良好	1㎜程度の白色砂礫目立つ、0.1～0.5㎜程度の赤色砂粒目立つ	
22－3	42	Ⅳ区	4		弥生土器	高坏	1／10（脚部）	25.9	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ、摩滅著しい	口縁端部に4条の凹線文	良好	0.5㎜以下の白色砂粒をわずかに含む	内面に赤色顔料わずかに付着
22－4	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／2以下	15.3	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ケズリ	ナデ	口縁部に4条の凹線文、頸部に2つの穿孔	やや不良	0.5㎜程度の白色砂粒目立つ	内面口縁部から外面にかけて丹塗り
22－5	42	Ⅳ区	4		弥生土器	蓋	1／2以下	3.8	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ	ナデ	中央に穿孔	良好	1～2㎜程度の白色砂礫を多く含む	
22－6	42	Ⅳ区	4		弥生土器	蓋	1／2	(3.4)	－	－	－	(内)褐色 (外)褐色	ハケメ、ナデ	ナデ	中央に穿孔	やや不良	0.5㎜程度の白色砂粒多く含む	
22－7	42	Ⅳ区	4		弥生土器	高坏	1／8（脚部）	14.4	－	－	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄褐灰色	ケズリ、ナデ	ミガキ、ナデ	11条の凹線文	良好	1㎜程度の砂礫を多く含む	外面口縁部付近に赤色顔料塗布
22－8	41	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	ほぼ完形	8.9	8.4	－	9.9	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ナデ～ケズリ	ナデ、指頭圧痕	肩部2条の綾杉文、頸部～肩部に6条：3条の沈線文	良好	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	
22－9	41	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／2以下	15.8	－	－	(13.5)	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ヘラケズリ、口縁部ミガキ	ミガキ		不良	0.5～1㎜程度の砂粒をかなり含む	外面にスス付着
22－10	42	Ⅳ区	4		弥生土器	低脚坏	1／2（脚部）	－	－	5.7	－	(内)黒褐色 (外)黒褐色	ナデ	ナデ	脚部に穿孔	不良	1㎜程度の砂礫を含む	
22－11	41	Ⅳ区	4		弥生土器	高台付坏	1／2	17.2	－	－	－	(内)暗橙褐色 (外)橙褐灰色	ハケメ	ハケメのちミガキ	口縁端部に1本の沈線文、内面に漆？	良好	0.1㎜程度の微砂粒を多く含む	
22－12	41	Ⅳ区	4		弥生土器	壺か注口土器	1／3（胴部）	－	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ	ハケ、ナデ	肩部に複数の沈線文、貝殻施文による綾杉文と斜行文	良好	0.5㎜以下の白色砂粒を多く含む	
22－13	41	Ⅳ区	4		弥生土器	壺か注口土器	1／3（胴部上半）	－	－	－	－	(内)淡黒灰色 (外)淡黄灰白色	ケズリ	ナデ	肩部に16条～18条の沈線文、貝殻施文による2列の綾杉文	やや不良	0.1㎜以下の砂粒を多く含む	
22－14	42	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／8	24.2	－	－	－	(内)黒灰色 (外)黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、口縁部一部ナデ消し	口縁部に16条の沈線文	良好	1㎜程度の白色砂礫を含む	外面頸部にスス付着
22－15	42	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／2（口縁部）	10.2	4.7	－	－	(内)淡黒灰色 (外)淡黄灰色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	貝殻施文による列点文	良好	0.1㎜程度の白色砂粒を含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
22－16	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／4	20.2	－	－	－	(内)淡黄橙灰色 (外)淡黄灰白色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	頸部～肩部にハケ状工具による平行線文と波状文	良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	外面口縁部にスス付着
22－17	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／3	15.8	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、ハケメ	貝殻施文（列点文）	やや不良	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	外面摩滅するがわずかに赤色顔料塗布
23－1	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／6	(15.2)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄橙褐色	ナデ、ミガキ、ケズリ	ナデ、ハケメ		やや不良	0.1mm以下の微砂粒を多く含む	
23－2	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／3以下 (口縁部)	(18.0)	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄色	ナデ～ケズリ	ハケメ、ナデ		良好	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
23－3	41	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	2／3	14.8	－	－	19.3	(内)淡黄白色 (外)淡橙灰白色	ケズリ、ナデ	ナデ、ハケメ		良好	1～3mm程度の砂礫目立つ	
23－4	42	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／8以下	(21.6)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ		良好		
23－5	41	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	2／3 (底部)	－	－	3.7	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、指頭圧痕	ナデ		良好	0.1～0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	外面にスス付着
23－6	41	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／4	14.6	－	－	(19.3)	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、ナデ、胴部に指頭圧痕	ナデ、ハケメ	肩部に貝殻施文	良好	1mm程度の白色砂礫を多く含む、5mm程度のゼオライトを含む	
23－7	41	Ⅳ区	4		弥生土器	甕	1／4以下	(15.2)	－	－	(18.4)	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ケズリのちナデ	ハケメ		やや不良	1mm程度の白色砂粒を多く含む	外面にスス付着
23－8	42	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／4以下 (口縁部)	15.8	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ケズリ、ナデ	ナデ	外面肩部にハケ状工具による波状文	良好		
23－9	42	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／8 (口縁部)	(18.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
23－10	41	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／3	(15.8)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、ナデ	ナデ、ハケメ		良好	1mm程度の白色砂礫を多く含む	外面胴部に有黒斑
23－11	42	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／10 (口縁部)	(16.0)	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ナデ	ナデ		良好		
23－12	42	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／8 (口縁部)	(12.6)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	0.5mm程度の白色砂粒を含む	
23－13	42	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／8 (口縁部)	(13.0)	－	－	－	(内)暗灰黒色 (外)淡黄褐色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		やや不良	1mm程度の白色砂粒を含む	
23－14	42	Ⅳ区	4		土師器	甕	1／8 (口縁部)	(18.0)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ケズリ、ナデ	ナデ		良好	1mm程度の砂礫を多く含む	
24－1	44	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／3	15.8	－	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ、口縁部～頸部にかけて強いナデ	肩部に平行線文のちナデ	良好		
24－2	43	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	完存 (口縁部)	15.5	－	－	－	(内)淡灰黄褐色 (外)淡灰黄褐色	ナデ	ナデ	口縁部に凹線のちナデ消し、頸部にヘラ状工具による平行線文	良好	0.1mm以下の白色微砂粒を多く含む	
24－3	44	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／6 (口縁部)	(13.8)	－	－	－	(内)淡灰色 (外)淡灰色	ナデ、ケズリ、指頭圧痕、摩耗著しい	ナデ	頸部に5条の平行線文	不良	0.1mm以下の砂粒を多く含む	
24－4	44	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／4 (口縁部)	(14.1)	－	－	－	(内)淡灰白色 (外)淡灰白色	摩滅により調整不明	摩滅により調整不明		不良	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
24－5	44	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／3以下 (口縁部)	(28.8)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ハケメ、ナデ、頸部に指頭圧痕	ハケメ、ナデ、口縁部外面に強いナデ		良好	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
24－6	44	Ⅳ区	4		弥生土器	壺	1／4 (口縁部)	(20.1)	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ケズリ、ナデ、指頭圧痕	ナデ、ハケメ		やや不良	1～3mm程度の白色砂礫を多く含む	
24－7	44	Ⅳ区	4		土師器	壺	1／4 (口縁部)	(22.4)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)淡黄灰褐色	ナデ	ナデ	頸部に木口による刺突列点文、ヘラ描沈線文のちハケ状工具による羽状文	良好	0.1～1mm程度の砂粒を含む	
24－8	43	Ⅳ区	4		弥生土器	鼓形器台	1／2以下	21.0	－	－	－	(内)淡黄橙褐色 (外)淡黄橙灰色	ミガキ、ケズリ	ナデ		良好	1.0mm以下の白色砂粒を多く含む	
24－9	43	Ⅳ区	4		弥生～古墳	高坏	完形 (1／1)	23.3	16.0	14.4	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ミガキ、ナデ、(脚部ケズリ、ハケメ)	ミガキ、ナデ、ハケメ		良好	0.5mm程度の砂礫を多く含む	
24－10	43	Ⅳ区	4		弥生土器	鼓形器台	1／2 (口縁部)	16.7	8.8	15.0	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種　類	器　種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎　土	備　考
24－11	43	Ⅳ区	4		弥生土器	鼓形器台	1／2以下	24.0	－	－	－	(内)黄橙褐色 (外)黄橙褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ		良好	0.5mm以下の砂粒を多く含む	
25－1	44	Ⅳ区	4		弥生土器	注口土器	完存 (注口部)	－	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色		ミガキ		やや不良	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
25－2	44	Ⅳ区	4		弥生土器	注口土器	完存 (注口部)	－	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ケズリ	ミガキ	注口部基部付近に櫛描文	やや不良	0.1mm程度の砂粒を含む	
25－3	44	Ⅳ区	4		弥生土器	注口土器	完存 (注口部)	－	－	－	－	(内)黄橙色 (外)黄橙色	ナデ	ミガキ、ナデ	注口部基部付近に櫛描文	良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を含む	
25－4	43	Ⅳ区	4		弥生～古墳	高坏	1／2以下 (脚部)	－	－	13.0	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ		良好	0.1mm以下の砂粒を含む	
25－5	43	Ⅳ区	4		弥生土器	低脚坏	2／3 (脚部)	－	－	6.0	－	(内)淡黄色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ		良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を含む	
25－6	44	Ⅳ区	4		弥生土器	高坏	1／2以下 (坏部)	9.2	－	－	－	(内)茶褐色 (外)茶褐色	ミガキ	ハケメ、ナデ		良好	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
25－7	43	Ⅳ区	4		弥生～古墳	高坏	2／3 (脚部)	－	－	19.6	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	脚部裾に4つの穿孔	良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
25－8	43	Ⅳ区	4		弥生～古墳	低脚坏	1／2	－	－	4.0	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ハケメのちナデ	ナデ		良好	1mm程度の金雲母を含む	
25－9	43	Ⅳ区	4		土師器	高坏	1／2 (脚部)	－	－	10.0	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	脚部中央部に3つの穿孔	良好	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
25－10	43	Ⅳ区	4		古式土師器	高坏	2／3 (脚部)	－	－	21.2	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ケズリ、ナデ	ナデ、ケズリ	底部端部に強いナデが施され凹んでいる	良好	0.1～0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	
25－11	44	Ⅳ区	4		土師器	甑形土器	1／10 (口縁部)	(9.4)	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰色	ケズリ、ナデ	把手部分にケズリ、ナデ		やや不良	0.5～1mm程度の砂粒を多く含む	
25－12	44	Ⅳ区	4		弥生土器	高坏	1／10 (口縁部)	(24.4)	－	－	－	(内)灰黄色 (外)淡黄色	ナデ	ミガキ、ナデ		良好	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
25－13	44	Ⅳ区	4		弥生～古墳	甑形土器	1／8 (口縁部)	(10.8)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ケズリ、ナデ	ナデ、指頭圧痕		良好	0.5～1mmの砂礫を多く含む	
25－14	44	Ⅳ区	4		土師器	把手付甕か甑	完存 (把手部)	－	－	－	－	(内)橙褐色 (外)淡橙褐色	ケズリ	ミガキ、ナデ		良好	1mm以下の白色砂粒をやや多く含む	
25－15	44	Ⅳ区	4		土師器	高坏	1／4 (坏部)	－	－	－	－	(内)淡橙色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ		良好	密（0.1mm以下の砂粒を少し含む）	
25－16	44	Ⅳ区	4		土師器	鉢	1／10 (口縁部)	(22.6)	－	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ハケメのちナデ消し	ハケメ		良好	密	
26－1	45	Ⅴ区	4		弥生土器	甕	1／4 (上部)	(18.8)	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ハケメ、ナデ、ケズリ	ハケメのちナデ	口縁端部に2条の凹線文	やや不良	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
26－2	45	Ⅴ区	4		弥生土器	甕	2／3	(24.0)	28.4	11.0	28.4	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ナデ、ハケメ、指ナデ	ハケメ、ヘラミガキ	口縁部に3条の凹線文	やや不良	1mm以下の石英砂粒を多く含む	
26－3	45	Ⅴ区	4		弥生土器	甕	1／8 (口縁部)	22.2	－	－	－	(内)明褐色 (外)明褐色	ケズリ	ハケメ	口縁部に5条の凹線文、胴部に木口による斜状刺突文	良好	3mm大までの白色砂礫を含む	
26－4	45	Ⅴ区	4		弥生土器	高坏	1／10 (口縁部)	18.0	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ヨコナデ	ケズリ	口縁端部に刻目文、口縁部に5条の凹線文	やや不良	0.1mm程度の白色砂粒を含む	
26－5	45	Ⅴ区	4		弥生土器	土製円盤 (紡錘車未製品)	完形 (1／1)	－	－	－	－	(内)暗灰黄褐色 (外)灰黄褐色	不明	ヘラミガキ	中央部の穿孔は貫通していない	良好	微砂粒を含む	
26－6	45	Ⅴ区	4		土師器	赤彩坏	1／3	(13.5)	3.3	(8.4)	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ、底部ヘラケズリ		良好	密	内外面に丹塗
27－1	45	Ⅵ区	4		土師器	甕	完形 (1／1)	15.4	24.5	－	21.7	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケメ		良好	1～2mmの砂礫を多く含む	
33－1	46	Ⅴ区	4	SX01	弥生土器	長頸壺	2／3以上	－	－	5.6	15.5	(内)淡褐色 (外)淡褐色	摩滅により不明	摩滅が著しい、一部ハケメ	胴部に回線文らしきものがあるが不明瞭	やや不良	1～2mm程度の白色砂礫を多く含む	
33－2	46	Ⅴ区	4	SX01	弥生土器	甕	1／4 (口縁部)	(29.2)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ	口縁部に3条の凹線文、頸部に貼付突帯文	良好	0.1mm程度の白色砂粒を含む	
33－3	46	Ⅴ区	4	SX01	弥生土器	高坏	1／3 (坏部)	(24.8)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ハケメ	ハケメのちヘラミガキ	口縁部に3条の凹線文	良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
33－4	46	Ⅴ区	4	SX01	弥生土器	高坏	1／8 (口縁部)	(22.0)	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ハケメのち一部ミガキ	ヨコナデのちミガキ	現状で口縁部に2条の凹線文のち斜格子文を施す	良好	0.1mm程度の白色砂粒を含む	
33－5	46	Ⅴ区	4	SX01	弥生土器	高坏	完形 (1／1)	12.5	12.6	10.2	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ナデ	ナデ、ミガキ	口縁部に5条の凹線文、脚部に3条・5条・4条の凹線文	良好	1mm程度の白色砂粒を多く含む	内面に「漆」らしきもの付着

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
33－6	46	V区	4	SX01	弥生土器	甕	2／5(口縁～胴部)	(14.5)	12.0	－	17.1	(内)灰黄色(外)灰黄色	ハケメのちケズリ	ハケメのちミガキ	口縁部に2条の凹線文、胴部に斜行刺突文、下半は波状文状になる	良好	0.2～0.5mm程度の砂粒を含む	外面口縁部・胴部に炭化物付着、外面に黒斑
33－7	46	V区	4	SX01	弥生土器	甕	1／8	(15.0)	－	－	(19.7)	(内)淡褐色(外)褐色	ハケメ、ナデ、ケズリ	ハケメ、ナデ、ハケメのちミガキ	口縁部に3条の凹線文、胴部木口による刺突文	やや不良		
33－8	46	V区	4	SX01	弥生土器	甕	完形(1／1)	12.6	24.9	5.4	－	(内)暗褐色(外)暗褐色	ハケメ、ケズリ、ナデ	ハケメ、ミガキ、ナデ	口縁部に3条の凹線文、肩部に木口による刺突列点文	やや不良	0.1mm以下の砂粒を多く含む	
33－9	46	V区	4	SX01	弥生土器	甕	1／2	(15.4)	27.1	5.8	(19.6)	(内)淡黄灰色(外)淡黄桃色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ミガキ、ナデ、外面底部付近ナデ	口縁部に3条の凹線文、胴部に斜状刺突列点文	良好	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
33－10	46	V区	4	SX01	弥生土器	甕	完存(底部)	－	－	8.0	－	(内)黄褐色(外)淡黄褐色	ケズリ	ミガキ底部付近ミガキのちナデ		やや不良	0.1～0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	外面にスス付着
34－1	47	V区	4	SX02	土師器	甕	1／8(口縁部)	(21.4)	－	－	－	(内)淡黄白色(外)淡黄白色	ナデ	ナデ、摩滅により調整不明瞭	口縁部に2条の凹線文	良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
34－2	47	V区	4	SX02	弥生土器	甕	完存(底部)	－	－	5.7	－	(内)淡黄灰色(外)淡灰褐色	ナデのち指押し	ナデ(底部付近はミガキのちナデ)		良好	0.1mm以下の白色砂粒をやや多く含む	
34－3	47	V区	4	SX02	弥生土器	甕	1／2(底部)	－	－	5.6	－	(内)淡黄灰白色(外)淡黄灰白色	ナデ	ミガキ（底部付近はミガキのち一部ナデ)		良好	0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	
35－1	47	V区	4	SD02	弥生土器	甕	1／8以下(口縁部)	19.0	－	－	－	(内)淡褐色(外)淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に3条の擬凹線文	良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
35－2	47	V区	4	SD02	弥生土器	甕	1／10(口縁部)	(18.4)	－	－	－	(内)淡橙色(外)淡橙褐色	ナデ	ナデ、ケズリ	口縁部に3条の擬凹線文	やや不良	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
35－3	47	V区	4	SD02	弥生土器	甕	1／10(口縁部)	(15.4)	－	－	－	(内)黄褐色(外)暗褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に7条の擬凹線文	良好	0.5～1mm程度の白色砂粒を含む	
35－4	47	V区	4	SD03	弥生土器	甕	1／8(口縁部)	(16.0)	－	－	－	(内)淡黄白色(外)淡黄白色	ナデ	ナデ	口縁部に3条の凹線文	良好	0.1mm程度の金雲母等の砂粒を含む	
35－5	47	V区	4	SD03	弥生土器	甕	1／2以下(底部)	(6.8)	－	6.8	－	(内)暗褐色(外)橙褐色	ケズリ、指頭圧痕	ナデ、底部付近ヨコナデ		やや不良	1～2mmの白色砂礫を多く含む	内面にスス付着
35－6	47	V区	4	SD04	弥生土器	甕	1／2	19.2	－	－	(23.0)	(内)褐色(外)褐色	ナデ、ケズリ	ハケメ、ナデ	口縁に3条の凹線文、胴部に木口による斜状(右上がり)刺突列点文	良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
35－7	47	V区	4	SD04	弥生土器	甕	1／2(口縁部)	15.2	－	－	－	(内)淡橙褐色(外)淡橙褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に3条の凹線文、肩部に木口による斜状(右上がり)刺突列点文	良好	1mm以下の砂粒を多く含む	外面口縁部と胴部にスス付着
35－8	47	V区	4	SD04	弥生土器	甕	1／3	(19.2)	－	－	(24.0)	(内)淡黄灰色(外)淡黄灰色	ナデ、ヘラケズリ、指ナデ	ヘラミガキ、ナデ	口縁部に3条の凹線文、肩部に木口による斜状(右上がり)刺突列点文	良好	1～2mmの白色砂礫を少量含む	
35－9	47	V区	4	SD04	弥生土器	甕	1／2(底部)	－	－	3.0	－	(内)淡橙白色(外)淡黒色	ケズリ、ナデ	ナデ		良好	0.5～1mmの砂粒を多く含む	
35－10	47	V区	4	SD04	弥生土器	甕	1／4(底部)	－	－	(4.9)	－	(内)褐色(外)暗褐色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		良好	0.1mm以下の砂粒を含む	
35－11	47	V区	4	SD04	弥生土器	壺	1／4(口縁部)	(27.6)	－	－	－	(内)橙褐色(外)明橙褐色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ハケメ静止痕	口縁部に4条の凹線文	良好	1mm程度の白色砂礫を含む	
35－12	47	V区	4	SD05	弥生土器	甕	1／2(口縁部)	(24.4)	－	－	－	(内)淡茶褐色(外)淡茶褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹線文	良好	0.5mm程度の砂粒を含む	
39－1	48	Ⅶ区	3		須恵器	蓋	ほぼ完形(1／1)	13.2	4.2	－	－	(内)淡青灰色(外)淡青暗灰色	回転ナデのち一部ナデ、回転ナデ(口縁)	回転ナデ	天井部ヘラ起こしのちナデ、線刻あり	良好	密（0.1mm以下の微砂粒を含む)	1～3mm程度の黒色自然釉多量に付着
39－2	48	Ⅶ区	3		須恵器	蓋	1／2	9.6	3.4	－	－	(内)青灰色(外)青灰色	ナデ、回転ナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ		良好	0.1～1mmの白色砂粒をわずかに含む	
39－3	48	Ⅶ区	3		須恵器	蓋	完形	10.0	3.4	－	－	(内)青灰色(外)青灰色	回転ナデ	回転ヘラケズリ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
39－4	48	Ⅶ区	3		須恵器	坏（身）	1／8(口縁部)	(9.8)	－	－	－	(内)青灰色(外)青灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	0.1mm以下の白色砂粒を含む	
39－5	48	Ⅶ区	3		須恵器	蓋	1／4	(13.8)	3.4	－	－	(内)暗黄淡灰色(外)暗灰色	回転ナデのちナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ	宝球つまみ	良好	密（1～2mmの白色砂粒を少量含む)	
39－6	48	Ⅶ区	3		須恵器	坏	1／4(底部)	－	－	(11.2)	－	(内)青灰色(外)青灰色	ナデ	回転ナデのち静止ヘラケズリ		良好	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
39－7	48	Ⅶ区	3		土師器	坏	完形(1／1)	11.2	3.9～5.0	5.0	－	(内)明橙灰色(外)明橙灰色	ナデ	ナデ、底部回転糸切り		良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
39－8	48	Ⅶ区	3		土師器	坏	2／3	11.5	4.9	5.9	－	(内)暗橙灰色(外)淡橙色	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切り		良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種　類	器　種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎　土	備　考
39－9	48	Ⅶ区	3		須恵器	高台付壺	1／4(底部)	－	－	8.3	－	(内)淡青灰色 (外)淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		良好	密（0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を含む）	
39－10	48	Ⅶ区	3		須恵器	高坏	1／2	(13.9)	8.5	7.6	－	(内)淡黄灰色 (外)淡灰色	ナデ、回転ナデ	回転ナデ	脚部に2つの切り込みあり	良好	0.1㎜程度の白色砂粒を少し含む	
39－11	48	Ⅶ区	3		須恵器	高坏	1／2	(14.6)	8.7	(8.0)	－	(内)淡灰色 (外)淡灰色	中央部ナデ、口縁部にかけて回転ナデ	回転ナデ	内面底に×印あり	良好	1～2㎜の白色砂礫を多く含む	
39－12	48	Ⅶ区	3		須恵器	直口壺	1／2	8.3	－	－	－	(内)青灰色 (外)淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	1㎜以下の細かな黒色砂粒をやや多く含む	
39－13	48	Ⅶ区	3		土師器	手捏土器	1／2以上	6.1	4.4	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ		良好	0.1㎜以下の砂粒を含む	
39－14	48	Ⅶ区	3		土師器	手捏土器	1／2以下	6.5	4.3	6.0	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ		やや不良	密	
39－15	48	Ⅶ区	3		土師器	手捏土器	完形(1／1)	6.2	5.2	－	－	(内)黒灰色 (外)黒灰色	ナデ	ナデ	不整形、指頭圧痕多数	良好	白色微砂粒をわずかに含む	
39－16	48	Ⅶ区	3		土師器	手捏土器	2／3	8.4	5.5	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ナデ、指頭圧痕多数	ナデ、指頭圧痕多数		良好	密（0.1㎜大の砂粒を含む）	外面底部から胴部にかけてスス付着
39－17	48	Ⅶ区	3		土師器	手捏土器	完形(1／1)	11.1	6.2	8.4	－	(内)淡黄橙褐色 (外)淡黄橙褐色	ナデ、指頭圧痕多数	ナデ、指頭圧痕多数		良好	0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	外面にわずかにスス付着
39－18	49	Ⅶ区	3		土師器	赤彩椀	完形(1／1)	8.6	5.5	－	9.4	(内)暗灰褐色 (外)暗灰褐色	ナデ	ナデ、ハケメ		良好	0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む	外面摩滅により調整不明瞭、内外面に赤色顔料塗布
39－19	49	Ⅶ区	3		土師器	坏	1／10以下	－	－	－	－	(内)淡灰白色 (外)淡灰白色 ※赤彩痕あり	ナデ	ナデ	墨書土器	良好	密	
39－20	49	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	2／3(脚部)	－	－	(14.0)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、ナデ	ナデ、指頭圧痕		良好	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	外面及び脚部内面に赤色顔料塗布
39－21	49	Ⅶ区	3		土師器	高坏	完形(1／1)	17.6	15.1	14.0	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ、その他摩滅により不明	ナデ、その他摩滅により不明	脚部中央に2条の平行線文	良好	1～2㎜の砂礫を多く含む	
40－1	49	Ⅶ区	3		弥生土器	蓋	1／2	－	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)暗灰色	ナデ	ナデ		良好	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	
40－2	49	Ⅶ区	3		土製品	紡錘車	1／2	－	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ミガキ	ミガキ	甕胴部片を円形に整形して、中央部に穿孔を施す	良好	0.5㎜程度の白色砂粒を少量含む	
40－3	49	Ⅶ区	3		土製品	土錘	完形(1／1)	－	－	－	－	(内)淡暗黄褐色 (外)暗黄褐色				良好	0.1㎜程度の砂粒を多く含む	
40－4	49	Ⅶ区	3		土製品	土錘	4／5	－	－	－	－	(内)淡黒灰色 (外)淡黒灰色				良好	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
40－5	49	Ⅶ区	3		土製品	土錘	1／2	－	－	－	－	(内)淡灰色 (外)淡灰色				良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
40－7	49	Ⅶ区	3		土師器	甕	1／10	22.4	－	－	－	(内)暗褐色 (外)暗褐色	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		良好	0.1～0.5㎜の白色砂粒を多く含む、2㎜大の石英少し含む	
40－8	49	Ⅶ区	3		土師器	甑	1／2(口縁部)	－	－	9.2	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ケズリ	ハケメのちナデ、底部に指頭圧痕	穿孔あり	良好	0.1～1㎜程度の砂粒を多く含む	
40－9	49	Ⅶ区	3		土師器	把手付甑（甕）	完形(把手部)	－	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ		不良	1㎜程度の砂粒を含む	
41－1	50	Ⅶ区	3		須恵器	蓋	ほぼ完形(1／1)	13.5	3.5	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ		良好	0.1㎜程度の淡黒色の砂粒と1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
41－2	50	Ⅶ区	3		須恵器	蓋	ほぼ完形(1／1)	14.0	3.9	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデのち一部ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ		良好	0.1㎜以下の白色砂粒を多く含む	
41－3	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩坏	ほぼ完形(1／1)	14.6	5.2	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ、底部ヘラ起こし		良好	0.1㎜以下の砂粒を含む	内外面に赤色顔料塗布
41－4	57	Ⅶ区	3		土師器	赤彩坏	1／3	(13.8)	－	－	－	(内)淡黄灰褐色 (外)淡黄灰褐色	ナデ	ケズリ		良好	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	内外面に赤色顔料塗布
41－5	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	1／2	14.0	8.2	9.5	－	(内)淡黄灰褐色 (外)淡黄灰褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	0.5㎜程度の白色砂粒をやや多く含む	坏部内面・外面ともに赤色顔料塗布
41－6	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	2／3(脚部)	－	－	(12.8)	－	(内)淡橙色 (外)淡橙色	ナデ	ナデ		良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	外面全体に赤色顔料塗布

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
41－7	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	3／4	－	－	(11.2)	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄褐灰色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	坏部内外面ともに赤色顔料塗布
41－8	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	2／3以上	(14.4)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	脚部タテ方向ケズリのちヨコ方向ケズリ	ナデ		良好	0.5～1mm程度の白色砂粒を多く含む	坏部内外面、脚部外面に赤色顔料塗布
41－9	57	Ⅶ区	3		土師器	高坏	1／4	－	－	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ、ケズリ		良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
41－10	57	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	1／4 (脚部)	(13.6)	－	－	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄褐灰色	ナデ	ナデ		良好	0.5mm程度の砂粒を多く含む	外面に赤色顔料塗布
41－11	57	Ⅶ区	3		土師器	赤彩高坏	1／4 (坏部)	(14.8)	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ナデ	ナデ		良好	1mm程度の白色砂礫を多く含む	内外面に赤色顔料塗布
41－12	57	Ⅶ区	3		土師器	赤彩甑	1／3以下	－	－	(11.2)	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄褐灰色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に穿孔あり	良好	1mm程度の砂礫を多く含む	内外面に赤色顔料塗布
41－13	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩甕	1／2 (口縁部)	(25.8)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ケズリ、ナデ	ナデ		良好	0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	内・外面に赤色顔料塗布
41－14	50	Ⅶ区	3		土師器	赤彩甕	1／2以下 (底部)	－	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、ケズリ	ハケメ、ナデ		良好	2～3mmの白色砂礫を含む	内外面に赤色顔料塗布
41－15	50	Ⅶ区	3		須恵器	横瓶	1／2 (胴部)	－	－	－	－	(内)淡灰色 (外)灰色	ナデ、タタキ	ナデ、タタキ		良好	密	外面に多量の自然釉が付着
46－1	51	Ⅶ区	3	1号墓	弥生土器	注口土器	完存 (口縁部)	15.4	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ミガキ、ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	口縁部に19～20条の擬凹線文(ナデ消し)、頸部～胴部に3列の貝殻施文、肩部～胴部に5：7：4条の擬凹線文	良好	密（微砂粒を少量含む）	
46－2	51	Ⅶ区	3	1号墓	弥生土器	甕	完存 (口縁部)	14.6	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、ナデ	ナデ	口縁部に強いナデ、頸部～肩部に7条程度の波状文	良好	密（1.5mm大の砂礫をわずかに含む、0.1～0.2mmの微砂粒を多く含む）	外面・口縁内面に赤色顔料塗布
46－3	51	Ⅶ区	3	1号墓	弥生土器	甕	完存 (口縁部)	15.6	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	密（0.1～0.2mmの微砂粒を含む）	
46－4	51	Ⅶ区	3	1号墓	弥生土器	甕	1／3以下 (口縁部)	(15.6)	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	13条以上の擬凹線文ナデ消しあり	良好	0.1mm以下の微細砂粒を多く含む	
46－5	51	Ⅶ区	3	1号墓	弥生土器	甕	ほぼ完存 (口縁部)	14.5	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ、ミガキ、ケズリ	ナデ		良好	密（0.1～0.2mm程度の微砂粒を含む）	
46－6	51	Ⅶ区	3	1号墓	土師器	鼓形器台	1／5 (受部)	(20.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ミガキのち一部ナデ	ナデ、ミガキ	口縁部下に4条の擬凹線文（ナデ消しあり）	良好	1～2mmの白砂礫を少量含む、0.1mm以下の微砂粒を含む	
46－7	51	Ⅶ区	3	1号墓	弥生土器	低脚坏	完形 (1／1)	11.3	5.4	5.6	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	口縁部端までミガキあり	良好	微砂粒をわずかに含む、1～2mmの砂礫をごくわずかに含む	
48－1	51	Ⅶ区	3	1号集石	弥生土器	甕	1／10 (口縁部)	(15.4)	－	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ	擬凹線文のちナデ消し、一部凹線文の痕跡残る	良好	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
51－1	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	甕	1／10以下 (口縁部)	(17.2)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ、指頭圧痕	ナデ	頸部に3条以上のヘラ描き直線文	良好	0.1～1mmの砂粒を多く含む	
51－2	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	甕	1／10 (口縁部)	(13.6)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	頸部～肩部にかけて波状文	良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
51－3	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	甕	1／10 (口縁部)	(15.5)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ、ケズリ	ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
51－4	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	鼓形器台	1／10	－	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ミガキ、ケズリ	ナデ	貝殻施文による綾杉文	良好	1mm程度の石英を多く含む	
51－5	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	鼓形器台	1／8	－	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	綾杉文	良好	0.1～0.5mm程度の白色砂粒を含む	
51－6	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	高坏	1／3 (脚部)	－	－	(10.1)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ		良好	0.1～0.5mmの白色砂粒を多く含む	
51－7	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	低脚坏	1／2 (脚部)	－	－	(4.8)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ、ミガキ		良好	1mm程度の砂礫を含む	
51－8	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	高坏	1／10 (脚部)	－	－	(10.8)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色 ※内外面ともに部分的に淡橙色	ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
51－9	52	Ⅶ区	3	2号集石	弥生土器	鼓形器台	1／10 (底部)	－	－	(11.6)	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ケズリ、ナデ	ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
58－1	53	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	壺	1／2	(15.5)	28.1	5.5	(23.0)	(内)黄灰色 (外)黄灰色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ミガキ※タテ方向のミガキのちヨコ方向のミガキ		良好	0.5㎜前後の白色砂粒を多く含む	
58－2	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	広口壺	1／10以下(口縁部)	(25.7)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ	口縁部に2列の刺突文	不良	0.1㎜以下の微砂粒含む	
58－3	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	広口壺	1／10以下(口縁部)	(28.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、ハケメ	ナデ	口縁部に4条の沈線文、口縁端部に刻目文	やや不良	0.1㎜程度の微砂粒を多く含む	
58－4	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	壺	1／5(口縁部)	(20.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄橙色	ナデ	ナデ、ハケメ	口縁端部に斜格子文	良好	0.1㎜以下の微砂粒をわずかに含む	
58－5	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／10以下(口縁部)	(16.5)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ		良好	1㎜大の砂礫を含む	外面わずかにスス付着
58－6	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／6(口縁部)	(24.0)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ		良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
58－7	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／4(上半部)	(24.0)	(24.4)	－	－	(内)明橙褐色 (外)暗橙褐色	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	ナデ、ハケメ		良好	1～3㎜の砂礫を多く含む	外面にスス付着
58－8	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／10以下(口縁部)	(14.6)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ、ハケメ		良好	0.1㎜以下の白色微砂粒をわずかに含む	
58－9	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／10以下(口縁部)	(13.6)	－	－	－	(内)淡橙色 (外)淡橙色	ナデ	ナデ		良好	1～2㎜の砂礫をわずかに含む	
58－10	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	蓋	1／3	－	－	－	－	(内)黒色 (外)黒色	ナデ	ナデ、ハケメ		不良	1～2㎜の白色砂礫多く含む	内外面ともスス濃く付着
58－11	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／8(底部)	－	－	(5.4)	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄橙色	摩滅により不明	ミガキ、ナデ		良好	密（1～2㎜の白色砂礫を多く含む）	
58－12	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	壺	1／2以下(底部)	－	－	(7.4)	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ、指頭圧痕		良好	3㎜大の白色砂礫を多く含む	
58－13	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	甕	1／2以下(底部)	－	－	(6.0)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡橙灰色	ハケメ	ミガキ、ナデ		良好	0.1㎜程度の白色微砂粒を多く含む（1㎜の砂礫を少量含む）	
58－14	52	Ⅶ区	3	2号墓	弥生土器	手捏土器	1／6(口縁部)	(8.6)	－	－	(8.0)	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄褐色	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		不良	1～3㎜の白色砂粒を少量含む	
59－1	53	Ⅶ区	3	2号墓下層	弥生土器	甕	1／10(上半部)	(25.4)	－	－	(20.0)	(内)淡黄橙色 (外)淡黄灰色	ミガキ、ナデ、ハケメ、指頭圧痕	ナデ、ハケメ、指頭圧痕	外面頸部に6条のヘラ描き直線文	良好	密（1～3㎜の砂粒を少量含む）	外面にスス多量に付着
59－2	53	Ⅶ区	3	2号墓下層	弥生土器	甕	1／6以下(口縁部)	(17.0)	－	－	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ナデ、ハケメ	ナデ	頸部に6条以上のヘラ描き直線文	良好	0.5㎜程度の砂粒を含む	
59－3	53	Ⅶ区	3	2号墓下層	弥生土器	甕	2／3	(27.0)	27.4	7.1	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、底部付近ナデ	口縁端部に斜状刻目文、外面頸～肩部に5条のヘラ描き直線文	やや不良	2～3㎜程度の白色砂礫を多く含む	
65－1	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	手捏土器	完形(1／1)	4.2	4.0	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ、指頭圧痕		良好	0.5㎜以下の微砂粒を多く含む	
65－2	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	手捏土器	ほぼ完形(1／1)	4.7	4.5	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		良好	0.5㎜以下の微砂粒を多く含む	
65－3	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	手捏土器	完形(1／1)	5.2	4.5	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ、指頭圧痕	ナデ		良好	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	
65－4	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	手捏土器	完形(1／1)	5.6	5.1	3.2	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ、指頭圧痕		良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
65－5	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	甕	1／2(口縁部)	(18.6)	－	－	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ケズリ、ナデ	ナデ	摩滅により調整不明瞭	良好	1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
65－6	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	甕	1／4(上半部)	(22.2)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)橙褐色	ハケメ、ケズリ、摩滅により不明	ナデ、摩滅により不明		不良	0.5～1㎜程度の砂礫を多く含む	
65－7	55	Ⅷ区A	3	土器溜まり	土師器	竈	1／2(口縁部)	(31.2)	－	－	－	(内)明橙灰色 (外)明橙色	ケズリ、ナデ	ナデ		やや不良	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	
66－1	55	Ⅷ区A	3		土師器	高台付坏	1／2	－	－	7.8	－	(内)淡橙色 (外)淡橙色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り、ナデ		良好	1㎜程度の白色砂礫をわずかに含む	焼成時の亀裂あり
66－2	55	Ⅷ区A	3		土師器	坏	完形(1／1)	13.3	4.6	5.6	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	密	微細な金雲母をわずかに含む
66－3	55	Ⅷ区A	3		土師器	坏	2／3	(12.0)	3.8	4.8	－	(内)淡黄橙色 (外)淡黄橙色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	白色微砂粒をごくわずかに含む	10～11Cのもの
66－4	55	Ⅷ区A	3		土師器	手捏土器	完形(1／1)	4.4	3.0	2.0	－	(内)暗黄褐色 (外)暗黄褐色	ナデ	ナデ、指頭圧痕		良好	白色微砂粒をやや多く含む	内外面のほぼ半分にスス付着

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
66－5	55	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／10（口縁部）	(23.6)	－	－	－	(内)暗黄褐色 (外)暗黄褐色	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ、タテ方向ハケメ		良好	1～2㎜の白色砂礫を多く含む	外面頸部にスス付着
74－1	57	Ⅷ区A	3		須恵器	蓋	1／2	(14.6)	3.3	－	－	(内)暗青灰色 (外)淡青灰色	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、一面に灰がかかっているため調整不明		良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒を含む）	
74－2	57	Ⅷ区A	3		須恵器	蓋	1／2	(17.0)	3.1	－	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデのちナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒を含む）	
74－3	57	Ⅷ区A	3		須恵器	蓋	1／2	(15.4)	2.5	－	－	(内)暗灰色 (外)暗灰色 ※灰部分は灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ		良好	堅緻（0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を含む）	
74－4	57	Ⅷ区A	3		須恵器	蓋	1／2	(18.0)	(2.6)	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ、不定方向のナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ		良好	堅緻（0.1～0.2㎜程度の白色砂粒を含む）	
74－5	57	Ⅷ区A	3		須恵器	蓋	1／10	(25.0)	(2.6)	－	－	(内)灰色 (外)青灰色	ヨコナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ		良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒、1～3㎜の砂礫を含む）	
74－6	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高台付坏	1／3	(13.8)	4.0	(9.2)	－	(内)灰赤褐色 (外)灰赤褐色	回転ナデ	回転ヘラケズリのち回転ナデ、胴部回転ナデ		良好	堅緻（2㎜の砂礫を含む）	
74－7	58	Ⅷ区A	3		須恵器	坏（身）	1／2	(11.0)	4.7	(7.7)	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		良好	堅緻(0.1～0.2㎜程度の白色砂粒を含む)	
74－8	58	Ⅷ区A	3		須恵器	皿	1／2	(14.3)	2.6	(10.0)	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラおこしのちナデ	底面はいびつ、中央部に工具痕あり	良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒を含む）	
74－9	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高台付坏	1／5	(17.9)	5.8	(13.3)	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのち回転ナデ		良好	堅緻(0.1～0.2㎜程度の白色砂粒を含む)	
74－10	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高台付皿	1／2	(18.0)	3.9	(13.0)	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデ、底面ナデ	ヨコナデ、回転糸切り		やや不良	堅緻（0.1㎜以下の白色微砂粒を少し含む）	
74－11	58	Ⅷ区A	3		須恵器	短頸壺	1／2	－	－	6.7	(12.7)	(内)青灰色 (外)青灰色	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ		良好	堅緻（0.5～1.0㎜程度の白色砂粒を多く含む）	
74－12	58	Ⅷ区A	3		須恵器	短頸壺	1／5	(10.4)	－	－	(16.0)	(内)灰色 (外)暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	堅緻（0.2㎜程度の白色砂粒と黒色砂粒を含む）	口縁部周辺に自然釉付着
74－13	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高坏	1／2（脚部）	－	－	(13.3)	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデ	回転ナデ	2段の三角形3方透し	やや不良	0.1㎜以下の黒色砂粒を含む	
74－14	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高坏	1／2（脚部）	－	－	10.3	－	(内)淡褐灰色 (外)淡褐灰色	回転ナデ	回転ナデ	三角形2方透し	やや不良	0.1㎜以下の黒色砂粒を含む	
74－15	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高台付壺	1／10（底部）	－	－	(7.9)	－	(内)赤紫色 (外)暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		良好	堅緻（2～3㎜の白色砂礫をわずかに含む）	内面底部中央に灰付着
74－16	58	Ⅷ区A	3		須恵器	高坏	ほぼ完形（1／1）	18.4	9.0	10.3	－	(内)灰色 (外)暗灰色	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	脚部に2方透かし（切り込みのみ）	良好	3㎜大の白色砂礫をわずかに含む	
75－1	59	Ⅷ区A	3		土師器	坏	ほぼ完形（1／1）	13.4	5.4	－	－	(内)橙灰色 (外)橙灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ		やや不良	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
75－2	58	Ⅷ区A	3		土師器	坏	1／4	(12.8)	(4.1)	－	－	(内)黒灰色 (外)淡灰色	ナデ	ナデ、ケズリ		不良	0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
75－3	59	Ⅷ区A	3		土師器	赤彩坏	2／3	14.2	4.3	－	－	(内)灰色 (外)灰色	丁寧なナデ（ミガキ）	ナデ、底部静止、ヘラケズリのちナデ(手持ち)		良好	0.1㎜程度の白色砂粒を含む	内面の50%にスス付着、外面に赤色顔料塗布
75－4	59	Ⅷ区A	3		土師器	手捏土器	2／3	3.1	－	－	－	(内)淡橙色 (外)淡橙色	ナデ	ナデ		良好	0.1～0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
75－5	59	Ⅷ区A	3		土師器	手捏土器	完形（1／1）	4.2	3.7	－	5.4	(内)灰白色 (外)灰白色	ナデ	ナデ		やや不良	0.1㎜以下の砂粒を含む	
75－6	59	Ⅷ区A	3		土師器	手捏土器	3／4以上	6.0	7.9	－	－	(内)灰色 (外)灰色	ナデ	ナデ		やや不良	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	
75－7	59	Ⅷ区A	3		土師器	赤彩高坏	1／2（上半部）	16.4	－	－	－	(内)淡赤褐色 (外)淡赤褐色	ミガキ	ハケメ、ナデ		良好	1㎜程度の白色砂礫をやや多く含む	外面に赤色顔料塗布
75－8	59	Ⅷ区A	3		土師器	皿	1／3	10.4	2.9	4.4	－	(内)淡灰白色 (外)淡灰白色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		やや不良	0.1㎜程度の砂粒を含む	
75－9	59	Ⅷ区A	3		土師器	皿	完形（1／1）	10.8	3.1	4.8	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	5㎜程度の砂礫をわずかに含む	
75－10	58	Ⅷ区A	3		須恵器	皿	1／2	14.8	2.5	8.6	－	(内)青灰色 (外)青灰色	ヨコナデ、ナデ	回転ナデのちナデ、底部回転糸切り		良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒を含む）	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
75－11	59	Ⅷ区A	3		土師器	柱状高台皿	完存(柱状高台部)	－	－	4.5	－	(内)灰色 (外)灰色	ナデ	ナデ、底部糸切り	柱状部の内面中央に径3㎜深さ8㎜の穿孔	良好	0.1㎜程度の砂粒目立つ	
75－12	59	Ⅷ区A	3		土師器	竈	1／10	－	－	－	－	(内)褐色 (外)暗褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ		良好	0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	底部内面にススが付着
75－13	58	Ⅷ区A	3		土師器	甑	1／10	－	－	(12.0)	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ヨコナデ	指ナデ（縦方向）		良好	1～2㎜程度の砂礫目立つ	
75－14	58	Ⅷ区A	3		土師器	高坏	1／4(脚部)	－	－	(14.3)	－	(内)明橙淡色 (外)明橙淡色	ナデ	ナデ		不良	0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
75－15	58	Ⅷ区A	3		土製品	土製支脚	1／10	－	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデ	－	爪痕顕著　突起あり	不良	0.1㎜以下の砂粒を含む	
75－16	58	Ⅷ区A	3		土製品	土製支脚	2／3	－	－	－	－	(内)淡赤褐色 (外)淡赤褐色	－	ナデ	穿孔あり	良好	1～3㎜の白色砂粒を多く含む	
75－17	58	Ⅷ区A	3		土製品	土製支脚	1／2	－	－	－	－	(内)淡赤褐色 (外)淡赤褐色	ナデ	ナデ	背面に穿孔（貫通せず）	良好	1～3㎜程度の白色砂礫を多く含む	
76－1	59	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／2	16.2	－	－	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙色	ケズリ	ハケメ		不良	0.5～1㎜程度の白色砂粒を含む	
76－2	59	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／5(口縁部)	(18.0)	－	－	－	(内)炭褐灰色 (外)炭褐灰色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		良好	2㎜程度の砂礫目立つ	
76－3	59	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／4(口縁部)	(25.0)	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	胴部ケズリ	胴部ハケメ		やや不良	1㎜程度の砂礫目立つ	
76－4	60	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／5(口縁部)	(27.9)	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ケズリ、ナデ	ナデ		良好	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	外面胴部にススが付着
76－5	60	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／3(口縁部)	(30.6)	－	－	－	(内)暗黄褐色 (外)暗褐色	ケズリ	ハケメ、ナデ		良好	1㎜程度の砂礫を含む	
76－6	60	Ⅷ区A	3		土師器	甕	1／4(口縁部)	31.0	－	－	－	(内)淡橙灰色 (外)橙灰色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		良好	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
77－1	60	Ⅷ区A	3		須恵器	横瓶	1／3	(12.6)	－	－	(39.2)	(内)淡青灰色 (外)淡青灰色	タタキ、ナデ	タタキ、カキ目、ナデ	胴部に他の個体の一部が付着、内外面にあて具痕跡	良好	0.5㎜程度の黒色砂粒を多く含む	
77－2	60	Ⅷ区A	3		須恵器	横瓶	1／10以下	－	－	－	－	(内)灰色 (外)灰色	ナデ	ナデ		良好	密	
77－3	60	Ⅷ区A	3		須恵器	壺か甕	(口縁部)	12.3	－	－	－	(内)灰色 (外)灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ		良好	堅緻	
77－4	60	Ⅷ区A	3		須恵器	壺か甕	(口縁部)	18.4	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	回転ナデ	回転ナデ		良好	堅緻（0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を含む）	口縁外面に自然釉付着
78－1	60、61	Ⅷ区A	3		須恵器	壺か甕	1／10以下	－	－	－	－	(内)暗灰色 (外)暗灰色	タタキ	タタキ	内外面にあて具痕跡	良好	密（微細な砂粒）	
78－2	60、61	Ⅷ区A	3		須恵器	壺か甕	1／10以下	－	－	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	タタキ	タタキ	内外面にあて具痕跡	良好	0.1㎜程度の砂粒をわずかに含む	
78－3	60、61	Ⅷ区A	3		須恵器	壺か甕	1／10以下	－	－	－	－	(内)灰色 (外)灰色	タタキ	タタキ	内外面にあて具痕跡	やや不良	密（0.2㎜程度の砂粒をわずかに含む）	
78－4	60、61	Ⅷ区A	3		須恵器	壺か甕	1／10以下	－	－	－	－	(内)青灰色 (外)暗灰色	タタキ	タタキ	内外面にあて具痕跡	良好	0.5～1㎜の砂粒を多く含む	
79－1	61	Ⅷ区B	3		須恵器	蓋	3／5	13.3	4.6	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	ナデ、ヨコナデ	回転ヘラケズリ　回転ナデ		良好	堅緻(0.1～1㎜程度の白色砂粒を含む)	
79－2	61	Ⅷ区B	3		須恵器	坏（身）	4／5	12.4	4.1	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ		良好	堅緻（0.2㎜程度の白色砂粒を含む）	外面に灰が付着
79－3	61	Ⅷ区B	3		須恵器	蓋	完形（1／1）	9.2	2.7	－	－	(内)青灰色 (外)灰色	ヨコナデ、ナデ	不明		良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒を含む）	外面の全面に灰（自然釉）付着
79－4	61	Ⅷ区B	3		須恵器	蓋	4／5	13.0	2.3	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、不明		良好	堅緻（0.1㎜程度の白色砂粒を含む）	外面に灰（自然釉）多量に付着
79－5	61	Ⅷ区B	3		須恵器	高台付坏	4／5	12.4	4.9	6.4	－	(内)灰赤褐色 (外)灰赤褐色	回転ナデ、一部不整方向のナデ	底部回転ヘラケズリのち回転ナデ		良好	堅緻(0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む)	
79－6	61	Ⅷ区B	3		須恵器	高台付坏	1／3	(15.4)	5.1	(7.6)	－	(内)暗青灰色 (外)暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラケズリのち回転ナデ		良好	堅緻(0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む)	
79－7	61	Ⅷ区B	3		須恵器	坏（身）	1／2	(12.5)	4.4	(7.8)	－	(内)青灰色 (外)暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	堅緻（0.1～0.5㎜程度の白色砂粒含む）	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
79－8	61	Ⅷ区B	3		須恵器	坏（身）	完形（1／1）	13.4	4.7	8.8	－	(内)黒灰色 (外)黒灰色 ※内外面ともに口縁部褐色	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	堅緻（0.1mm程度の白色砂粒を多く含む）	
79－9	62	Ⅷ区B	3		須恵器	高台付坏	4／5	(15.5)	4.2	11.0	－	(内)灰褐色 (外)灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部静止糸切り		良好	堅緻（0.1～0.2mm程度の白色砂粒を多く含む）	
79－10	62	Ⅷ区B	3		須恵器	高坏	1／2（脚部）	－	－	(9.2)	－	(内)青灰色 (外)青灰色	ナデ、回転ナデ	回転ナデ	脚部中央部にヘラ状工具による平行沈線	良好	堅緻（0.2mm程度の白色砂粒を多く含む）	
79－11	61	Ⅷ区B	3		須恵器	坏（身）	1／2	(13.0)	4.3	(6.8)	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		不良	堅緻（0.1mm以下の微細な白色砂粒を多く含む）	
79－12	62	Ⅷ区B	3		須恵器	高台付皿	1／2	(16.5)	3.7	(12.2)	－	(内)淡青灰色 (外)淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	堅緻（0.1mm以下の白色砂粒を含む）	
79－13	62	Ⅷ区B	3		須恵器	短頸壺	1／8（口縁部）	(9.8)	－	－	15.2	(内)暗青灰色 (外)暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	堅緻(0.1mm程度の白色・黒色砂粒を多く含む)	外面に灰付着
79－14	62	Ⅷ区B	3		須恵器	直口壺	1／4（口縁部）	7.4	－	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ	回転ナデ	外面にヘラ状工具による平行沈線	良好	堅緻	内面に灰付着
79－15	62	Ⅷ区B	3		須恵器	直口壺	1／2（口縁部）	(10.3)	－	－	－	(内)淡青灰色 (外)淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	堅緻（0.2mm程度の白色砂粒を含む）	内外面に灰付着
79－16	62	Ⅷ区B	3		須恵器	壺か甕	1／3（口縁部）	(22.2)	－	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色 ※灰部分クリーム色～緑色	回転ナデ、タタキ	回転ナデ、タタキ		良好	堅緻（0.1～0.2mm程度の白色・黒色砂粒を含む）	外面胴部に自然釉付着
79－17	62	Ⅷ区B	3		須恵器	円面硯	1／10	－	－	(19.6)	－	(内)青灰色 (外)暗青灰色	ナデ	ナデ	方形透かし孔2箇所以上ヘラ状工具による刺突文	良好	密	
79－18	62	Ⅷ区B	3		須恵器	台付壺	1／4（高台部）	－	－	13.5	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	堅緻（0.1mm程度の微細な砂粒を多く含む）	
80－1	63	Ⅷ区B	3		土師器	蓋	1／2	(15.1)	2.6	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	1～2mmの白色砂礫を少量含む	
80－2	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩椀	1／2	(16.0)	(5.9)	－	－	(内)橙色 (外)橙色	ナデ	ナデ、一部ハケメ、底部ヘラケズリ		良好	密（0.1mm以下の赤色砂粒をわずかに含む）	
80－3	63	Ⅷ区B	3		土師器	小型の甕	4／5	(11.6)	8.5	(10.0)	－	(内)淡赤褐色 (外)淡黒灰色	ナデ、ケズリ	ナデ		やや不良	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	外面にスス多量付着
80－4	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩坏	1／2	(12.6)	(4.1)	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	密（0.1～2mm程度の砂粒を少量含む）	内外面ともに赤橙色顔料塗布
80－5	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩皿	1／4	(14.0)	1.7	－	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	回転ナデ	回転ナデ、静止ヘラケズリのち一部ナデ		良好	密（0.1～0.2mm程度の白色砂粒を含む）	内外面ともに橙色顔料塗布
80－6	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩坏	3／4	11.6	3.8	7.6	－	(内)淡明橙白色 (外)淡明橙白色	回転ナデ	回転ナデ、底部静止ヘラ起こしのち一部ナデ		良好	密（1mm程度の砂礫をわずかに含む）	内外面ともに明橙褐色漆塗り
80－7	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩皿	1／2	(13.5)	2.0	(10.0)	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、底部静止ヘラケズリ（ヘラ起こし）		良好	0.1～0.2mm程度の白色砂粒を含む	内外面ともに橙色顔料塗布
80－8	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩皿	1／8	(17.1)	2.6	(12.8)	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	回転ナデ	回転ナデ、底部静止ヘラケズリ		良好	密	内外面ともに明橙色顔料塗布
80－9	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩皿	1／2	(14.5)	(3.0)	－	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ、底部静止ヘラケズリ		良好	密	
80－10	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩高台付皿	1／10	14.8	2.4	10.0	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	ナデ		良好	密	内外面ともに赤橙色顔料塗布
80－11	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩壺	1／2（底部）	－	－	(9.0)	－	(内)灰色 (外)灰色	ナデ	ナデ		良好	0.1mm程度の白色砂粒を含む	内外面ともに赤橙色顔料塗布
80－12	63	Ⅷ区B	3		土師器	赤彩高台付坏	1／10	(17.0)	(4.9)	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	0.1～0.2mm程度の白色砂粒を含む	内外面ともに橙色顔料塗布
80－13	63	Ⅷ区B	3		土師器	焼塩壺	1／10	(8.6)	－	－	－	(内)淡褐白色 (外)淡褐白色	ナデ	ナデ		やや不良	0.1～1.0mm程度の砂粒を多く含む	
80－14	63	Ⅷ区B	3		土師器	焼塩壺	1／10	10.6	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ		やや不良	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
80－15	63	Ⅷ区B	3		土師器	甕	1／2（上部）	(19.3)	－	－	(25.7)	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ヘラケズリ、一部指押し	ナデ、ハケメ(方向は整合性なし)		良好	1～2mm程度の砂礫をやや多く含む	外面口縁と胴部にスス付着
80－16	63	Ⅷ区B	3		土師器	甑	1／10以下	－	－	14.9	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデ		良好	密（0.1mm程度の砂粒を含む）	
80－17	63	Ⅷ区B	3		土製品	土製支脚	2／3	－	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ナデ	ナデ	背面に突起あり	良好	0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種　類	器　種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎　土	備　考
81－1	64	Ⅷ区C	3		須恵器	蓋	4／5	(14.8)	3.8	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデのちナデ	ナデ、回転ヘラケズリ		良好	0.1mm程度の白色砂粒を含む	
81－2	64	Ⅷ区C	3		須恵器	蓋	1／3	(9.8)	3.9	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		良好	0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	外面口縁部付近に灰付着
81－3	64	Ⅷ区C	3		須恵器	蓋	1／2	(16.5)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ヨコナデ	回転ヘラケズリのちナデ、回転ナデ		不良	0.1mm～1mm程度の白色砂粒を多く含む	
81－4	64	Ⅷ区C	3		須恵器	高台付坏	2／3	(13.0)	5.3	9.0	－	(内)淡青灰色 (外)淡青灰色	回転ナデ、ナデ	ヨコナデ、底部回転糸切り		良好	0.1mm～0.5mm程度の白色砂粒を含む	
81－5	64	Ⅷ区C	3		須恵器	皿	1／2	(13.5)	2.2	(10.0)	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ	ナデ、底部回転糸切りのちナデ、周辺部にヘラ起こし痕		良好	0.1mm程度の白色砂粒を多く含む	
81－6	64	Ⅷ区C	3		須恵器	皿	4／5	(14.9)	2.3	(10.0)	－	(内)青灰色 (外)青灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	堅緻(0.1mm程度の白色砂粒を多く含む)	
81－7	65	Ⅷ区C	3		須恵器	高台付坏	1／10	－	－	(9.2)	－	(内)灰白色 (外)暗灰色	回転ナデ	回転ナデ		やや不良	1mm程度の黒色砂礫を含む	
81－8	64	Ⅷ区C	3		土師器	坏	ほぼ完形(1／1)	14.5	5.6	－	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄褐灰色	ナデ、一部ミガキ	ケズリのちナデ		やや不良	0.1mm～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
81－9	64	Ⅷ区C	3		須恵器	皿	4／5	12.8	2.1	8.0	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、底部回転糸切りのち縁辺ナデ		不良	密	
81－10	64	Ⅷ区C	3		須恵器	坏	1／3(口縁部)	13.1	4.3	(8.5)	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、底部縁辺にヘラ起こし痕		やや不良	堅緻	
81－11	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩皿	ほぼ完形(1／1)	12.8	3.2	10.2	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、底部静止ケズリ		良好	密	内外面ともに淡橙色顔料塗布
81－12	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩坏	1／4	(12.6)	－	－	－	(内)淡灰色 (外)淡灰色	回転ナデ	回転ナデ		良好	密	内外面ともに淡橙色顔料塗布
81－13	65	Ⅷ区C	3		土師器	皿	1／4	(13.8)	2.3	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ		やや不良	密	
81－14	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩皿	ほぼ完形(1／1)	14.0	2.9	11.7	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ、一部ミガキか	回転ナデ、底部静止ヘラ起こしのち不整方向のヘラケズリ		良好	密（1mm程度の砂礫をわずかに含む）	内外面ともに淡橙色顔料塗布
81－15	65	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩坏	1／4	12.6	3.5	(6.2)	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部静止ヘラケズリ		良好	密（0.1mm程度の白色砂粒を含む）	内外面ともに橙色顔料塗布
81－16	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩椀	4／5	14.2	3.8	(7.8)	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ	ナデ、ヘラケズリ、底部不整方向のヘラケズリ		良好	2mm程度の白色砂礫を含む	内外面ともに赤茶褐色顔料塗布
81－17	64	Ⅷ区C	3		土師器	坏	1／3	(14.7)	2.9	(12.1)	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、静止ケズリ、底部不整方向の静止ケズリ		良好	密	内外面ともに淡橙色顔料塗布
81－18	65	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩坏	1／2	(12.0)	3.7	(7.2)	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	回転ナデ	回転ナデ、底部ケズリのちナデ		良好	密	内外面ともに赤橙色顔料塗布
81－19	65	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩椀	1／2	14.4	5.5	10.6	－	(内)淡橙白色 (外)淡橙白色	ナデ	回転ナデ、底部不整方向の静止ヘラケズリ		良好	密	内外面ともに赤橙色顔料塗布
81－20	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩皿	1／4	17.0	3.6	(13.5)	－	(内)灰白色 (外)灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ、底部不整方向のケズリ		良好	密	内外面ともに明赤褐色顔料塗布
81－21	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩坏	1／2	(13.1)	3.8	7.2	－	(内)橙褐色 (外)橙褐色	回転ナデ	回転ナデ、底部静止ヘラ起こし痕		良好	0.1mm程度の金雲母を含む	内外面ともに橙赤色顔料塗布
81－22	65	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩坏	1／2	(13.0)	4.1	(6.6)	－	(内)灰色 (外)灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	1～2mmの白色砂礫を含む	
81－23	64	Ⅷ区C	3		土師器	赤彩坏	4／5	11.9	3.6	6.7	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ起こし、静止ヘラケズリ		良好	密	内外面ともに橙色顔料塗布
81－24	64	Ⅷ区C	3		土師器	高台付坏	2／3	13.4	3.7	7.5	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ミガキ、丁寧なナデ	ナデ		やや不良	0.5～1mm程度の砂礫を少し含む	内面にスス付着、内黒の土器
81－25	64	Ⅷ区C	3		土師器	皿	4／5	10.9	2.5	4.4	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		やや不良	密	
81－26	64	Ⅷ区C	3		土師器	皿	ほぼ完形(1／1)	9.7	2.5	5.5	－	(内)淡灰橙白色 (外)淡灰黄白色	回転ナデ	ナデ、底部回転糸切り		良好	密	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
81－27	64	Ⅷ区C	3		土師器	坏	2／3	11.5	3.7	5.3	－	(内)黄灰色 (外)黄灰色	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切り		良好	0.1～1㎜程度の白色砂粒を含む、5㎜程度の白色砂礫をわずかに含む	内外面ともに赤橙色顔料塗布
81－28	65	Ⅷ区C	3		土師器	柱状高台坏	1／2 (柱状高台部)	－	－	4.4	－	(内)灰色 (外)灰色	ナデ	ナデ、底部糸切り		やや不良	0.1㎜程度の黒色砂粒目立つ	
82－1	65	Ⅷ区C	3		須恵器	横瓶	1／3以下	－	－	－	－	(内)灰色 (外)灰色	タタキ	タタキ、ナデ		良好	密（0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む）	
82－2	65	Ⅷ区C	3		須恵器	甕	1／10以下	－	－	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	タタキ、あて具痕	タタキ		良好	密	
82－3	65	Ⅷ区C	3		須恵器	甕	1／10以下	－	－	－	－	(内)青灰色 (外)青灰色	タタキ、あて具痕	タタキ		良好	密	
83－1	66	Ⅷ区C	3		土製品	土製支脚 (ミニチュア)	1／2	－	(10.5)	－	－	(内)暗橙褐色 (外)淡橙褐色	ナデ	ナデ	背面に穿孔あり（貫通せず）	良好		
83－2	66	Ⅷ区C	3		土製品	土製支脚 (ミニチュア)	1／2以下	－	－	7.2	－	(内)灰色 (外)暗灰色	ナデ	ナデ	突起あり	良好		
84－1	68	Ⅷ区 B・C	4		弥生土器	甕	1／2 (口縁部)	(28.6)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)暗黄褐色	ナデ～ケズリ	ナデ	口縁部に5条の凹線文のちナデ	良好	0.1㎜程度の白色砂粒を含む	
84－2	68	Ⅷ区B	4		(弥生土器)	小型丸底(直口)壺	1／2	－	－	－	9.2	(内)淡灰白色 (外)灰白色	ナデ	ナデ、ハケメ		やや不良	密	
84－3	68	Ⅷ区B	4		土師器	小型丸底(直口)壺	ほぼ完形 (1／1)	8.4	8.7	－	9.3	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ、ハケメ		良好	密	外面にスス付着
84－4	68	Ⅷ区B	4		土師器	小型丸底(直口)壺	ほぼ完形 (1／1)	9.5	8.1	－	(9.0)	(内)暗褐色 (外)暗褐色	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		良好	密（0.1㎜以下の微砂粒を含む）	外面にスス付着
84－5	68	Ⅷ区B	4		古式土師器	小型丸底(直口)壺	2／3	(10.0)	9.2	－	(10.5)	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	口縁部ヨコナデ、胴部雑な指ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	胴部に焼成のち穿孔1つあり	良好		外面胴部にスス付着
84－6	68	Ⅷ区	4		弥生土器	甕	1／4	19.0	－	－	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部上半部に凹線文をナデ消している	やや不良	0.5～1㎜程度の白色砂粒を含む	
84－7	68	Ⅷ区B	4		土師器	高坏	2／3	(14.7)	10.7	10.0	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ、ミガキ、ハケメ		良好	密	
84－8	68	Ⅷ区C	4		土師器	甕	1／4 (口縁部)	(19.4)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ、ケズリ	口縁部ナデ、胴部上半ハケメのち一部ナデ		良好	0.1㎜程度の白色砂粒目立つ	
84－9	68	Ⅷ区A	4		土師器	甕	1／6 (口縁部)	(21.2)	－	－	－	(内)淡橙茶褐色 (外)淡橙茶褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		良好		外面にスス付着
84－10	68	Ⅷ区C	4		土師器	坏	1／4	(12.2)	(2.9)	－	－	(内)灰橙褐色 (外)灰橙褐色	ナデ	ナデ		良好	0.1㎜程度の砂粒を含む	内面にスス付着
84－11	68	Ⅷ区A	4		土師器	高台付壺	完存 (高台部)	－	－	11.4	－	(内)灰色 (外)灰色 ※橙色顔料塗布	ケズリ	ハケメ～ナデ		良好	1㎜程度の砂礫を多く含む	
85－1	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	短頸壺	1／6 (口縁部)	(9.2)	－	－	－	(内)淡黒色 (外)黒色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ		良好	3㎜前後の白色砂礫を多く含む	
85－2	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	甕	1／6 (口縁部)	(21.2)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ、ハケメ		やや不良	0.1㎜程度の砂粒を多く含む	
85－3	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	無頸壺	1／10 (口縁部)	(14.8)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黒灰色	ナデ	ナデ	口縁端部に斜状刻目文、口縁下端に3条の貼付凸線、斜状刻目文	やや不良	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
85－4	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	甕	1／5 (上半部)	23.8	－	－	(25.0)	(内)淡黄灰色 (外)暗黄灰色	ナデ	ナデ、ハケメ（かなり摩滅している）	胴部に櫛状工具による列点文	良好	1㎜以下の砂粒をやや多く含む	外面にスス付着
85－5	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	直口壺	1／4	17.0	－	－	－	(内)淡暗赤褐色 (外)淡暗褐色	摩滅により不明	摩滅により不明	口縁端部に斜状刻目文	不良	0.1～0.5㎜程度の白色砂粒目立つ	
85－6	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	甕	1／6 (口縁部)	(20.4)	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	くの字口縁、口縁部に1条の凹線文	良好	0.1㎜程度の砂粒を含む	
85－7	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	高坏	1／3 (脚部)	－	－	(16.0)	－	(内)暗褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ、ヘラケズリ	ナデ、ナデのちミガキ、底部付近ナデ	底縁部に刻目文	良好	0.2㎜程度の砂粒を多く含む	
85－8	67	Ⅷ区B	4		弥生土器	甕	1／4 (口縁部)	(18.3)	－	－	－	(内)淡灰黄色 (外)淡灰黄色	ナデ	ナデ、ハケメ	くの字口縁	やや不良	0.1㎜程度の白色砂粒を含む	
85－9	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	高坏	1／2 (坏部)	(22.4)	－	－	－	(内)暗灰色 (外)暗桃灰色	ミガキ、ハケメ	ミガキ、ハケメ		不良		
85－10	67	Ⅷ区A	4		弥生土器	壺	1／2 (底部)	－	－	8.0	19.9	(内)暗黄灰色 (外)暗桃灰色	ハケメ、ケズリ	ハケメ、ミガキ	胴部に木口による斜状刺突列点文	やや不良	密	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
85－11	67	Ⅷ区Ａ	4		弥生土器	土製円盤(紡錘車未製品)	完形(1／1)	－	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ	ハケメ	甕胴部片を円形に成形	良好	1㎜以下の砂粒をやや多く含む	
85－12	67	Ⅷ区Ｂ	4		弥生土器	土製円盤(紡錘車)	完形(1／1)	－	－	－	－	(内)暗灰色 (外)暗桃灰色			甕胴部片を円形に成形、中央部に穿孔	良好	0.5㎜程度の砂粒を含む	
85－13	67	Ⅷ区	4		弥生土器	土製円盤(紡錘車)	完形(1／1)	－	－	－	－	(内)淡紫灰褐色 (外)淡黄灰白色			甕胴部片を円形に成形、中央部に穿孔	良好	0.1㎜程度の白色砂粒を含む	
94－1	69	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０１	弥生土器	甕	3／4(口縁部)	20.0	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ、ハケメ		良好	密	
94－2	69	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０１	弥生土器	甕	1／2(底部)	－	－	(5.4)	－	(内)暗赤褐色 (外)暗赤褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ		やや不良	0.5㎜程度の砂粒を含む	底部充填
94－3	69	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０１	弥生土器	広口壺	1／3(口縁部)	32.4	－	－	－	(内)淡黒灰色 (外)淡黄白色	ナデ	ナデ	口縁部に斜格子文、斜状刻目文、頸部に現状５条の貼付突帯文	不良	0.5㎜程度の白色砂粒を含む	
94－4	69	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０２	弥生土器	甕	4／5	16.9	29.8	6.4	23.8	(内)淡乳白色 (外)淡黄褐色 ※一部紅褐色	下部ケズリ、上部ケズリのちハケメ、ナデ	下部ミガキ、上部ナデ、ハケメ	(胴部) 木口を用いる刺突文、肩部付近に焼成前穿孔１つ（口縁）３本の凹線文のちナデ	良好	2㎜大の石英粒、微細長石を少し含む	外面胴部に有黒斑
94－5	69	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０２	弥生土器	高坏	1／10(口縁部)	(32.2)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)淡黄褐色	ハケメのちミガキ	ハケメのちミガキ	口縁部上端に格子文	良好	1㎜程度の砂粒を多く含む	
94－6	69	Ⅷ区		ＳＸ０３	弥生土器	甕	1／4(口縁部)	(17.4)	－	－	－	(内)淡褐灰色 (外)淡黄灰褐色	ミガキ、ナデ	ハケメ、一部ミガキ、ナデ		やや不良	1～2㎜程度の白色砂粒を少し含む	
94－7	69	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０３	弥生土器	壺	1／3(底部)	－	－	(7.0)	－	(内)淡灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ミガキのちナデ		良好	0.5㎜程度の砂粒目立つ	
94－8	69	Ⅷ区		ＳＸ０４	弥生土器	高坏	1／10(口縁部)	(26.0)	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ、ミガキ	ナデ	口縁端部に刻目文	不良	密	
94－9	69	Ⅷ区		ＳＸ０４	弥生土器	壺	1／4(口縁部)	27.0	－	－	－	(内)明茶褐色 (外)明茶褐色	ミガキ	ミガキ、ナデ、ハケメ		良好	0.5㎜程度の白色砂粒目立つ	
94－10	69	Ⅷ区		ＳＸ０４	弥生土器	甕	1／2(底部)	－	－	9.6	－	(内)黄白灰色 (外)淡橙白灰色	ナデ	ミガキ、底部ミガキのちナデ		不良	0.5㎜～1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
95－1	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／3(口縁部)	(12.1)	－	－	－	(内)淡褐灰色 (外)淡褐灰色	ナデ	ナデ	口縁部に刻目文	良好	1㎜程度の白色砂礫をやや多く含む	
95－2	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／10(口縁部)	22.0	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ	口縁端部に山形斜状文、同上面に斜格子文、現状で３つの焼成前穿孔がある	やや不良	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
95－3	70	Ⅷ区		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／10(口縁部)	(34.6)	－	－	－	(内)淡黄褐灰色 (外)淡黄褐灰色	ナデ	ナデ	口縁端部に山形斜格子文、同上面に斜格子文と円形浮文	良好	0.1㎜程度の白色砂粒を含む	一部に赤色顔料塗布
95－4	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／3(口縁部)	(22.3)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡褐色	ハケメ、ミガキ	ハケメ		良好	0.1～0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
95－5	70	Ⅷ区		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／6(口縁部)	(16.7)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		良好	密（0.1㎜以下の砂粒を多く含む）	
95－6	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／4(口縁部)	(16.6)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部強いナデのため、一条の凹線文があるように見える	良好	0.1㎜程度の砂粒を含む	
95－7	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／3(口縁部)	(17.5)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に３条の凹線文、頸部に貼付突帯文、指でつまんだ単圧明瞭	不良	0.5㎜程度の砂粒を含む	
95－8	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	高台付鉢	完形(1／1)	18.2	(高)9.3 (低)8.3	8.0	16.0	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメのちナデ、ナデ	タテミガキのちヨコミガキのちタテ方向への強いナデ、口縁と底部はナデ	口縁部外側に凹線文（かなり摩滅している）	良好	1～2㎜程度の砂礫を多量に含む	
95－9	70	Ⅷ区		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／10(口縁部)	(27.4)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡灰白色	ハケメ	ナデ	口縁部に１条の凹線文のち刻目文	良好		
95－10	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／2(底部)	－	－	(4.4)	－	(内)褐色 (外)褐色	ナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		良好	0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	
95－11	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／8(底部)	－	－	(6.8)	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		やや不良	密（0.5㎜程度の砂粒を少量含む）	
95－12	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／2(底部)	－	－	(9.8)	－	(内)黄褐色 (外)暗黄褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		良好	0.5㎜程度の砂粒を含む	
95－13	70	Ⅷ区		ＳＸ０５	弥生土器	壺	完存(底部)	－	－	6.4	－	(内)黄灰色 (外)黄灰色	指ナデ痕、ハケメ	ミガキ		やや不良	0.1㎜程度の金雲母を含む	
95－14	70	Ⅷ区Ａ		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／2(底部)	－	－	12.0	－	(内)淡橙灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、(ミガキ)、摩滅のため不明		やや不良	1㎜程度の白色の砂礫を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種　類	器　種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎　土	備　考
96－1	71	Ⅷ区A		ＳＸ０５	弥生土器	壺	1／2	(29.3)	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡灰白色	ハケメ	ハケメ	口縁部6条の凹線文、それぞれに刻目文、口縁から頸部にかけて、一部棒状の浮文、口縁部下段と頸部に6条、5条の凹帯文、頸部に斜状櫛描文	良好	密（0.1mm～2mmの微砂粒を多く含む）	
96－2	71	Ⅷ区A		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／3	(21.4)	35.5	－	32.0	(内)淡黄灰色 (外)淡黄橙色	ハケメ、ナデ、ヘラミガキ	ハケメ、ヘラミガキ	口縁部に2条の凹線文、頸部に貼付突帯文、胴部に木口による2列の刺突文帯	良好	密（1mm以下の白色砂粒を多く含む）	
96－3	71	Ⅷ区A		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／4	(20.4)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡橙灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に2条の凹線文、頸部に貼付突帯文	良好	0.5mm程度の砂粒を含む	
96－4	71	Ⅷ区A		ＳＸ０５	弥生土器	甕	1／3	(17.8)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に3条の凹線文のち刺突痕、頸部に貼付突帯文、肩部に木口による斜状刺突文	良好	0.5mm程度の白色砂粒を含む	
97－1	71	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	壺	ほぼ完形 (1／1)	12.1	19.8	4.9	18.0	(内)黒色 (外)淡黄灰色	ハケメ、指頭圧痕	ハケメ、ミガキ、ナデ	外面胴部中央に貝殻腹縁による刺突文	不良	0.5mm程度の白色砂粒目立つ	有黒斑
97－2	72	Ⅷ区		ＳＸ０６	弥生土器	壺	ほぼ完形 (1／1)	12.6	21.9	6.0	20.4	(内)淡黄色 (外)淡黄色	タテ方向ハケメ、指頭圧痕（頸部）、ナデ（口縁部）	タテ方向ハケメのちミガキ(下半分)底部付近ミガキのち一部ナデ	口縁部に刻目文、外部胴部中央に貝殻腹縁による刺突文	不良	密（1mm程度の砂礫を多量に含む）	内部粘土継ぎ目あり
97－3	72	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	壺	1／5 (口縁部)	(35.4)	－	－	－	(内)黄色 (外)黄色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に3条の凹線文	良好	0.1mm以下の砂粒を多く含む	
97－4	71	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／2	17.6	－	－	21.3	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ナデのちハケメ、下部ミガキ	胴部に貝殻腹縁による刺突文	やや不良	1～2mmの砂礫を多く含む	外面にスス付着
97－5	71	Ⅷ区		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／2	19.6	－	－	21.3	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ハケメ（口縁部回転ナデ）	胴部に貝殻腹縁による刺突文	良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	外面にスス付着
97－6	72	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	壺	1／10	(19.6)	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡黄灰褐色	ナデ	ハケメ、ナデ	胴部に刺突列点文（部分）	不良	密（0.1mm程度の砂粒を多く含む）	
97－7	73	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／8 (口縁部)	(33.2)	－	－	－	(内)淡黒灰色 (外)淡黄灰褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		やや不良		
97－8	72	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	壺	完存 (底部)	－	－	5.6	－	(内)淡明黄灰色 (外)淡明黄橙灰色	ナデ	ミガキ		不良	0.5mm程度の白色砂粒を多く含む	外面にスス付着
97－9	73	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	(底部)	－	－	(5.4)	－	(内)淡褐色 (外)暗赤橙褐色	ナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		良好		
98－1	72	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／8 (口縁部)	(17.8)	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡黄褐色	ミガキ、ナデ	ハケメ、ナデ		やや不良	密（0.1mm以下の砂粒を含む）	外面にスス少量付着
98－2	73	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	ほぼ完形 (底部欠く)	21.0	－	－	22.6	(内)暗褐色 (外)暗褐色	上部はハケメ、底部はケズリのちミガキ	ハケメ、ナデ、ミガキ	胴部に刺突文	不良	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
98－3	73	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／2	29.0	－	－	35.4	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ	ハケメ、胴部下ミガキ	口縁部に2条の凹線文のちに斜状刻目文、頸部に貼付突帯文（指押しの単位）	良好		
98－4	73	Ⅷ区		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／3	24.8	－	－	26.5	(内)淡黄灰褐色 (外)淡黄灰褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁部に貝殻条痕による刻目文、頸部に貼付突帯文、胴部に2列の貝殻腹縁による斜状刺突文	良好	0.5mm程度の金雲母を含む	
98－5	72	Ⅷ区		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／8	(14.6)	－	－	17.0	(内)褐灰色 (外)褐灰色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ハケメ、ナデ	口縁部に木口による斜状刺突文、胴部2条の列点文	不良	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
98－6	72	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／10 (口縁部)	20.8	－	－	－	(内)褐色 (外)褐色	ナデ	ナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹線文	良好		外面にスス付着
98－7	72	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／4	28.0	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に木口による斜状刺突文、凹線状の強いナデ痕	やや不良		
98－8	73	Ⅷ区A		ＳＸ０６	弥生土器	甕	1／3 (胴部)	－	－	－	(32.4)	(内)淡黄橙色 (外)淡黄橙色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		やや不良	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
99－1	74	Ⅷ区A		ＳＸ０７	弥生土器	甕	1／2	29.8	42.2	8.2	33.0	(内)淡灰乳白色 (外)淡灰乳白色 (破損部暗褐色・黒色)	ハケメ、ナデ	ハケメのちミガキ（底部ミガキのちナデ）	胴部に2列の木口による斜状刺突列点文	不良	0.1～0.5mm程度の砂粒を含む	
99－2	74	Ⅷ区A		ＳＸ０７	弥生土器	甕	1／2	17.2	－	－	19.7	(内)淡灰黄白色 (外)淡灰黄白色	ナデ	ナデ、ハケメ	外面の器壁が剥離している	不良	0.1～5mm程度の大小の白色砂粒目立つ	
99－3	73	Ⅷ区A		ＳＸ０７	弥生土器	甕	1／4	(29.4)	－	－	－	(内)暗灰褐色 (外)暗灰褐色	ヨコナデ	ハケメのちヨコナデ		やや不良	0.1mm程度の白色砂粒を含む	外面にスス付着
99－4	74	Ⅷ区A		ＳＸ０７	弥生土器	甕	1／3 (口縁部)	32.0	－	－	－	(内)灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		やや不良	0.1～0.2mm程度の白色砂粒を含む	外面にスス付着
99－5	74	Ⅷ区A		ＳＸ０７	弥生土器	壺	1／4	29.6	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ミガキ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁端部に山形斜状文、同上面に斜格子文とハケ状工具による刺突列点文	不良	1mm程度の白色砂礫目立つ	外面に赤色顔料塗布

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
99－6	73	Ⅷ区A		SX07	弥生土器	壺	1／4	－	－	－	(34.8)	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ハケメ	ミガキのち一部ナデ	頸部に突帯文のち刻目文、斜状文、肩部に斜状格子文、木口による刺突列点文	やや不良	0.1～1mm程度の白色砂粒目立つ	焼成時破損土器、内外面ともに有黒斑
100－1	74	Ⅷ区		SX08	弥生土器	壺	1／2	(19.2)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄橙灰色	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ	頸部に貼付突帯文	不良	0.5mm程度の白色砂粒を含む	
100－2	75	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	壺	1／2	(13.2)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に木口による刻目文	良好	0.1～1mm程度の白色砂粒を含む	
100－3	74	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	壺	1／10 (口縁部)	(28.0)	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄色	ナデ	ナデ	口縁端部に木口による2列の刺突文	やや不良	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
100－4	74	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	壺	1／3	－	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄褐色	ナデ、指頭圧痕	ハケメ、ナデ	頸部に貼付突帯文、斜状刺突列点文	不良	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
100－5	75	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	壺	1／4	(25.3)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、一箇所ハケメ	ハケメ	口縁部に斜状刻目文、頸部に突線がめぐる	良好	1mm程度の砂礫を多く含む	
100－6	75	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	直口壺	ほぼ完形 (1／1)	8.8	21.3	6.1	18.2	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ミガキ、ナデ	ミガキ	口縁部に焼成前穿孔4、胴部に焼成後穿孔2	良好	密(0.1mm以下の微砂粒を含む)	外面に有黒斑
100－7	75	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	甕	ほぼ完形 (1／1)	11.3	14.2	3.8	10.8	(内)淡桃色 (外)淡桃灰色	ナデ、ナデのちケズリ	ナデ、ミガキ、底部付近ミガキのちナデ	口縁端部に刻目文、胴部に木口による刺突列点文	良好	1mm程度の砂礫を多く含む	外面にスス付着
100－8	75	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	直口壺	2／3	6.0	20.8	6.0	20.7	(内)黒灰褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ、ナデ	ケズリのちミガキ、ナデ	頸部に2条の突線、肩から胴部に沈線(6条×3)、胴部に木口による刺突列点文	不良		
100－9	74	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	甕	1／3	21.4	－	－	－	(内)灰白色 (外)灰白色	ナデ	ナデ、一部にハケメ	口縁部に斜状刻目文	やや不良	0.1mm程度の砂粒が目立つ	
100－10	75	Ⅷ区		SX08	弥生土器	甕	1／2 (口縁部)	22.2	－	－	－	(内)淡黄橙色 (外)淡黄橙色	ミガキ、ナデ	ハケメ、ナデ		良好	0.5mm程度の砂粒を多く含む	
100－11	74	Ⅷ区		SX08	弥生土器	甕	1／4	22.2	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ナデ	ナデ、ハケメ		良好	0.5mm程度の白色砂粒を含む	
101－1	75	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	甕	1／2 (底部)	－	－	(6.8)	－	(内)淡灰褐色 (外)暗褐色	ナデ、ハケメ	ミガキ、底部付近ミガキのちナデ		良好	1mm程度の砂礫を多く含む	
101－2	76	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	甕	1／10 (底部)	－	－	(5.4)	－	(内)褐色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ミガキ		良好	0.1～0.5mm程度の砂礫を多く含む	
101－3	76	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	壺	1／10 (底部)	－	－	(12.2)	－	(内)淡橙灰色 (外)暗橙褐色	剥離のため調整不明	ミガキ		不良	0.2mm程度の白色砂粒を多く含む	
101－4	76	Ⅷ区		SX08	弥生土器	甕	1／3 (底部)	－	－	5.0	－	(内)淡橙灰褐色 (外)淡橙灰褐色	ケズリのちナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		良好	1mm程度の白色砂礫を多く含む	
101－5	76	Ⅷ区A		SX08	弥生土器	高坏	1／4 (脚部)	－	－	15.8	－	(内)淡赤褐色 (外)淡黄灰白色	ケズリ、ハケメ、ナデ	ミガキ、ナデ	脚部裾に刺突文(刻目文)	良好	0.5mm程度の砂粒を含む	
101－6	75	Ⅷ区		SX08	弥生土器	壺	3／4	－	56.5	11.0	40.0	(内)淡黄褐色 (外)淡橙褐色	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	ハケメ、ヘラミガキ、底部付近ナデ	口縁部内面にハケ状工具による刺突列点文、頸部に貼付突帯文、胴部に木口による斜状刺突列点文	やや不良	1mm程度の砂礫を多く含む	外面に黒斑目立つ
102－1	76	Ⅷ区		SX09	弥生土器	甕	1／8	17.6	－	－	－	(内)暗褐灰色 (外)暗褐灰色	ナデ	口縁部ナデ、胴部ハケメ	口縁部に斜状刻目文	やや不良	0.1mm以下の白色砂粒を含む	
102－2	77	Ⅷ区A		SX10	弥生土器	甕	1／3	18.0	－	－	(19.3)	(内)淡黒灰色 (外)橙白色	摩滅著しいため不明	摩滅著しいため不明		不良	1.0mm程度の砂粒を多く含む	
102－3	77	Ⅷ区		SX10	弥生土器	甕	1／3	－	－	5.4	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ミガキ、ナデ		やや不良	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	外面にスス付着
102－4	76	Ⅷ区		SX10	弥生土器	甕	1／2 (底部)	－	－	(5.2)	－	(内)黒褐色 (外)暗赤褐色	ナデ、指頭圧痕	ハケメ、底部付近ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒を多く含む	
102－5	76	Ⅷ区A		SX10	弥生土器	壺	1／4	(27.1)	－	－	－	(内)淡橙褐色 (外)暗橙褐色	ナデ	ナデ	口縁部に刻目文、3条1単位の斜格子文	良好	密(0.5mm前後の砂粒を多く含む)	
102－6	76	Ⅷ区A		SX11	弥生土器	壺	1／4	12.2	－	－	－	(内)淡黒褐色 (外)淡黒褐色	ナデ	ナデ、ハケメ	頸部に穿孔2つ、うち1つは貫通せず	不良	0.1～0.2mmの白色微砂粒を含む	
102－7	76	Ⅷ区A		SX11	弥生土器	甕	1／8 (口縁部)	24.6	－	－	－	(内)暗黄褐色 (外)暗黄褐色	ナデ	ナデ	口縁部に1条の凹線文のち刻目文	不良	0.1mm程度の砂粒を含む	
102－8	76	Ⅷ区A		SX11	弥生土器	甕	1／6 (口縁部)	18.3	－	－	－	(内)淡褐灰色 (外)淡褐灰色	ナデ	ナデ		良好	0.1mm程度の砂粒目立つ	
102－9	76	Ⅷ区A		SX11	弥生土器	無頸壺	1／10	(22.4)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰褐色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁端部に刻目文、頸部に突帯のち刻目文	良好	0.1mm程度の白色砂粒目立つ	
102－10	76	Ⅷ区A		SX12	弥生土器	壺	1／4 (口縁部)	28.4	－	－	－	(内)淡黄白灰色 (外)淡黄白灰色	ナデ	ナデ	口縁部上部に貼付浮文、口縁部に刻目文	やや不良	0.1～0.5mm程度の砂粒を多く含む	
103－1	77	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	広口壺	ほぼ完存 (口縁部)	34.0	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄褐色	ハケメ	ナデ(口縁部)、ハケメ	口縁部に刻目文、9条の断面三角形突帯文	良好	密(微砂粒を多く含む)	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
103－2	77	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	壺	ほぼ完形（1／1）	(9.2)	13.8	6.0	10.7	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ、指頭圧痕（上部）	ナデ（口縁部）、ヘラミガキのちかすかにタテ方向ハケメ、ヨコ方向ナデ	口縁部に刻目文	やや不良	白色微砂粒を多く含む、1㎜程度の砂礫を少し含む	胴部中央部にハート形のスス付着
103－3	77	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	壺	2／3	(10.7)	14.6	5.5	16.1	(内)淡灰オリーブ色 (外)淡灰オリーブ色	ヘラミガキ	ヘラミガキ		良好	2㎜大までの砂礫を含む	外面に大きな黒斑
103－4	77	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	壺	1／3（口縁部）	(17.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄橙色	ヘラミガキ、ナデ（口縁部）	ナデ(口縁部)、ハケメ		やや不良	1～2㎜の砂礫を少量含む	
103－5	77	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	甕	1／2以上	13.2	20.5	4.4	14.9	(内)褐色 (外)黄褐色	ハケメ、ミガキ、ナデ、底部付近ヨコナデ	ハケメのちミガキ、ナデ		良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	外面にスス付着、焼成破裂痕土器
103－6	77	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	バケツ形の土器	ほぼ完形（1／1）	28.2	23.8	19.2	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデのちハケメ(底部)、ハケメ	ナデ(口縁部)、ハケメ、ナデ(底部)		良好	1㎜以下の白色砂粒を多く含む	内外面に有黒斑
103－7	78	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	甕	1／2以下	16.4	－	－	19.3	(内)淡褐灰色 (外)淡褐灰色	ハケメ	ハケメ、ミガキ（底部）		良好	0.1㎜程度の砂粒を多く含む	外面胴部にスス付着
104－1	78	Ⅷ区		SX13	弥生土器	高台付壺	完存（底部）	－	－	9.0	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ（底部）、ハケメのちヘラミガキ	ヘラミガキ、ナデ		良好	1㎜程度の白色砂礫を多く含む、2～3㎜の砂礫をごくわずかに含む	外面に有黒斑
104－2	78	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	高台付壺	完存（高台部）	－	－	7.6	－	(内)淡橙灰色 (外)淡灰褐色	ナデ	ナデ		良好	0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	
104－3	78	Ⅷ区		SX13	弥生土器	高台付壺	完存（高台部）	－	－	8.8	－	(内)淡褐色 (外)淡橙褐色	ナデ	ナデ		良好	0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	
104－4	78	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	高坏	ほぼ完形（1／1）	(26.8)	20.8	14.2	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色 ※部分的に橙色も入る	ヨコ方向ハケメのちヘラミガキ、ナデ（口縁部）、指頭圧痕（脚部）	ナデ（口縁部）、ヘラミガキ、タテ方向ハケメ(脚部)、ハケメ交差(脚部下)	口縁部に刺突文	不良	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
104－5	78	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	壺	3／4（底部）	－	－	(12.4)	－	(内)淡黄色 (外)淡黄褐色	指頭圧痕、ナデ	ナデ、ヘラミガキのちナデ（下部）、ヘラミガキ(上部)、摩滅により不明		やや不良	1㎜以下の砂粒を多く含む	
104－6	78	Ⅷ区B		SX13	弥生土器	甕	ほぼ完存（底部）	－	－	9.0	－	(内)暗灰褐色 (外)淡黄橙灰色	ナデ	ミガキ、ナデ、摩滅により不明		やや不良	0.5～1.0㎜程度の白色砂粒を多く含む	
104－7	78	Ⅷ区		SX14	弥生土器	壺	1／3（胴部）	－	－	－	(34.4)	(内)淡黄灰褐色 (外)淡黄橙色	ミガキ、ナデ	ハケメのちミガキ	肩部に2列の木口による斜状刺突列点文	良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	内外面に黒斑
105－1	79	Ⅷ区B		SX15	弥生土器	壺	1／10	(15.6)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ヘラケズリのちナデ、指頭圧痕、ナデ（口縁部）	ナデ(口縁部)、ハケメ	口縁部に刻目文	良好	密（1㎜程度の砂礫を少量含む）	
105－2	79	Ⅷ区A		SX15	弥生土器	壺	1／10以下（口縁部）	16.2	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ		良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
105－3	79	Ⅷ区A		SX15	弥生土器	壺	1／10（口縁部）	(29.6)	－	－	－	(内)淡橙灰色 (外)淡橙灰色	ナデ	ナデ	口縁部に斜格子状の刻目文、口縁部上面に4条1単位の斜格子文と平行線文	良好	0.1㎜以下の微砂粒を含む	
105－4	79	Ⅷ区B		SX15	弥生土器	広口(長頸)壺	1／6（口縁部）	(16.0)	－	－	－	(内)淡黄橙色 (外)淡黄褐色	ケズリのちナデ	ナデ、ハケメ	口縁部に刻目文、円形浮文、頸部に貼付突帯文	やや不良	白色の微砂粒を多く含む	
105－5	79	Ⅷ区		SX15	弥生土器	鉢	1／4	18.6	－	－	－	(内)黄褐色 (外)淡黄褐色	ハケメ、ナデ	ナデ、ミガキ	口縁端部と頸部に刻目文、断面三角形の突帯文に刻目文	やや不良		
105－6	79	Ⅷ区B		SX15	弥生土器	壺	1／4	(16.0)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄橙褐色	ハケメ、ナデ（口縁部）	ナデ(口縁部)、ハケメ	口縁部に貼付突帯文、斜格子状の刻目文	やや不良	1㎜以下の砂粒を少量含む	
105－7	79	Ⅷ区		SX15	弥生土器	壺	2／3	(12.2)	－	－	(15.1)	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	口縁部ナデ、ヘラミガキのちナデ	口縁部ナデ、ヘラミガキ	頸部に透孔2箇所	やや不良	1㎜以下の砂粒を多く含む	
105－8	79	Ⅷ区		SX15	弥生土器	甕	1／2	20.0	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡橙灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		不良	0.1～0.5㎜程度の砂粒を含む	外面にスス付着
105－9	79	Ⅷ区		SX15	弥生土器	甕	1／4	(19.3)	－	－	(21.2)	(内)淡灰黄色 (外)灰黄色	ハケメ	ハケメのちミガキ	胴部にハケ状工具による刺突列点文	良好	細かい石英・雲母を含む、0.5～1㎜程度の白色砂粒を多く含む	外面口縁部と胴部にスス付着
105－10	79	Ⅷ区B		SX15	弥生土器	甕	1／2（底部）	－	－	(5.8)	－	(内)暗褐色 (外)暗茶褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		良好	2～3㎜の白色砂礫を少し含む	
106－11	80	Ⅷ区B		SX15	弥生土器	壺	1／2	(25.2)	－	－	(27.3)	(内)淡黄灰色 (外)淡黄褐色	ナデ(中央部)、ハケメ(上部)、ナデ(口縁部)	ナデ(口縁部)、ハケメ	頸部に貼付突帯文、胴部貝殻腹縁による刺突列点文	良好	1㎜程度の砂礫を少量含む	
106－12	80	Ⅷ区		SX15	弥生土器	高坏	(脚部)	－	－	(15.2)	－	(内)暗黄橙色 (外)淡黄橙色	ヘラミガキのち下部ハケメ	下部指頭圧痕、上部ナデ		良好	1～2㎜の砂礫を多く含む	外面下部にスス付着

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
106－13	80	Ⅷ区		ＳＸ１５	弥生土器	甕	１／３	－	－	－	(28.0)	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ミガキ	ミガキ		良好	0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	スス付着、明瞭なふきこぼれ痕跡
107－１	80	Ⅷ区Ａ		ＳＸ１６	弥生土器	甕	１／２	－	－	－	(38.6)	(内)淡黄白色 (外)淡黄色	ハケメ	ハケメのちミガキ		やや不良	0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	外面に有黒斑
107－２	81	Ⅷ区		ＳＸ１６	弥生土器	(高台付) 甕	２／３ (脚部)	－	－	(5.4)	－	(内)淡黒色 (外)暗橙褐色	ミガキ、ナデ	ナデ		不良	１㎜程度の白色砂礫を多く含む	
107－３	81	Ⅷ区Ａ		ＳＸ１６	弥生土器	甕	２／３ (底部)	－	－	(3.2)	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ハケメ、ナデ		良好	３㎜程度の砂礫を多く含む	底部のナデが強く粗雑
107－４	81	Ⅷ区Ａ		ＳＸ１６	弥生土器	甕	完存 (底部)	－	－	5.9	－	(内)暗黄色 (外)暗黄灰色	ナデ	ナデ		良好	0.5㎜以下の微砂粒を多く含む	底部外面にスス付着
107－５	81	Ⅷ区Ａ		ＳＸ１６	弥生土器	甕	１／４ (底部)	－	－	(10.8)	－	(内)褐色 (外)黄褐色	ハケメ、ナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ		不良	0.5～１㎜程度の白色砂粒を多く含む	
107－６	80	Ⅷ区Ａ		ＳＸ１６	弥生土器	壺	１／４ (口縁部)	(24.2)	－	－	－	(内)淡白色 (外)淡黄白色	ナデ	ナデ	口縁端部に４条１単位の斜格子文、口縁上面に刺突列点文、円形浮文貼付、３条１単位の斜格子文	やや不良	密（１㎜程度の白色砂礫を含む）	
107－７	80	Ⅷ区		ＳＸ１６	弥生土器	甕	１／３ (口縁部)	(25.0)	－	－	－	(内)黒褐色 (外)暗黄褐色	ハケメのちナデ	ナデ、ハケメのちナデ	指頭圧痕	やや不良	１㎜程度の白色砂礫を含む	
107－８	80	Ⅷ区		ＳＸ１６	弥生土器	壺	１／10	(25.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ナデ	口縁部に３条の凹線文のち２方向の斜状刻目文	やや不良	0.1㎜程度の砂粒を多く含む	
107－９	80	Ⅷ区Ａ		ＳＸ１６	弥生土器	壺	１／４ (口縁部)	27.6	－	－	－	(内)淡橙赤褐色 (外)淡橙赤褐色	ナデ	ナデ	口縁外面刻目文、波状文、口縁部上面に４条１単位の綾杉文	やや不良	0.1㎜以下の白色砂粒を含む	
107－10	80	Ⅷ区		ＳＸ１６	弥生土器	甕	１／10 (口縁部)	21.2	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡灰色	ハケメ、ナデ (口縁部)	ナデ(口縁部)、ハケメ		良好	密（0.5㎜程度の砂粒を多く含む）	内面口縁部と外面口縁部・胴部にスス付着
107－11	80	Ⅷ区		ＳＸ１６	弥生土器	壺	１／10以下 (口縁部)	21.6	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ナデ	口縁部上面に貼付突帯文、口縁部に３条１単位の斜格子文	やや不良		
107－12	80	Ⅷ区		ＳＸ１６	土師器	壺	１／３ (口縁部)	21.2	－	－	－	(内)淡黄桃色 (外)淡桃色	ハケメ、ナデ (口縁部)	ナデ(口縁部)、摩滅により不明		良好	0.1㎜以下の砂粒を多く含む	口縁部にスス付着
108－１	81	Ⅷ区		ＳＸ１７	弥生土器	甕	１／３ (口縁～肩部完存)	17.8	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ(口縁部)、ハケメ		良好	0.1～0.5㎜程度の砂粒目立つ	
108－２	81	Ⅷ区		ＳＸ１７	弥生土器	甕	１／４	(21.0)	－	－	－	(内)黄灰褐色 (外)黄灰褐色	ナデ(口縁部)、ハケメ	ナデ		やや不良	0.1㎜程度の砂粒含む	
108－３	81	Ⅷ区		ＳＸ１８	弥生土器	壺	１／４	(17.0)	－	－	－	(内)明褐灰色 (外)明褐灰色	ナデ	ナデ、頸部ミガキのちナデ	口縁部に斜状刻目文	良好	0.1～0.5㎜程度の白色砂粒目立つ	
108－４	82	Ⅷ区		ＳＸ１９	弥生土器	坏	１／２	10.0	4.1	(3.4)	－	(内)黄白灰色 (外)黄白灰色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ、指頭圧痕		良好	0.1㎜程度の白色砂粒含む	
108－５	82	Ⅷ区		ＳＸ２０	弥生土器	壺	完存 (底部)	－	－	6.8	－	(内)灰白色 (外)灰白色	ナデ	ミガキ、底部ミガキのちナデ		やや不良	0.1～0.2㎜程度の白色砂粒を多く含む	外部有黒斑
108－６	81	Ⅷ区		ＳＸ２１	弥生土器	高坏	１／４	(25.8)	－	－	－	(内)黄褐色 (外)黄褐色	ナデ	ミガキのちナデ	口縁端部わずかに凹線状に凹む	良好	１㎜程度の白色砂礫を含む	
108－７	82	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２１	弥生土器	壺	１／２	(19.4)	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡灰色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	口縁部に刻目文	良好	密（0.5㎜程度の白色砂粒目立つ）	
108－８	82	Ⅷ区		ＳＸ２１	弥生土器	甕	１／４	－	－	(6.8)	(29.6)	(内)淡黄色 (外)淡黄白色	ミガキ、ハケメ	ケズリ	肩部に斜状の刺突列点文	やや不良	密	外面に有黒斑、外面胴部にスス付着
109－１	82	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	壺	１／４	(17.6)	－	－	－	(内)淡灰褐色 (外)淡灰褐色	ナデ	ナデ（口縁部）	胴部に貝殻腹縁による刺突列点文	やや不良	0.1㎜程度の砂粒を多く含む	外面胴部摩滅により調整不明
109－２	82	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	壺	１／10 (口縁部)	28.0	－	－	－	(内)淡黄橙褐色 (外)淡黄橙褐色	ナデ	ナデ	口縁部上面に２条１単位の斜格子文と２列の孔列文、口縁部に３条１単位の斜格子文	やや不良		
109－３	82	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	高坏	１／４ (脚部)	－	5.1	(13.8)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ	ミガキのちナデ		やや不良	0.1㎜程度の白色砂粒目立つ	
109－４	82	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	壺	１／６ (口縁部)	(28.6)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ	摩滅が著しく不明	口縁部に２～３条１単位の斜格子文、口縁部上部面に２条１単位の斜格子文、６条の櫛描文その下に刺突文	良好	１㎜程度の白色砂礫を多く含む	
109－５	82	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	壺	１／８ (口縁部)	(30.4)	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ	口縁部に２条の凹線文のち斜状刻目文	良好	１㎜程度の砂礫を多く含む	
109－６	82	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	広口壺	１／６ (口縁部)	(31.4)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ナデ、ハケメ	ナデ	口縁部上面に３条１単位の斜格子文のち貼付突帯文、口縁端部に刻目文、頸部３条の貼付突帯文のちそれぞれ刻目文	やや不良	１㎜程度の砂礫を多く含む	
109－７	83	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	高坏	ほぼ完形 (１／１)	16.6	19.3	(11.8)	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	タテ方向ハケメ、ナデ(口縁部)、ヘラケズリ（脚部）	ミガキ、ナデ (底部)	口縁部に４条の凹線文、脚部に７：７：６条の沈線	良好	密（１～２㎜の砂礫を少量含む、白色の微砂粒を多く含む）	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
109－8	83	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	高坏	完存(脚部)	－	－	13.3	－	(内)褐色 (外)褐色	ナデ	細かなミガキのち丁寧なナデ		不良	１～２㎜程度の白色砂礫を含む	
109－9	82	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	壺	１／４	25.8	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)淡黄褐色	ナデ	ナデ、ミガキ	櫛状工具による列点文、口縁部に３条の凹線文、その上部に貝殻腹縁による刺突列点文	やや不良	密	
110－1	83	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	２／３	－	－	－	19.7	(内)淡橙灰色 (外)橙褐色	ハケメ	ハケメのちミガキ	胴部に刺突文	やや不良	0.5㎜程度の砂粒を含む	
110－2	83	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	１／４	(17.6)	(24.0)	5.0	(20.0)	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ、外面底部付近ミガキのちナデ		やや不良	0.1㎜程度の砂粒を含む	
110－3	83	Ⅷ区		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	１／４	(17.7)	－	－	(19.1)	(内)淡灰色 (外)暗褐色	ナデのち指押し、ナデ	ナデ、ハケメ	胴部に現状で２列の刺突列点文	良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
110－4	83	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	１／４(口縁部)	(20.7)	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ		やや不良	0.1㎜以下の砂粒を含む	外面口縁部にわずかにスス付着
110－5	83	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	１／２(口縁部)	(19.4)	－	－	－	(内)淡橙色 (外)淡橙色	ハケメ、ナデ	ナデ	口縁部に１条の凹線文	良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
110－6	83	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	壺	１／４(口縁部)	19.8	－	－	－	(内)淡黄褐色 (外)褐色	ナデ	ハケのちナデ		良好	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
110－7	83	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	１／10(口縁部)	(29.0)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ハケ、ナデ	頸部に貼付突帯文、口縁部に３条の凹線文	良好		
110－8	84	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	１／３(上部)	31.0	－	－	－	(内)淡灰白色 (外)淡灰白色	ナデ	ナデ、ハケ	頸部に貼付突帯文	やや不良	１㎜程度の白色砂礫を多く含む	
110－9	84	Ⅷ区Ｂ		ＳＸ２２南	弥生土器	甕	完存(底部)	－	－	5.2	－	(内)淡褐色 (外)淡黄灰褐色	ミガキのち一部ナデ	ミガキのちナデ		やや不良	１㎜程度の白色砂礫を含む	外面にわずかにスス付着、外面に有黒斑
110－10	84	Ⅷ区Ａ		ＳＸ２２南	土師器	甕	完存(底部)	－	－	6.5	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄色	ミガキ、ナデ	外面底部ハケメのち一部ナデ、外面胴部ミガキのち一部ナデ、ハケメ		良好	１～２㎜の白色砂礫を多く含む	
111－1	84	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	直口壺	１／３(口縁部)	(12.4)	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)暗淡黄灰色	ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ	口縁部上面に２条の凹線文	やや不良	0.1㎜程度の金雲母を含む	
111－2	84	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	高坏	１／４(口縁部)	(22.0)	－	－	－	(内)淡黄灰白色 (外)淡黄灰白色	ハケメのちナデ	ハケメのちナデ	口縁部上面に３条１単位の斜格子文、円形浮文貼付	良好	２㎜程度の砂礫を含む	
111－3	84	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	甕	１／６(口縁部)	(15.4)	－	－	－	(内)淡黄色 (外)淡黄色	ハケメ、ナデ	ナデ		不良	２㎜程度の砂礫目立つ	
111－4	85	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	甕	ほぼ完形(１／１)	7.9	8.0	3.6	7.6	(内)黒色 (外)灰黄色	ケズリ	ハケメ、指頭圧痕、ナデ		良好	微砂粒を含む	外面胴部にスス付着
111－5	84	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	甕	１／10	(18.4)	－	－	(19.2)	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰色	ハケメのちナデ	ハケメのちナデ	口縁部に１条の凹線文、胴部に貝殻腹縁による刺突列点文	やや不良		
111－6	85	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	甕	１／４	(14.4)	10.4	(5.5)	(12.7)	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデ	ミガキ、ナデ、底部付近ミガキのちナデ、指頭圧痕	口縁端部に強いナデがあるが、１条の凹線文の可能性もあり、肩部に木口による斜状刺突列点文	やや不良		
111－7	84	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	台付甕	完存(脚部)	－	－	6.0	－	(内)暗橙灰白色 (外)淡橙灰白色	ナデ	ミガキ、脚部裾ナデ		やや不良	0.5㎜程度の砂粒を含む	
111－8	84	Ⅷ区		ＳＸ２２北	弥生土器	甕	完存(底部)	－	－	5.4	－	(内)淡黒灰色 (外)淡黄灰褐色	ナデ	ミガキ、底部付近ミガキのちナデ		良好	１㎜程度の白色砂礫目立つ	
111－9	85	Ⅷ区		ＳＸ２３	弥生土器	甕	１／４以下	23.7	－	－	27.4	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ハケメ	ハケメ、ミガキ、胴部下半はハケメのちミガキ		良好	0.5㎜前後の砂粒を多く含む	
111－10	85	Ⅷ区		ＳＸ２３	弥生土器	甕	１／８(口縁部)	(24.0)	－	－	－	(内)淡黒褐色 (外)淡褐白色	ハケメ、ナデ	ナデ	口縁部３条の凹線文のち斜状の刻目文、頸部に貼付突帯文	不良	0.5～１㎜程度の砂粒を多く含む	
111－11	85	Ⅷ区		ＳＤ０１	弥生土器	甕	１／３(口縁部)	(22.9)	－	－	－	(内)淡黄色 (外)暗褐色	ナデ、指押し	ナデ	口縁部斜格子状の刻目文、頸部に貼付突帯文	良好	0.1～0.5㎜程度の白色砂粒を含む	
112－1	86	Ⅷ区Ｃ		ＳＸ２４	弥生土器	壺	１／５(口縁部)	(30.0)	－	－	－	(内)灰白色 (外)灰白色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に３条１単位の斜格子文	良好	１～２㎜大の砂礫を含む	
112－2	86	Ⅷ区Ｃ		ＳＸ２４	弥生土器	壺	１／８(口縁部)	30.6	－	－	－	(内)灰黄色 (外)灰黄色	粗いハケメ	ハケメのちヨコナデ	口縁部に３条１単位の凹線文、口縁部上面端部に刻目文	やや不良	金雲母含む	
112－3	86	Ⅷ区Ｃ		ＳＸ２４	弥生土器	壺	１／６(口縁部)	(34.0)	－	－	－	(内)灰黄色 (外)灰黄色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に２条の凹線のち櫛状工具による斜状刻目文、口縁部上面端部に刻目文、口縁部内面に櫛状工具による平行線文、波状文、平行線文	良好	0.1～0.5㎜程度の砂粒、金雲母を多く含む	

挿図番号	写真図版	地区	層位	出土位置	種類	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胴部(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	焼成	胎土	備考
112－4	86	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	壺	1／5(口縁部)	22.2	－	－	－	(内)オリーブ黒色～灰白色 (外)オリーブ黒色	ヨコナデ	ハケメのちヨコナデ	口縁部に3条の凹線文のち斜状の刻目文、口縁部上面に櫛状工具による波状文と刺突列点文	不良	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
112－5	86	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	直口壺	1／4(口縁部)	－	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデ、ハケメのちナデ	ハケメのちナデ	口縁端部に刻目文、口縁部上面に2条の凹線文	不良	0.1～2㎜程度の白色砂粒目立つ	
112－6	87	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	壺	2／5	21.1	－	－	－	(内)暗黄灰色 (外)淡灰白色 ※内外面ともに口縁部黒色	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	ハケメ	口縁部に3条の凹線文、口縁部上面に4条の凹線文、頸部に3条の凹線文	不良	1㎜程度の白色砂礫をやや多く含む	
112－7	86	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	壺	1／5(口縁部)	(13.0)	－	－	－	(内)淡橙灰白色 (外)淡橙灰白色	指ナデ痕、ハケメ	ナデ、ハケメ、ミガキ		やや不良	1～2㎜程度の白色砂礫を多く含む	
112－8	86	Ⅷ区C		SX24	土師器	甕	1／6(口縁部)	16.7	－	－	－	(内)暗灰色 (外)暗灰色	ナデ	ナデ、ハケメ		不良	0.1～0.2㎜程度の白色砂粒を少し含む	外面全面にスス付着
112－9	86	Ⅷ区		SX24	弥生土器	甕	1／10(口縁部)	21.6	－	－	－	(内)暗赤灰色 (外)暗赤灰色	ナデ、摩滅により不明	ナデ、摩滅により不明	口縁部に刻目文	やや不良	0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
112－10	86	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	甕	1／4以下	19.4	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデのちハケメ	ナデのちハケメ	口縁部に2条の凹線文、頸部に貼付突帯文	やや不良	0.1㎜程度の白色砂粒含む	
112－11	86	Ⅷ区C		SX24	土師器	甕	1／10(口縁部)	(18.8)	－	－	－	(内)暗褐色 (外)暗褐色	ナデ	ナデ	口縁部に2条の凹線文	不良	0.1㎜程度の砂粒目立つ	
112－12	86	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	高坏(鍔付)	1／10(口縁部)	(18.4)	－	－	－	(内)淡灰橙白色 (外)淡灰橙白色	ナデ	ナデ	口縁端部に刻目文	やや不良	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
112－13	86	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	高坏	1／4(口縁部)	27.7	－	－	－	(内)暗黄褐色 (外)暗黄褐色	ハケメのちミガキ	ハケメのちミガキ、口縁部付近ナデ	口縁部に刻目文	やや不良	0.1～0.2㎜程度の白色微砂粒を多く含む	外面胴部スス付着
112－14	87	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	壺	1／2(底部)	－	－	(8.6)	－	(内)淡褐灰色 (外)淡褐灰色	ハケメ	ミガキ、底部付近ミガキのち部分的ナデ		やや不良	1㎜程度の砂礫を含む	
112－15	87	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	高坏	完存(脚部)	－	－	13.0	－	(内)淡灰色 (外)淡灰褐色	ナデ、摩滅により不明	ナデ、ミガキ、摩滅により不明		やや不良	0.1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
112－16	87	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	高坏	完存(脚部)	－	－	14.6	－	(内)淡赤灰白色 (外)淡赤灰白色	ヨコナデ	ミガキ	頸部内面に絞り痕	やや不良	1～2㎜の白色砂礫を多く含む	
113－1	87	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	甕	1／3	27.9	－	－	－	(内)淡灰色 (外)淡灰色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に2条の凹線文のち斜状の刻目文、頸部に貼付突帯文	不良	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	
113－2	87	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	壺	1／2(胴・底部)	－	－	(11.2)	(42.6)	(内)淡灰白色 (外)淡灰白色	ハケメ	ヨコ、タテのミガキ、底部付近ミガキのちナデ		やや不良	0.5㎜程度の砂粒を多く含む	
114－1	87	Ⅷ区B		SX22南	弥生土器	(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)淡黄灰色 (外)淡橙灰褐色	－	ミガキ			1㎜程度の砂礫を多く含む	
114－2	88	Ⅷ区		SX22南	弥生土器	甕(焼成破損)	1／4	－	－	－	(61.1)	(内)黄褐色 (外)淡暗黄褐色	ハケメ、ミガキ	－	肩部に櫛状工具による刺突列点文	不良	0.5～1㎜程度の砂粒を多く含む	
114－3	88	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)暗黄色 (外)暗灰色	ナデのち指押し	－	肩部に櫛状工具による刺突列点文	不良	0.1～0.5㎜程度の砂粒多く含む	
114－4	88	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)淡白色 (外)淡黄灰色	ナデ、ミガキ	ミガキ		不良	0.1㎜程度の微砂粒に混じって2㎜大の石英を少量含む	
115－5	88	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)淡黄白色 (外)淡黄白色	ナデ(ミガキ?)	ミガキ		不良	0.2㎜程度の砂粒を多く含む	
115－6	88	Ⅷ区C		SX24	弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)灰色 (外)淡黄橙灰白色	ナデ	ナデ、一部ミガキ、指頭圧痕	底部充填粘土剥離	不良	1～2㎜の白色砂礫を少量含む	
115－7	88	Ⅷ区		SX13	弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)淡白色 (外)暗黄白色	ナデ	ミガキ		不良	0.5～1㎜程度の白色砂粒を多く含む	
115－8	88	Ⅷ区		SX01	弥生土器	(焼成破損)	－	－	－	(20.4)	－	(内)淡黄灰色 (外)淡黄灰白色	ナデ	ミガキ、ナデ		不良	1～2㎜の白色砂礫を多く含む	
115－9	88	Ⅷ区A	4		弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)暗黄灰色 (外)暗灰色	ミガキ	ミガキ		不良	0.1㎜程度の微砂粒多く含む	
116－10	89	Ⅷ区A	4		弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	(6.0)	－	(内)淡黒灰色 (外)淡橙灰褐色	ナデ	ナデ、ミガキ		不良	1㎜程度の白色砂礫を多く含む	
116－11	89	Ⅷ区C	4		弥生土器	壺(焼成破損)	－	(41.6)	－	－	－	(内)淡灰黒色 (外)淡灰黒色	ハケメ	ハケメ	頸部～肩部に7条以上の平行線文のち3条1単位の斜状刻目文、肩部に8条の平行線文、胴部に貝殻腹縁による斜状刺突列点文	不良	2㎜前後の白色砂礫目立つ	
116－12	89	Ⅷ区C	4		弥生土器	甕(焼成破損)	－	－	－	－	－	(内)暗黒色 (外)暗灰色	ハケメ	ミガキ、ハケメ		不良	0.2㎜程度の白色砂粒を多く含む	
116－13	89	Ⅷ区C	4		弥生土器	壺(焼成破損)	1／3以下	28.8	－	－	－	(内)淡褐色 (外)淡褐色	ナデ	ナデ	口縁部に2条の斜状刺突列点文	不良	0.5㎜程度の白色砂粒を多く含む	

表４　中野美保遺跡出土の焼成失敗品（弥生土器）

分　類	挿図番号	写真図版	地　区	出土位置	種　類	器種(部位)	備　考
焼成時破裂土器片	114－１	87	Ⅷ区Ｂ	ＳＸ２２南	弥生土器	(胴部)	縁辺部は一方向のみに観察できる。１／８が欠損し、僅かに淡い黒化層が見られる。
焼成破裂痕土器	114－２	88	Ⅷ区Ｃ	ＳＸ２２南	弥生土器	(胴部)	一部分に４～５の弧状を描く破裂痕跡が観察できる。破裂痕跡の際は薄く立ち上がる。破裂痕跡は器壁が最も薄い箇所で２㎜に満たない。その破断面には黒化層は見られない。破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。
焼成破裂痕土器	114－３	88	Ⅷ区Ｃ	ＳＸ２４	弥生土器	(胴部)	一部分に弧状を描く破裂痕跡が観察できる。破裂痕跡の際は薄く立ち上がる。
焼成破裂痕土器	114－４	88	Ⅷ区Ｃ	ＳＸ２４	弥生土器	(胴部)	一部分に弧状を描く破裂痕跡が観察できる。破裂痕跡の際は薄く立ち上がる。破裂痕跡は器壁が最も薄い箇所で２㎜に満たない。ただし、その一部は欠損しているため、破断面に淡い黒化層が見られる。破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。
焼成破裂痕土器	115－５	88	Ⅷ区Ｃ	ＳＸ２４	弥生土器	(胴部)	破裂痕は外面に１箇所観察できる。5.9×3.7cm程度の楕円形で、縁辺部が緩やかに剥離した深さ２㎜のクレーター状を呈する。一方、2.3×1.7cmの楕円形で、深さ１㎜程度のパッチ状の破裂痕も見られる。黒化層が観察できるため、二次的な火熱を受けて剥離したものと考えられる。また、内面にも縁辺部が緩やかに剥離した破裂痕が見られる。破裂痕には黒化層は見られない。ただし、縁辺部の一部が段状のになっているため、焼成後の剥離である可能性も捨てきれない。
焼成破裂痕土器	115－６	88	Ⅷ区Ｃ	ＳＸ２４	弥生土器	(底部)	底部に充填した粘土が剥離している。その剥離面には黒化層が見られない。焼成時に剥離した可能性が考えられる。
焼成破裂痕土器	115－７	88	Ⅷ区Ａ	ＳＸ１３	弥生土器	(胴部)	一部分に弧状を描く破裂痕跡が観察できる。縁辺部は緩やかで、深さ６㎜のクレーター状を呈す。破断面の厚さは３㎜で、一部を除き黒化層は見られない。このことから、焼成時の破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。
焼成破裂痕土器	115－８	88	Ⅷ区	ＳＸ０１	弥生土器	(底部付近)	一部分に弧状を描く破裂痕跡が観察できる。縁辺部は緩やかで、深さ７㎜程度のクレーター状を呈す。破断面の厚さは３㎜で黒化層が見られる。
焼成破裂痕土器	115－９	88	Ⅷ区Ａ		弥生土器	(胴部)	三つの連続した弧状を描く破裂痕跡と現状で径2.5cm程度の半円形の破裂痕跡が観察できる。前者の縁辺部は緩やかで、現状の深さは３㎜程度である。破断面の厚さは３㎜で、一部に黒化層が見られない幅５㎜程度の箇所が観察できる。このことから、焼成時の破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。後者の縁辺部は緩やかで、現状の深さは２㎜程度である。
焼成破裂痕土器	116－10	89	Ⅷ区Ａ		弥生土器	(底部付近)	一部分に弧状を描く破裂痕跡が観察できる。縁辺部は緩やかで、深さ２㎜程度のクレーター状を呈す。また、黒化層が見られない厚さ２㎜、幅７㎜の破断面が破裂痕跡に観察できることから、焼成時の破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。
焼成破裂痕土器	116－11	89	Ⅷ区Ｃ		弥生土器	(胴部)	三つの連続した弧状を描く破裂痕跡が観察できる。縁辺部は緩やかで、現状の深さは３㎜程度である。破裂痕跡の破断面の厚さは１～２㎜で、その全てに黒化層は見られない。黒化層は破裂痕跡以外の断面で観察できる。このことから、焼成時の破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。また、内面の90％が層状に剥離しており、そこには黒化層は見られない。
焼成破裂痕土器	116－12	89	Ⅷ区Ｃ		弥生土器	(胴部)	一部分に弧状を描く破裂痕跡が観察できる。縁辺部は緩やかで、深さ２㎜程度のクレーター状を呈す。また、黒化層が見られない厚さ２㎜、幅2.5cmの破断面が破裂痕跡に観察できることから、焼成時の破裂により土器に穴が開いていた可能性が考えられる。また、内面の50％が層状に剥離しており、そこには黒化層は見られない。
焼成破裂痕土器	116－13	89	Ⅷ区Ｃ		弥生土器	壺（口縁）	３～４の連続した弧状を描く破裂痕跡が観察できる。縁辺部は緩やかで、現状の深さは２㎜程度である。破裂痕跡の破断面の厚さは１～２㎜で、その全てに黒化層は見られない。黒化層は破裂痕跡以外の断面で観察できる。このことから、焼成時の破裂により土器が損壊、あるいは穴が開いていた可能性が考えられる。また、内面の40％が層状に剥離しており、そこには黒化層は見られない。また、その断面にも黒化層は見られない。

表５　中野美保遺跡出土銭観察表

挿図番号	写真図版	名　　称	調査区	法　　量　(cm)						重さ（g）	初 鋳 年 代
				a	b	c	d	e	f		
11－1	６６	至道元宝	Ⅱ区	2.43	2.47	1.72	1.70	0.80	0.75	4.4	995年
11－2	６６	永楽通宝（銅）	Ⅴ区	2.48	2.50	2.12	2.15	0.69	0.72	3.0	1408年
11－3	６６	無文銭	Ⅴ区	2.26	1.75	－	－	0.62	0.66	2.0	－

表６　中野美保遺跡出土石器・石製品観察表

挿図番号	写真図版	種　　別	調 査 区	出土位置	法　　量				石　　材	備　　考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
21－10	４０	紡錘車	Ⅲ区		外径 5.0	孔径 0.8	2.5	－	－	灰白色
40－6	４９	紡錘車	Ⅶ区		－	－	－	－	－	同心円上に居鉅歯文がめぐる
117－1	９０	石鏃	Ⅷ区	ＳＸ０５	2.1	1.4	0.4	0.64	黒曜石	
117－2	９０	石鏃	Ⅷ区	ＳＸ０１	2.0	1.8	0.4	0.71	黒曜石	
117－3	９０	剥片	Ⅷ区Ｂ		3.8	2.1	1.3	6.52	黒曜石	
117－4	９０	管玉	Ⅴ区	ＳＸ０１	1.3	0.38～0.4	－	0.25	碧玉	くすんだ薄緑色
117－5	９０	紡錘車	Ⅷ区Ｃ		(3.6)	－	1.0	7.2	－	
117－6	９０	軽石（火山彈）	Ⅷ区Ａ		7.1	4.5	4.7	47.36	－	黒曜石付着
117－7	９０	石斧	Ⅷ区Ａ	ＳＸ０１	7.8	4.2	3.5	198.7	－	再利用品
117－8	９０	石斧	Ⅷ区Ｃ	ＳＸ２４	14.1	(2.7)	4.4	244.5	－	
117－9	９０	石斧	Ⅷ区Ｂ	ＳＸ２２南	15.9	4.7	2.8	349	－	
118－1	９０	石斧	Ⅷ区Ｃ		(10.7)	4.8	4.3	384	－	
118－2	９０	石斧	Ⅷ区Ｂ		(8.9)	4.5	3.6	237.6	－	基部敲打痕
118－3	９０	石斧	Ⅷ区Ａ		11.3	4.2	3.7	267.4	－	ほぼ完形、再利用品
118－4	９０	石斧	Ⅷ区Ｂ		(9.2)	5.2	4.1	340	－	刃部・基部に敲打痕、二次利用
118－5	９０	石斧	Ⅷ区Ｂ		(14.2)	4.6	4.0	425.7	－	
118－6	９１	すり石	Ⅷ区Ａ		(9.9)	8.8	4.7	676.1	－	
118－7	９０	石斧	Ⅷ区Ａ		(14.5)	5.5	3.3	431.6	－	
118－8	９１	石皿	Ⅷ区Ｂ	ＳＸ１３	24.15	16.5	5.6	3140	－	
119－1	９１	大形石包丁様石器	Ⅷ区Ａ		8.0	18.2	1.5	329.4	－	
119－2	９１	穂摘具か？	Ⅷ区	ＳＸ２１	8.0	9.1	1.1	126.4	－	未完成品
119－3	９１	穂摘具	Ⅳ区		7.6	10.0	1.6	127.47	－	未完成品
119－4	９１	穂摘具	Ⅷ区Ａ		(4.70)	(6.60)	(0.70)	30.3	－	未完成品
119－5	９１	穂摘具	Ⅳ区		9.2	14.0	1.3	211.56	－	未完成品
119－6	９１	砥石	Ⅷ区	ＳＸ２２南	13.55	5.05	1.5	188.3	－	
119－7	９１	砥石	Ⅳ区		9.8	2.8	1.0	48.59	－	
119－8	９１	砥石	Ⅷ区Ｃ		(9.35)	3.8	2.45	161.5	－	
119－9	９１	砥石	Ⅱ区		(12.1)	5.6	5.7	475.95	－	端部を含めて７面の使用痕
119－10	９１	砥石	Ⅶ区		(13.15)	7.3	4.3	457.13	－	淡黄灰色
119－11	９１	砥石	Ⅶ区		(8.7)	5.9	3.7	191.4	－	
119－12	９１	筋砥石	Ⅰ区		7.3	4.5	3.5	121.42	－	

表７　中野美保遺跡出土木製品観察表

挿図番号	写真図版	調査区	出土位置	種　類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ/太さ（cm）	木取(あり○)	備　　考
52・53	54	Ⅶ区	２号集石付近	家具か？	81.6	20.0	0.7	○	ベンガラ塗布
72－１	56	Ⅷ区		井戸枠板	115.1	30.7	2.3	○	
72－２	56	Ⅷ区		井戸枠板	116.8	25.7	4.1	○	
73－１	56	Ⅷ区	建物１	柱根	36.8	25.7	－	×	
73－２	56	Ⅷ区	建物１	柱根	41.1	24.4	－	×	
120－１	92	Ⅲ区	水田畦畔	漆器	9.3(底径)	－	－	×	内側は赤漆塗り、外側は黒漆塗り、赤漆の模様あり
120－２	92	Ⅵ区	水田作土	漆器	7.8(底径)	－	－	×	内側は赤漆塗り、外側は黒漆塗り、赤漆の模様あり
120－３	92	Ⅵ区	３層	容器の板底	15.1	2.0	0.8	○	
120－４	92	Ⅵ区	３層	不明	20.9	4.1	1.7	○	
120－５	92	Ⅵ区	３層	不明	16.4	5.0	－	○	
120－６	92	Ⅵ区	３層	容器の板底	15.8	2.8	1.6	○	
120－７	92	Ⅵ区	３層	不明	13.0	3.9	3.7	○	
120－８	92	Ⅵ区	３層	容器の蓋（底板）	8.3	7.5	0.5	○	
120－９	92	Ⅵ区	３層	不明	22.7	5.2	1.9	○	
121－１	93	Ⅴ区	３層	板草履	21.1	7.0	0.1	○	
121－２	93	Ⅴ区	３層	板草履	6.4	2.8	－	○	
121－３	93	Ⅴ区	３層	容器の蓋（底板）	8.7	3.7	6.5	○	
121－４	93	Ⅴ区	３層	容器の蓋（底板）	9.1	6.6	0.7	○	
122－１	93	Ⅲ区	４層	不明	52.0	29.0	2.4	○	調整痕観察可
122－２	94	Ⅵ区	４層	杭	169.0	12.6	6.4	○	調整痕観察可
122－３	94	Ⅵ区	４層	不明	107.5	4.8	4.7	○	
122－４	93	Ⅵ区	３層	（底板）	42.9	7.4	－	○	
122－５	92	Ⅵ区	３層	不明	51.5	4.5	1.3	○	調整痕観察可
122－６	94	Ⅵ区	４層	不明	83.3	16.6	2.6	○	
	95－１	Ⅵ区		不明	41.7	5.4	1.9	○	
	95－２	Ⅵ区		不明	28.8	16.0	6.5	○	
	95－３	Ⅵ区		杭	26.8	4.2	2.6	○	
	95－４	Ⅵ区		杭	26.7	4.7	2.3	○	
	95－５	Ⅵ区		不明	14.6	12.7	6.6	○	
	95－６	Ⅵ区		不明	14.8	8.3	2.4	○	
	95－７	Ⅵ区		不明	78.0	3.0	2.7	○	
	95－８	Ⅵ区		不明	22.7	3.2	0.8	○	
	95－９	Ⅵ区		不明	51.3	2.9	1.2	○	
	95－10	Ⅰ区	水田畦畔	不明	6.7	1.6	0.4	○	
	95－11	Ⅴ区		不明	10.5	2.8	0.5	○	
	95－12	Ⅴ区	水田畦畔	漆器（細片）	－	－	－	×	
	95－13	Ⅴ区		不明	13.5	2.1	0.2	○	
	95－14	Ⅰ区		不明	6.9	3.6	2.5	○	

表８　中野美保遺跡出土金属器観察表

挿図番号	写真図版	名　称	調査区	法　　量（mm）							備　　考
				a	b	c	d	e	f	g	
83－３	66	耳環	Ⅷ区Ｃ	21.3	23.2	14.7	6.7	4.5	5.1	6.6	金箔加工、剥離が目立つ

表９　中野美保遺跡検出弥生墳丘墓計測値（m）

遺　構　名	計　測　箇　所							備　　考
	a	b	c	d	e	f	g	
中野美保１号墓	14	15	9.5	11	3.5	2.5	3.5	北東突出部
					3	2	3.5	南東突出部
中野美保２号墓	－	－	4.5	5.5	－	－	－	－

表10　中野美保遺跡検出建物一覧表

建　物	地　区	挿図番号	写真図版	柱　間	梁行（m）	桁行（m）	梁間（尺）	桁間（尺）	面積（㎡）	主　軸	時　代
1	Ⅴ区	29，30	6	２間×（２間）	4.0	4.3	7	7	17.2	Ｎ５°Ｅ	奈良～飛鳥
2	Ⅴ区	29，30	6	２間×（３間）	3.8	6.3	6	7	23.94	Ｎ４°Ｅ	奈良～飛鳥
1	Ⅷ区	62，67	27，28	２間×３間	4.7	6.6	8	7	31.02	N89°W	奈良～飛鳥
2	Ⅷ区	62，67	28	２間×４間	2.4	6.4	4	5	15.36	N88°W	奈良～飛鳥
3	Ⅷ区	62，68	28	１間×４間	2.6	6.0	9	5	15.6	N88°W	奈良～飛鳥
4	Ⅷ区	62，68	28	２間×４間	4.6	7.2	8	6	33.12	N81°W	奈良～飛鳥
5	Ⅷ区	62，69	28	２間×３間	4.2	4.8	7	5	20.16	N82°W	奈良～飛鳥
6	Ⅷ区	62，69	28	１間×３間	1.7	5.5	6	6	9.35	N79°W	奈良～飛鳥
7	Ⅷ区	62，70	28	１間×４間	4.1	6.7	14	6	27.47	N14°E	奈良～飛鳥
8	Ⅷ区	62，70	28	１間×４間	3.6	6.9	12	6	24.84	N16°E	奈良～飛鳥
9	Ⅷ区	62，71	28	２間×２間	3.7	3.8	6	6	14.06	N85°W	奈良～飛鳥

※尺は30cmと仮定して計算した。

表11　中野美保遺跡検出建物計測表

（Ⅴ区）

建物１計測表

規模		梁行き						桁行き					
		（２間（4.0m））						２間（4.3m）					
主軸		N５°E											
柱穴（cm）	番号	P１	P２	P３	P４	P５	P６	P７					
	上面径(cm)	34×26	34×32	32×30	36×32	40×34	44×32	40×34					
	底の標高(m)	3.74	3.92	3.78	3.78	3.82	3.70	3.84					
柱間距離（m）		P１－P２	P２－P３	P３－P４	P４－P５	P５－P６	P６－P７						
		2.1	1.9	2.2	2.1	2.1	1.8						

建物２計測表

規模		梁行き						桁行き					
		２間（3.8m）						（３間（6.3m））					
主軸		N４°E											
柱穴（cm）	番号	P１	P２	P３	P４	P５	P６	P７	P８	P９			
	上面径(cm)	58×46	54×42	50×42	54×46	44×40	42×34	68×44	44×44	44×34			
	底の標高(m)	3.82	3.84	3.78	3.80	3.90	3.80	3.84	3.86	3.86			
柱間距離（m）		P１－P２	P２－P３	P３－P４	P４－P５	P５－P６	P６－P７	P７－P８	P８－P９				
		2.2	1.9	2.2	1.8	2.0	2.1	2.0	2.2				

（Ⅷ区）

建物１計測表

規模		梁行き						桁行き					
		２間（4.7m）						３間（6.6m）					
主軸		N89°W											
柱穴（cm）	番号	P１	P２	P３	P４	P５	P６	P７	P８	P９	P10		
	上面径(cm)	60×44	48×44	50×42	50×50	60×54	48×42	44×40	42×40	50×42	50×50		
	底の標高(m)	3.67	3.68	3.72	3.66	3.74	3.67	3.74	3.74	3.70	3.56		
柱間距離（m）		P１－P２	P２－P３	P３－P４	P４－P５	P５－P６	P６－P７	P７－P８	P８－P９	P９－P10	P10－P１		
		2.2	1.9	2.5	2.4	2.2	2.0	2.1	2.3	2.0	2.7		

建物２計測表

規模		梁行き						桁行き					
		２間（2.4m）						４間（6.4m）					
主軸		N88°W											
柱穴（cm）	番号	P１	P２	P３	P４	P５	P６	P７	P８	P９	P10		
	上面径(cm)	34×32	32×28	48×42	88×54	26×26	48×44	48×48	46×60	44×34	48×30		
	底の標高(m)	3.80	3.74	3.75	3.58	3.76	3.70	3.70	3.69	3.70	3.74		
柱間距離（m）		P１－P２	P２－P３	P３－P４	P４－P５	P５－P６	P６－P７	P７－P８	P８－P９	P９－P10	P10－P１		
		1.4	1.2	1.0	2.8	2.4	1.7	1.6	1.5	1.5	2.2		

建物３計測表

規模		梁行き						桁行き					
		１間（2.6m）						４間（6.0m）					
主軸		N88°W											
柱穴（cm）	番号	P１	P２	P３	P４	P５	P６	P７	P８	P９			
	上面径(cm)	44×30	24×20	36×34	42×32	38×36	36×34	44×40	44×44	78×52			
	底の標高(m)	3.65	3.82	3.74	3.67	3.72	3.76	3.56	3.81	3.72			
柱間距離（m）		P１－P２	P２－P３	P３－P４	P４－P５	P５－P６	P６－P７	P７－P８	P８－P９	P９－P１			
		1.7	1.5	1.5	1.3	2.6	2.0	1.8	2.2	2.5			

建物４計測表

規模		梁行き						桁行き					
		２間（4.6m）						４間（7.2m）					
主軸		N81°W											
柱穴（cm）	番号	P１	P２	P３	P４	P５	P６	P７	P８	P９	P10	P11	P12
	上面径(cm)	36×32	34×32	52×44	46×44	44×44	28×24	42×40	44×30	30×24	66×56	40×44	46×26
	底の標高(m)	3.64	3.72	3.48	3.62	3.65	3.73	3.68	3.76	3.88	3.60	3.60	3.62
柱間距離（m）		P１－P２	P２－P３	P３－P４	P４－P５	P５－P６	P６－P７	P７－P８	P８－P９	P９－P10	P10－P11	P11－P12	P12－P１
		1.7	1.8	1.6	1.9	2.0	2.3	2.1	1.6	1.5	2.0	2.2	2.4

建物５計測表

規模		梁行き						桁行き					
		2間（4.2m）						3間（4.8m）					
主軸		N82° W											
柱穴（cm）	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10		
	上面径(cm)	62×50	66×54	66×54	56×48	34×30	50×48	62×48	58×50	66×54	48×44		
	底の標高(m)	3.68	3.72	3.68	3.73	3.86	3.85	3.69	3.85	3.71	3.60		
柱間距離（m）		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9	P9－P10	P10－P1		
		1.9	1.4	1.5	2.1	2.1	1.6	1.5	1.7	1.9	2.1		

建物６計測表

規模		梁行き						桁行き					
		1間（1.7m）						3間（5.5m）					
主軸		N79° W											
柱穴（cm）	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8				
	上面径(cm)	98×60	32×28	30×30	36×32	36×42	56×34	40×36	38×34				
	底の標高(m)	3.76	3.78	3.79	3.75	3.80	3.81	3.70	3.68				
柱間距離（m）		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P1				
		1.6	2.3	1.6	1.5	1.8	1.9	1.8	1.7				

建物７計測表

規模		梁行き						桁行き					
		1間（4.1m）						4間（6.7m）					
主軸		N14° E											
柱穴（cm）	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10		
	上面径(cm)	38×34	56×42	52×38	52×42	32×26	44×32	38×28	62×50	86×78	48×46		
	底の標高(m)	3.73	3.71	3.68	3.62	3.61	3.59	3.72	3.69	3.71	3.72		
柱間距離（m）		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9	P9－P10	P10－P1		
		1.5	1.8	1.7	1.5	4.1	1.7	2.0	1.5	1.5	4.0		

建物８計測表

規模		梁行き						桁行き					
		1間（3.6m）						4間（6.9m）					
主軸		N16° E											
柱穴（cm）	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10		
	上面径(cm)	68×58	42×38	42×40	74×46	32×32	82×56	38×38	58×28	42×34	74×56		
	底の標高(m)	3.67	3.70	3.57	3.64	3.54	3.47	3.71	3.70	3.72	3.70		
柱間距離（m）		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9	P9－P10	P10－P1		
		1.5	1.6	1.9	1.7	3.7	1.8	1.8	1.2	2.1	3.6		

建物９計測表

規模		梁行き						桁行き					
		2間（3.7m）						2間（3.8m）					
主軸		N85° W											
柱穴（cm）	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9			
	上面径(cm)	28×26	34×30	28×22	28×26	34×32	40×38	28×28	34×28	32×30			
	底の標高(m)	3.75	3.68	3.69	3.71	3.68	3.68	3.70	3.70	3.70			
柱間距離（m）		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9	P8－P1	P2－P9	P4－P9	P6－P9
		2.0	1.8	1.9	1.8	1.8	1.6	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8

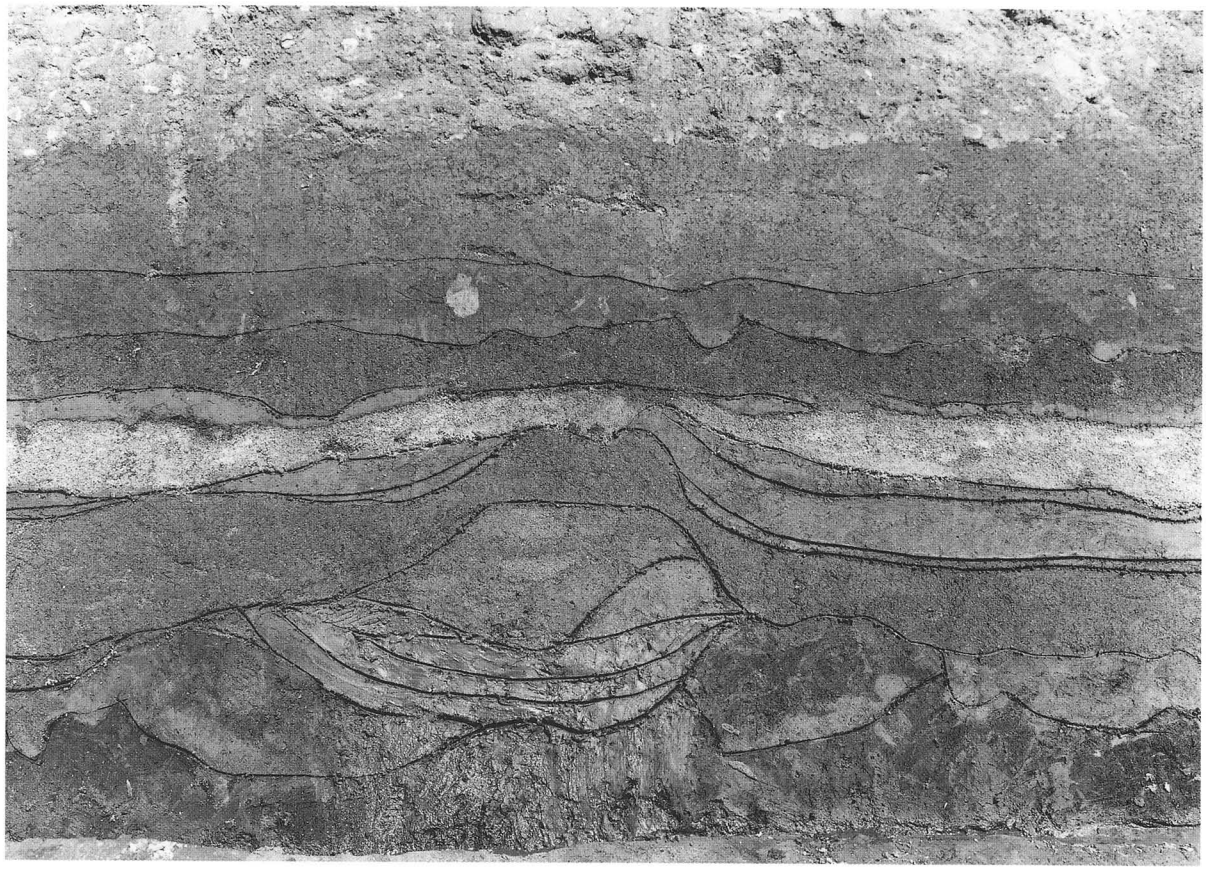
Ⅰ区中世水田遺構（北から撮影）

Ⅰ・Ⅱ区中世水田遺構（西から撮影）

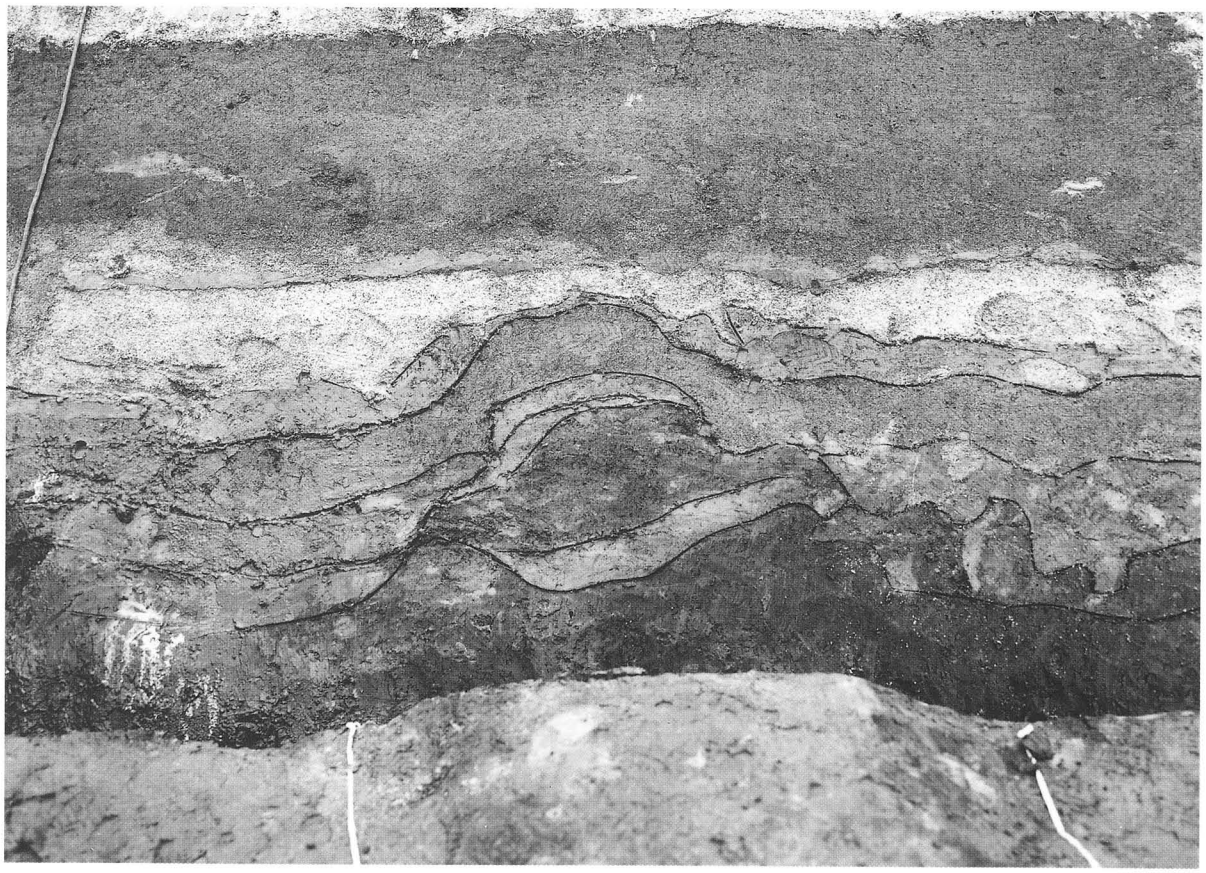
図版 2

Ⅱ区西半・Ⅳ区中世水田遺構（東から撮影）

Ⅲ区中世水田遺構（北西から撮影）



Ⅱ区東壁土層断面（西から撮影）



Ⅳ区西壁土層断面（東から撮影）